教育委員会の所管事務に係る 点検・評価報告書

(令和2年度事業)

令和3年9月 桑 折 町 教 育 委 員 会

目 次

第1 点検及	なび評価の概要	
1 はし	じめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 評価	fiの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 点	原検及び評価の対象	
(2) 点	原検及び評価の方法	
3 外音	『有識者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4 報告	5及び公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第2 教育委	受員会の事務の管理及び執行状況	
○令和2年	F度桑折町教育委員会重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・·	3
○乳幼児倪	R育と教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1 乳幼	り児保育・教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
2 子と	ざも・子育て支援事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
○学校教育		10
1 学力	7向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	15
2 体力	7向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	16
3 心の)教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 🏻	17
4 70	つ他の取組	
・特別	支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
・その)他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ :	19
○生涯学習	3	20
I - 1	生涯学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
I - 2	ライフステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実・・・・・・ 2	24
I - 3	社会教育団体の活動奨励・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
I - 4	青少年体験活動の積極的推進・・・・・・・・・・・・・・・・	26
I - 5	心を豊かにする読書活動の充実・・・・・・・・・・・・・・	27
I - 6	芸術・文化団体活動の奨励・支援・・・・・・・・・・・・・・・	28
I - 7	社会教育施設の効率的・効果的な管理運営・・・・・・・・・・・・・・	29
II - 1	社会体育事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
II - 2	社会体育施設の効率的・効果的な管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
III - 1	「桑折町歴史的風刺維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進	32
III - 2	史跡西山城跡保存整備事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
III - 3	旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進・・・・・・・・・	34

第3	教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況	
	学校経営評価報告書(小学校4校、中学校1校) ・・・・・・・・・・ 35	5
<u></u> :	学校経営自己評価票(小学校4校、中学校1校) ・・・・・・・・・・・ 53	3
第4	教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況	
\bigcirc	こども園経営評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65	3
Oi	経営自己評価票(幼稚園 1 園、保育所 1 所) ・・・・・・・・・・・・ 6'	7
第 5	第三者評価委員会による評価	
0	3和2年度第三者評価委員会によるスケジュール・・・・・・・・・・・・ 7	1
\bigcirc	第三者評価委員会開催状況及び協議内容	
	第1回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72	2
	第2回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74	4
0.	原検・評価の仕方に係る評価委員からの指摘・提案等まとめ・・・・・・・・・ 79	9
第6	参考資料	
\bigcirc	を折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者委員会設置に関する規則	
\bigcirc	を折町の 15 歳のめざす姿	
0	介和 2年度 学力向上推進計画	
0	介和2年度 桑折町子どもの体力向上プラン	
0	介和2年度 醸芳保育所・醸芳幼稚園 経営・運営ビジョン	
0	↑和2年度 学校経営・運営ビジョン & 学力向上グランドデザイン	
	桑折町立醸芳小学校	
	桑折町立睦合小学校	
	桑折町立半田醸芳小学校	
	桑折町立伊達崎小学校	
	桑折町立醸芳中学校	

第1 点検及び評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされています。

桑折町教育委員会では、同法の規定及び桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則に基づき、教育委員会の重点施策について点検・評価を実施するものです。

[抜粋] 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号) (教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の進め方

- (1) 点検及び評価の対象
 - ① 「令和2年度桑折町教育委員会重点」に掲げた取組み関する自己評価
 - ② 町立小中学校の学校経営評価
 - ③ 町こども園の園経営評価
- (2) 点検及び評価の方法

(1)の①については、それぞれの担当者による自己評価(*)と教育委員評価、(1)の②・③ については小中学校長・こども園長による自己評価を行い、これに対し、学識経験を有す る者による「第三者評価」を行います。

評定については、4段階評価(A:大変良い、B:良い、C:やや悪い、D:悪い)で行います。

*生涯学習・スポーツ関係は社会教育委員、文化財関係は文化財保護審議委員による評価も付す。

3 外部有識者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、外部有識者による知見を活用するため「第三者評価委員会|

を設置し、教育施策の一層の改善・充実を図ります。

[第三者評価委員]

- 岡 崎 一 也 (元 伊達市立梁川小学校長・伊達地区小中学校長協議会長)
- 佐久間敏彦 (現 福島市生涯学習課生涯学習指導員・元 福島県教育庁県北教育 事務所社会教育課長)
- 岡 田 和 人 (前 町PTA連絡協議会長)

4 報告及び公表

点検及び評価結果をまとめた報告書は議会へ提出するとともに、町公式ホームページへの 掲載により公表します。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

令和2年度 桑折町教育委員会重点

I 基本方針

復旧と復興から創生をめざす桑折町総合計画『献上桃の郷こおり創生プラン』に 基づき、町の未来像「みんなとつながり みんなが活躍できる 安心のまち 桑折」 の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

Ⅱ 基本目標

「志高い人材を育む"学び"の醸成」を推進するため、次の目標を定める。

- 1 知・徳・体の基礎を身につけ、高い志を持った「桑折町の15歳のめざす姿」の実現
- 2 保育所・幼稚園から小学校・中学校までの育ちと学びの一貫性を大切にした教育の推進
- 3 各世代の学びを醸成する生涯学習活動の推進,社会体育・生涯スポーツ活動、 文化芸術活動の振興

Ⅲ 重点施策

- 1 子育て支援
 - 子ども・子育て支援事業の推進

[こども教育課]

○ 青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

[生涯学習課]

- 2 乳幼児保育と教育
 - 乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援 〔こども教育課〕
- 3 小中学校教育
 - 教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援

[こども教育課]

- 4 生涯学習
 - 生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化 交流の促進 〔生涯学習課〕
- 5 生涯スポーツ
 - 健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実 〔生涯学習課〕
- 6 歴史まちづくり
 - 文化財の保護と活用、「歴史的風致維持向上計画」の推進 〔生涯学習課〕

乳幼児保育・教育の重点

○ 保育・教育内容の充実及び安全・安心な教育環境の整備を図り、知・徳・体バラ ンスの取れた質の高い教育を推進し、心豊かにたくましく生きる子どもたちを育 成する。 ○ 「桑折町の15歳のめざす姿」の実現をめざし、保育所、幼稚園から小学校、中 学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切した教育を推進する。 ○ 子どもの健やかな成長と保護者が安心して子育てできる支援事業の推進及び環 境整備に努める。 1 乳幼児保育・教育の充実 (1)乳幼児が安全安心に保育・教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。 ① 発達に即した環境の整備と施設・設備の点検を実施する。 □ 日常的な施設・設備の安全点検実施 ② 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底を図る。 □ 実効性ある避難訓練等の実施 □ 通園指導による交通安全啓発活動の実施 ③ 食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。 □ 食品のモニタリングと結果の公表 (2) 心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた 質の高い教育を推進する。 ① 保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。 □ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指した計画的・系統的な指導の充実。 □ 環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動の実施 ② 心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。 □ 幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施 □ 自己表出できる友達関係の育成 ③ 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。 □ 体力向上1園(学級)1実践の取組 □ 発達年齢に応じた体を動かす遊びの充実 □ 外部講師による運動遊び、ダンス教室の実施 ④ 読書活動の推進を図る。 □ 絵本コーナーの充実と活用 □ 絵本の積極的貸し出し

□ 異文化体験活動の推進

□ 家庭での読み聞かせの奨励

⑤ 文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。

③ 坩	也域の教育力を生かした保育・教育を推進する。
	保護者の園行事等への参加
	地域資源の積極的な活用
2 子ども・	子育て支援事業の推進
(1) 多様な	よ子育て家庭に対応した事業の推進に努める。
① 第	尿庭の教育力向上を図る。
	『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』(川島隆太 博士著)
	を活用した家庭の教育力向上
② 伢	R護者の就労等へ対応した保育所運営、預かり保育・放課後児童健全育成事業の
力	で実を図る。
	待機児童ゼロの継続
	預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施
	幼稚園や小学校、保護者との情報の共有化
	預かり・放課後児童保育の長期休業中等を中心とした体験活動の充実
	預かり・放課後児童保育の特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充
実	
	保育所及び支援員の確保と保育の質の維持向上
3 7	一育て世代に対応した経済的支援の推進に努める。
	入園児への入園祝い品(制服)支給事業の実施
	給食費保育者負担の軽減
	在園・在所児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施

重点施策…乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援

1 乳幼児保育・教育の充実

こども教育課

重 点 施 策	 (1)乳幼児が安心・安全に保育・教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。 (2)心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進する。 (3)特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制の確立と指導力の向上に努める。 (4)異校種の教育内容や指導の在り方について共通理解を図り、円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。 (5)家庭や地域社会との連携を図る。
重点項目	① 発達に即した環境の整備と施設・設備の点検を実施する。 ② 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底を図る。 ③ 食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。 ④ 保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。 ⑤ 心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。 ⑥ 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。 ⑦ 読書活動の推進を図る。 ⑧ 文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。 ⑨ 英語に親しむ活動の充実を図る。 ⑩ 総合的な指導力、保育力の向上に努める。 ⑪ 特別な支援を必要とする乳幼児への支援体制を確立する。 ⑫ 特別な支援を必要とする乳幼児への支援内容の充実を図る。 ② 特別な支援を必要とする乳幼児への支援内容の充実を図る。 ⑤ こども園内の連携・交流を推進する。 ⑥ 小・中学校との連携・交流を推進する。 ⑤ 望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みを推進する。 ⑥ 虫歯予防の取り組みを推進する。 ⑥ 地域の教育力を生かした保育・教育を推進する。
具体的な活動	□日常的な施設・設備の安全点検の実施 □実効性のある避難訓練等の実施 □通園指導による交通安全啓発活動の実施 □食品のモニタリングと結果の公表 □『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』を目指した計画的・系統的な指導の充実 □環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動の実施 □幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施 □自己表出できる友達関係の育成 □体力向上1園(学級)1実践の取組 □発達年齢に応じた体を動かす遊びの充実 □外部講師による運動遊び、ダンス教室の実施 □絵本コーナーの充実と活用 □絵本の積極的貸し出し □家庭での読み聞かせの奨励 □異文化体験活動の推進 □芸術鑑賞機会の充実 □音楽に親しむ活動の充実 □飼育、栽培活動の充実 □飼育、栽培活動の充実

			の園内保育研究会の				
			関しての研修会の実 第四体	·b/他			
	1	進園への視察		2 1/			
	1		レた保育研究会の実 ♥指導の自己評価、		国 (武)	証価の5	封佑
		さっし計画へ 校評議員会の		休暖日かりの		計価でクラ	天/吧
		役品職員会り 育補助・支援					
			と見い配置 と期的な開催				
		円安貝云のA 係機関との通					
	,		こついての保護者の)理解促准			
具体的な活動			が必要な幼児への	•	宔		
X11 F3 6 III 33			・ 見する研修機会σ				
			援計画及び指導計		用		
			所究会の実施		/ 13		
			で流活動の実施				
			受業研究会への参加]			
			の交流活動の実施				
			等の受け入れ				
		庭教育学級の					
			慣のポイント」の	広報・活用			
		ッ化物洗口の					
	□歯	科衛生士によ	よる歯磨き指導の実	€施			
	□保	護者の園行事	事等への参加				
	□地	域資源の積極	返的な活用				
成果•評価	○	型に質・特談学・までは、質が、対しては、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	股内・外の安全点検 イルス感染対の安全点検 イルス感染対のに 環境作りにて外部 は でを目指して外部 は と 要する乳幼と で を と 要の連携を が は と で に と で を と で を と で を と で を と で を と で を と の と が と が と が と が と が と が と が と が と が	大して取り組 が。 師を招いて年齢 施し保育のが、 きまで『15 施し、町内/ とで年長児がら とで年長いないただ を講加をいただ	む等、園の中では、園の中では、一切の中では、一切の中では、一切のでは、またが、一切のでは、またが、一切のでは、またが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これ	・所児が 一	が安全・安心 実施した。また、 されできた。 本制を整え教育 交流理解を知り、 大通理気を観を実施 表参観を実施
○ 多様な体験(人・物・事の関わり)を通して、内面の成長に繋がる援助をするための子ども一人一人の行動の理解(見取り)やそれに基づく環境の構成や援助、さいに反省に基づいた環境の再構成(カリキュラムマネジメント)が必要である。 ○ 園内研修の充実やポイントを押さえた保育事務処理の明確化・簡素化をしていく必要がある。							
第三者評価委員	評価	A					
教育委員評値	西	A	A大変良い	B良い	Cやや	悪い	D悪い
担当者自己評	価	A					

重点施策…子ども・子育て支援事業の推進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

2 子ども・子育て支援事業の推進

こども教育課

重点施策	(1) 多様な子育て家庭に対応した事業の推進に努める。									
重点項目	 家庭の教育力向上を図る。 保護者の就労等へ対応した保育所運営、預かり保育・放課後児童健全育成事業の充実を図る。 子育て世代に対応した経済的支援の推進に努める。 									
具体的な活動	□ 『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』(川島隆太 博士著)を活用した家庭の教育力向上 □ 待機児童ゼロの継続 □ 預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施 □ 幼稚園や小学校、保護者との情報の共有化 □ 預かり・放課後児童保育の長期休業中等を中心とした体験活動の充実 □ 預かり・放課後児童保育の特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実 □ 保育所及び支援員の確保と保育の質の維持向上 □ 入園児への入園祝い品(制服)支給事業の実施 □ 給食費保護者負担の軽減 □ 在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施									
成果・評価	 ○妊婦全戸訪問の際に川島隆太先生の本を配付し、家庭の教育力向上に努めた。 ○預かり・放課後児童保育支援員の研修会や児童館長による巡回指導により、運営上の課題や子どもや保護者への対応等に早期に対応することができた。 ○コロナウイルス感染症対策のために、支援員の研修会は中止せざるを得なかったが、電話やメール等で情報の共有化に努め、共通理解を図り、また幼稚園・小学校と連携を密にし、園児・児童に対する保育の充実も図った。 ○預かり・放課後児童保育の行事やさまざまな体験活動は、コロナウイルス感染症対策のために自粛としたが、コロナ禍だからこそウイルスの怖さ・感染症予防の大切さ、遊びの工夫等を支援員と一緒に学び、手指消毒・施設内消毒を徹底し、感染症予防に努めた。 ○給食費保護者負担や入園祝い品(制服)支給事業や保護者の経済的負担の軽減を図った。 									
 ○預かり保育・放課後児童保育利用者が年々増加しているため、運営体制の研を図り保育の充実に努める。 ○待機児童ゼロの継続を目指し、人材確保及び保育の充実に努める。 ○在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業の申込件数が少ないため、事内容が浸透するよう周知に努める。 										
第三者評価委員]評価	В								
教育委員評	価	A	A大変良い	B良い	Cやや悪い	D悪い				
担当者自己割	平価	A								

学校教育の重点

- 教員の指導力の向上と教育内容の充実を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健 やかな体」の調和的・一体的・関連的な育成を基盤として、児童生徒の「生きる 力」をはぐくむ。
- 「桑折町の15歳のめざす姿」の実現をめざし、幼稚園から小学校、中学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切にした教育を推進する。特に、生活習慣の改善・学力向上・体力向上・生徒指導・特別支援教育の充実の5点に重点的に取り組む。

1 学力向上を図る取組

- (1) 生活の基盤づくり
 - ① 脳科学の研究成果を活用して、生活習慣の改善・学習習慣の確立を図る。
 - □「読書がたくましい脳をつくる」(川島隆太 著)を活用した特別授業の実施
 - ② 生活改善・充実のための働きかけに努める。
 - □ 「家庭学習スタンダード」や各校の手引きに沿った家庭での学習の充実
 - □ 桑折町「家庭生活習慣のポイント」に基づく家庭生活習慣の改善

(2) 学習の基盤づくり

- ① 「読み・書き・計算の徹底反復」による、集中力や基礎的知識・技能の向上を図る。
 - □「読み・書き・計算の徹底反復」の効果的な取組及び研修会の充実
- ② 学びの質を高める学習集団を育成する。
 - □「桑折町小学校・学びのスタンダード」を基本とした学習態度訓練の徹底
- ③「家読(うちどく)」を中心とした読書活動の充実を図る。
 - □ 保護者との連携・協力による「家読」の奨励(家読運動とりくみコンクール等)
 - □ 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実(各小学校への巡回)
- ④ 児童生徒の学習を支援する「桑折学習塾」の充実を図る。
 - □ 小学生対象…算数(算数ジュニアオリンピックへの支援を含む)・国語(年8回)
 - □ 中学生対象…数学·英語(年16回)

(3) 授業の改善・充実

- ① ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業改善を徹底する。
 - □ 1校1指定公開等の授業研究の充実(内一つは秋田大学院阿部教授の指導により)
- ② 学力の実態把握と分析,対策の立案と実践に努める。
 - □ Hyper-QU の「NRT の学力とのクロス集計」結果を活用した学習集団の形成
 - □ 国・県の学力検査(4月実施)の分析と授業改善のための活用
- ③ 幼稚園、小学校と中学校との連携による授業研究の充実を図る。
 - □ 指導の連続性、専門性を深める幼稚園,小・中学校の連携による事前・事後授業研究会の充実(1校1指定の授業研究公開)
- ④ 教員の専門性を高める教職員研修の充実を図る。
 - □ 秋田の探究型授業等に学ぶための県外視察とその研修の共有化・共通実践

⑤ 小学校では新学習指導要領に基づく教育内容の実践と充実、中学校では移行を踏まえた教育内容の理解と研修に努める。□ 教員の専門性や実践的指導力の向上を図る授業研究会の充実
 (4) 新学習指導要領への対応 ① 指導体制を整備し、外国語(英語)教育の充実を図る。 □ 外国語指導助手(ALT)、英語指導協力員等と綿密な連携のもと、外国語科・外国語活動の TT 授業の充実 □ 小学校教員の英語指導力の向上をめざす外国語教育推進リーダーによる研修会 □ 英語検定受験の奨励と補助 ② 情報活用能力の育成に努める。 □ 電子黒板、デジタル教材等 ICT の更新に伴う研修会の充実と授業の改善 □ 学校や児童生徒の実態を踏まえたプログラミングの思考や技能の習得を図る工夫
2 体力向上を図る取組
 (1)生涯にわたり健康を支える体力づくり、学校体育の充実 ① 桑折町「子どもの体力向上プラン」に沿った体力づくりに努める。 □運動身体づくりプログラムの継続的な実践 □「新体力テスト」結果を受けて、運動能力向上と肥満児出現率減少に向けた取組 ② 体力向上に向けた「1 校 (学級) 1 実践」に取り組む。 □業間運動や昼休み等の時間の活用(長距離走の奨励),部活動の奨励 ③ 桑折町小学生陸上競技大会への積極的な参加を奨励する。 (2)健康に関する理解を深め、基本的生活習慣の確立をめざす取組 ① 家庭と連携して健康管理と基本的生活習慣の定着を図る。
② 自己の健康状態を把握し、自ら課題を解決していく学習を推進する。 □ 各種生活調査結果を活用した「保健便り」による家庭との連携 □ 肥満など健康課題に応じた体育授業・保健指導の充実
 (3) 安全・安心な学校給食を活用した「食育」の推進 ① 食材及び食品のモニタリング公表や健康維持増進のための情報を提供する。 □ 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供 ② 栄養士と連携した「食育」の授業を推進する。 □ 各校における「食育授業」の計画的・継続的な実施 □ 家庭に対する朝食の質(食事内容)の改善への呼びかけ

3 心の教育の充実

2

- (1) 積極的な生徒指導の推進
 - ① 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を生かし、不登校やいじめのない明るく生き 生きとした学校生活を実現する。

ア 自己指導力を育み,自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する。
□ Hyper-QU 検査の実施とその結果の活用(「認め・誉める」指導を中心として)
ィ 幼稚園を含め,小中学校のきめ細かな情報連携・行動連携を一層推進する。
□ 桑折町生徒指導委員会と各校の生徒指導部会・教育相談係との連携
ゥ 児童生徒理解を基盤とした不登校の未然防止と迅速な対応を図る。
□ 不登校対策会議の開催(年1回)と情報の共有、組織的な対応の充実
□ 桑折町教育支援センターの設置と円滑な運営
ェ いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止等の対策を推進する。
□「いじめ問題対策連絡協議会」を核とした諸取組の充実(チェックリスト等の活用)
② 教育相談体制を確立し、開発的な教育相談を充実させる。
□ スクールカウンセラー,スクールソーシャルワーカーの積極的な活用
③ 情報モラル教育を充実させ、有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害防止の
指導を家庭と連携して行う。
□ SNS モラル授業の実施や PTA と連携した研修会、啓発活動の企画への支援
(2) 自律的な生き方を追究する「道徳教育」の充実
① 道徳的価値を自分の事として捉え、多角的に考えたり議論したりする道徳授業の改善
ァ 道徳の時間における多様な展開を工夫する。
□ 特別の教科「道徳」のアクティブな授業づくり
ィ 意図的・計画的に道徳的実践力を高める場を設定する。
□ 毎時の道徳授業で行うポートフォリオ(道徳ノート等)に基づく認め・励ます評価
② 桑折町の15歳のめざす姿の「段階的スタンダード(徳・生活編)」に基づく日常生
活の充実に向けた支援を工夫する。
□ 各校の PTA 集会等での広報活動の充実
□ あいさつ運動や規範意識向上に向けた取組
(3) 心を揺さぶる学習, 体験活動・キャリア教育の充実
① 命の尊さ、社会性や規範意識、勤労意識などの「豊かな心」を育む体験活動、ボラン
ティア活動などを充実させる。
□ 農業体験、職業人に聞く、職場体験などの系統だったキャリア教育の充実
□ 「キャリア・パスポート」の累積と活用
② 郷土愛をはぐくむふるさと学習を充実させる。
ァ ふるさと学習を推進し、郷土に愛着をもつ機会の拡充に努める。
□ ふるさとの自然,文化や歴史等について「見る,知る,学ぶ」学習機会の拡充
□ 山城サミットに向け、「西山城址」を中心に故郷の歴史の調査研究活動の充実
ィ 各教科,総合的な学習の時間や道徳,特別活動,食育,土曜学習等における地域人
材の活用や地域素材の教材化を図る。
□ 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用
③ 「非核平和のまち」として平和学習を推進する。
□ 被爆地(広島)への代表児童派遣と各校における平和学習の充実

4 その他の取組

4 て の他の
(1) 特別支援教育の充実
① 就学指導の改善に努め、特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制の整備・充実
ァ 特別支援学級や通級指導教室(巡回型)の教育活動の充実に努める。
□ 校内における支援を必要とする児童生徒の情報共有(個別の支援計画や指導計画
の作成等)と幼小中連携のもとの支援体制の確立
ィ 教育的ニーズに応える支援体制の整備と研修会を企画し、指導力の向上を図る。
□ 校内就学指導委員会の活性化と適正な就学指導,教育相談の充実
□ 特別支援教育支援員研修会の充実(年3回)
ゥ 適正な就学に向けた情報の把握
□ 就学指導審議への資料収集と作成、及び審議会での説明
(2) 各種教育課題への対応
① 東日本大震災の体験等に基づいた安全教育, 防災教育・放射線教育の充実
ァ 身の回りの危険を予測し、自ら回避する能力や態度を育成する。
□ 危険箇所の確認や速やかな情報提供
ィ 系統的な安全学習と組織的な安全指導に努める。
□ 防災マニュアルの見直しを含む学校環境の適切な安全管理と関係機関との連携
ゥ 学級活動や総合的学習の時間等で、「身の安全・健康」を学習する機会を設定する。
□ リスクに対して安全・健康な生活を送るための放射線教育や防災教育の充実
② 低炭素・循環型社会に対応した環境教育を推進する。
□ ふくしま議定書の奨励や3R(Reduce, Reuse, Recycle)や再生エネルギーの学習
(3)教育環境の充実
① 教育施設の充実を図る。
□ 学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討
□ 廃止した学校プールの取扱いの検討
② 指導体制の充実
□「読み聞かせ」等の学習支援ボランティアの活用
③ 学校運営の改善
□ 統合型校務支援システムの導入
(4) 子育て世帯への学校教育にかかる経済的支援の充実
① 子育て世帯に対応した経済的支援事業の推進に努める。
□ 奨学資金制度の利用促進と充実の検討
□ 児童生徒への就学援助支給による経済的負担の軽減
□ 入学児童生徒への入学祝い品(制服や本贈呈〈川島博士著〉)支援事業の実施
□ 給食費の半額補助

1 学力向上を図る取組 こども教育課

重点施策	(2) (3)	学習の授業の	基盤づく 基盤づく 改善・充 指導要領	り E実	芯							
重点項目	(2) - (3) - (4) -	②①②③④①②③④⑤ ① 生読で家重く力和長学は発生を変更を対している。 ① ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ドの質を高さなの質をある。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	を算易ご学授型学生所育隆 実のなる別を来とと高習容し の徹学を支/分中め指の、	め医習中援み析学る導理外の反集心すど、校教要解国働はをを対と職領と語きによる。	************************************	努集る活習づとよ充教め中。動塾く実る実育る。 のリーの」持践技を対。	。や 充の業に業図容 を実善め究。実	的知識図る。をとえるの充と をとえる たました こうしょう こうしょう とれる	・技能の 。 を図る。 を図る。	る。 向上を図 学校では移	
具体的な活動	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	活く折み護校折校per県員語国子習し町・者司学1Q県ののの指語黒側まのいと書習指Uの連探専導活板	の「書のの塾定検学続究門協「家庭計・に語授字続究門と関係の検、授や員のをといる。」といる。	習学活算協よ、業施(門等践綿教ル習学活のよる算研と4を写的密育教材に学教究を月深学指なを材	のタの気は咬・会の実めぶ尊連该等確ンポ復る図数の学施めた力携とI立ダイ」家書学充力)めめののしCをーンで家・、実どの小の向もたT	めドトの売読英(()分小県上と国のざ」」点の書語内の析・外をに際更すにの的獎に)一にとの視図外理新	川沿広り励関小つス授)察る国解に島っ報組(わ学は集業捜と各語教伴教たと紅家る生、薫改携そ種授育う	取活び読環対秋十善この研業の研組用が運境象田結のる研修の充修の充修の事の・大果た事修会改実会	充 ・ ・	のクトダー 用後化的実検と実ー学生の 乗り 受 乗 支 受業 施ル校・	でへの巡回 ・・年16回 指導) 「完会の充 その奨励と) 実
成果・評価	庭が○りで○を○的であまをの幼行外な	のるみつり園、語学習・てかを総教を	習慣は自 きた。 きた。 やて 受いめて 受い で で で で で で で で で で で で で で で で で で	主 学 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ト を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	更っぽいないです。 でででででででできます。 でででできませる。 ででできませる。 ででできませる。 ででできまする。 ででできまする。 ででできまする。	全体 奨をに育が語興的 励徹表研で指味	こは 桑すてやた力 が 大るき研 の 長れ の で の の の の の の の の の の の の の	ででいて 学習塾を 必要性に ご授業の とTTの 理解力に	こいるもの といるもの といるもの といるもの を	行ってきた のの、基盤 のの、事後の がに事後の でにさない。 でにきている。	型に差 とが中 というと というでは、 はいった。 といる。 はいった。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる
改善・充実策	自○習○参計○践に	施新一くに等年結とし人し長ととりです。 しょう しょう しょう きんり きんしん しゃく かんしょう かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	所、NR 上活様式 台端末スタ 授善・充 統・発展 中学校の	□ 下上ではいる。 □ 下上ではいる。 □ 下上ではいる。 □ ではいる。 □	を付ける がは がは がは がは がは がいますが、 では では では では では では では では では では	テンプリング では できる	文善点に 発表 に できない こう	を句究がからののでは、これである。 をりています いっぱい かいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はい	いにした ICTを E学を を が を で が そ で の そ の し そ の の の の の の の の の の の の の り の り の り の	た。 活用した O充実を 目し、秋 目しての な旨の共	、国の検 ニオンライ 図型探究指 諸取組(学 通理解とは 英語科の~	ン学 受業を 力向上 共通実
第三者評価委員		В										
教育委員評		В	I	A 大変』	たい	B 良V	' (アやや思	管ケノ	D 悪い		
担当者自己評	片1曲	В										

令和2年度「教育委員会重点施策」点検・評価表 2 体力向上を図る取組 こども教育課 (1) 生涯にわたり健康を支える体力づくり、学校教育の充実 (2) 健康に関する理解を深め、基本的生活習慣の確立をめざす取組 重点施策 (3) 安全・安心な学校給食を活用した「食育」の推進 ① 桑折町「子どもの体力向上プラン」に沿った体力づくりに努める。 ② 体力向上に向けた「1校(学級) 1実践」に取り組む。 $(1)_{-}$ ③ 桑折町小学生陸上競技大会への積極的な参加を奨励する 重点項目 (2) -① 家庭と連携して健康管理と基本的生活習慣の確立をめざす取組 ② 自己の健康状態を把握し、自ら課題を解決していく学習を推進する (3) -① 食材及び食品のモニタリング公表や健康維持増進のための情報を提供する。 ② 栄養士と連携した「食育」の授業を推進する。 □ 運動身体づくりプログラムの継続的な実践 「新体力テスト」の結果を受けて、運動能力向上と肥満児出現率減少に向けた取組 業間運動や昼休み時間の活用(長距離走の奨励)、部活動の奨励 「早寝・早起き・朝ご飯」の推進や自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ 日々の健康観察や健康診断等の結果による治療勧告や奨励 具体的な活動 各種生活調査結果を活用した「保健便り」による家庭との連携 □ 肥満など健康課題に応じた体育授業・保健指導の充実 □ 町のホームページや「献立表」「給食便り」等での食育に関する情報の提供 □ 各校における「食育授業」の計画的・継続的な実施 □ 家庭に対する朝食の質(食事内容)の改善への呼びかけ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、4月21日から5月6日まで 臨時休業となり、全国の体力・運動能力調査も中止となった。本町は新型コロナウイル ス感染症の拡大が落ち着いた2学期に各学校で「新体力テスト」を実施した。小学校は 昨年度の調査結果と比較すると、伸びた種目が17種目、下がった種目は23種目で、全 体的に体力は低下した。全国平均との比較では、「ボール投げ」「立ち幅跳び」「握力」で、劣っているのは「50m走」「上体起こし」「20mシャトルラン」である。中学校は、昨年度の調査結果と比較すると、伸びた種目が8種目、下がった種目は27種目で、 体力は大きく低下した。全国平均との比較では、「立ち幅跳び」「長座体前屈」「反復 横跳び」で、劣っているのは「ボール投げ」だけである。臨時休業や部活動の中止、運 動機会の減少が影響していると考えられる。 「早寝・早起き・朝ご飯」 新体力テストの運動習慣・生活習慣調査の結果によると、 の習慣は全体的にほぼ身に付いてきてはいるが、小・中学校で「朝食を摂る」割合が昨 年度より低下した。中学生の「間食や夜食」をする割合が高くなってきており、朝食を 成果・評価 摂らないことの一因と思われる。 震災以降の課題である肥満傾向については、中学校が改善傾向にあるが、小学校は男 子が全ての学年で全国を上回った。 桑折町小学生陸上競技大会(生涯学習課主催)は中止となった。 体力向上に向けた1校(学級)1実践は、中学校では「部活動対抗駅伝」、小学校で は「マラソンタイム」「縄跳び運動」など各校で工夫して取り組んでいて、子どもの体 力向上や運動能力向上に役立った 中学校では、栄養教諭と連携を図り、家庭科でスポーツ選手の摂取カロリーについて、 生活習慣病について等の食育を、TTの形で授業を行った。また、小学校ではバイキン グ給食は中止にしたが、テーブルマナー・セレクト給食は実施した。学級活動では、食 に関しての指導を11時間、家庭科で1時間行った。また、小学校の就学時健診を利用し て、保護者対象に栄養教諭や管理栄養士の講話を全ての小学校で実施した。 本町の課題である児童生徒の肥満傾向を考えると、新体力テストの運動習慣・生活習 慣調査の結果の「1日の運動・スポーツ実施時間」も関連がある。小学生は昨年度と比 較すると「30分未満」が増加した。中学生は学年が上がるにつれて、男女差が大きか った。原因は新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われるが、「桑折町子ども の体力向上プラン」の重点に基づき、1校(学級)1実践をさらに工夫するとともに、力 登校や家の手伝いなどの生活運動の奨励や食育の面からも働きかけたい。 改善・充実策 児童の運動習慣改善のために、桑折町小学生陸上競技大会に向けて、講師を招聘し、 学校毎に種目練習のみならず、練習に体力向上に結び付く要素を取り入れるなど工夫 して実施する。児童が楽しくかつ自主的・日常的に運動に取り組むようにしたい。 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染症を予防するための取組を徹底し、 新しい生活様式の徹底を図り、感染拡大防止のための基本的な態度を身につけさせたい。

第三者評価委員評価	В				
教育委員評価	В	A 大変よい	B 良い	C やや悪い	D 悪い
担当者自己評価	В				

3 心の教育の充実 こども教育課

(1) 積極的な生徒指導の推進 (2) 自律的な生き方を追究する「道徳教育」の充実 重点施策 (3) 心を揺さぶる学習、体験活動・キャリア教育の充実 (1)- ① 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を生かし、不登校やいじめのない明るく 生き生きとした学校生活を実現する。 ア自己指導力を育み、自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する。 ィ 幼稚園を含め、小中学校のきめ細かな情報交流・行動連携を一層推進する。 ゥ 児童生徒理解を基盤とした問題行動の未然防止と迅速な対応を図る。 エ いじめ防止基本法に基づくいじめ防止等の対策を推進する。 ② 教育相談体制を確立し、開発的な教育相談を充実させる。 ③ 情報モラル教育を充実させ、有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害 防止の指導を家庭と連携して行う。 (2) -① 道徳的価値を自分の事として捉え、多角的に考えたり議論したりする道徳授業 改善。 重点項目 ァ 道徳の時間における多様な展開を工夫する。 ィ 意図的・計画的な道徳的実践力を高める場の設定をする。 ② 桑折町の15歳のめざす姿の「段階的なスタンダード(徳・生活編等」に基づく日常 生活の充実に向けた支援を工夫する。 ① 命の尊さ、社会性や規範意識、勤労意識などの「豊かな心」を育む体験活動、ボラ $(3)_{-}$ ンティア活動などを充実させる ② 郷土愛を育むふるさと学習を充実させる。 ァ ふるさと学習を推進し、郷土に愛着をもつ機会の拡充に努める。 ィ 各教科、総合的な学習の時間や道徳、特別活動、食育、土曜学習等における地 域人材の活用や地域素材の教材化を図る 「非核平和のまち」として平和学習を推進する。 □ Hyper-OU検査の実施とその結果の活用(「認め・誉める」指導を中心として) □ 桑折町生徒指導委員会と各校の生徒指導部会・教育相談係との連携 □ 町不登校対策会議の開催(年1回)と情報の共有、組織的な対応の充実 □ 町教育支援センターの設置と円滑な運営 「町いじめ問題対策連絡協議会」を核とした諸取組の充実(チェックリスト等の活用) □ SCやSSWの積極的な活用 □ SNSモラル授業の実施やPTAと連携した研修会、啓発活動の企画への支援 □ 特別の教科「道徳」のアクティブな授業づくり □ 毎時の道徳授業で行うポートフェリオ(道徳ノート等)に基づく認め・励ます評価 具体的な活動 □ 各校のPTA集会等での広報活動の充実 □ あいさつ運動や規範意識向上に向けた取組 農業体験、職業人に聞く、職場体験などの系統だったキャリア教育の充実 「キャリア・パスポート」の累積と活用 □ ふるさとの自然、文化や歴史などについて「見る・知る・学ぶ」学習機会の拡充 □ 山城サミットに向け、「西山城址」を中心に故郷の歴史の調査研究活動の充実 □ 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用 □ 被爆地(広島)への代表児童の派遣と各校における平和学習の充実 「町不登校対策会議(年1回)」と「町いじめ問題対策連絡協議会」は新型コロナウイ \bigcirc ルス感染症拡大防止から、開催ができなかったため、町園長・校長会議の中で2回時間 を設けて協議を行ったが、前年度より不登校の児童生徒は増加した。特に中学1年生が 増加傾向だった。入学してすぐ、4月の臨時休業により、新しい環境に馴染めなかった 生徒が不登校になったと思われる。 今年度から立ち上げた「桑折町教育支援センター(AYUMI)」には、小学生2名(6年)、中学生3名(1年2名・2年1名 計3名の内1名は12月より母国へ帰国)が 成果・評価 児童生徒に寄り添った丁寧な指導により、6年1名は3月から復帰傾向にな り、中学校入学後は登校できている。 Q-U結果を活用して児童生徒の理解と学級づくりに努め、各校でいじめ対策委員会を 定期的に開催し未然防止に努めた結果、重大事案は無かった。 被爆地(広島)への代表児童の派遣は中止となったが、考え議論する道徳授業の充実と 伊達崎小学校長による平和教育の授業等で児童の心を耕すともに、ふるさと教育やキャ リア教育で児童生徒の夢を育むことができた。

改善・充実策	スマ に S つ 1) 不登校の児童・生徒が増加しており、当該校の努力だけでは改善が期待できないケースもあるが、援助シートによる支援等、組織的な対応が必要である。次年度は、中学校にSSRを設置し、教員免許状を持っている特別支援教育支援員を増員し、学習活動に関する支援及び学校復帰に向けた支援を行う。) 10月の「山城サミット」に向けて ふるさと学習の一環として西山城址の学習を行い、郷土を見て・知って・学んで・愛する心」を育む。				
第三者評価委員	評価	A				
教育委員評価	fi	В	A 大変よい	B 良い	C やや悪い	D 悪い
担当者自己評估	価	В				

4 その他の取組(特別支援教育)

こども教育課

1 C 42 1E 42 47 ML	(竹川又)友쐯	日/ ことり数月味
重点施策	(1)特別	支援教育の充実
重点項目	備・ ア 年 イ 著	学指導の改善に努め、特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制の整・充実を図る。 ・充実を図る。 特別支援学級や通級指導教室(巡回型)の教育活動の充実に努める。 教育的ニーズに応える支援体制の整備と研修会を企画し、指導力の向上を図る。 適正な就学指導に指導に向けた情報の把握。
具体的な活動	作成等) □ 校内就等 □ 特別支持	おける支援を必要とする児童生徒の情報共有(個別の支援計画や指導計画の と幼小中連携のもとの支援体制の確立 学指導委員会の活性化と適正な就学指導、教育相談の充実 援教育支援員の研修会の充実(年3回) 尊審議への資料収集と作成、及び審議会での説明。
成果・評価	担任を加 前におるこ の 3年目の た、特別支打 症拡大防	指導担当者会議は2回開催し、2回目の町就学指導担当者会議に特別支援学級えて行い、対象児1人1人を的確に分析することができた。また、就学審議会主事が各校を訪問し、対象児を観察して報告することで、審議会をスムーズにとができた。 沙巡回型通級指導教室は、担当教員の工夫もあり教育活動が充実してきた。まの伸びが顕著で、保護者からの信頼も得る事ができた。 爰教育支援員の研修会は、年3回を予定していたが、新型コロナウイルス感染止から4月の開催は中止にした。2回ではあったが、障がいの特性の理解、対等の講義を講師招聘で開催することにより、支援員のスキルアップにつなげるきた。
改善・充実策	と共に教 ○ 特別支持 修会を企「 子どもの」 ○ 巡回型〕	援学級に「入級してよかった」と児童も保護者も思えるように、指導内容の充実 室環境をさらに整えたい。また、巡回型指導教室も同様に設備等を整備する。 援教育支援員の研修会を工夫し、各校の特別支援コーディネーターと合同の研 画し、コーディネーターの指導の下、学級担任と支援員が補完しあいながら 支援や介助にあたっていけるよう個別指導計画・個別支援計画の充実を図る。 通級指導教室は、次年度4年目となるので、町の「退級リスト」の整備を行い、 学指導に努める。
第三者評価委員		
教育委員評值		A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い
担当者自己評	価 A	

4 その他の取組 (その他)

こども教育課

重点施策	(1)各種教育課題への対応 (2)教育環境の充実 (3)子育て世代への学校教育にかかる経済的支援の充実				
重点項目	 (1)- ① 東日本大震災の体験等に基づいた安全教育、防災教育・放射線教育の充実				
具体的な活動		防リふ学廃「統奨児入災スく校止み型資生児」	所の確認や速やかな情報提供ニュアルの見直しを含む学校環境の適切な安全管理と関係機関との連携に対して安全・健康な生活を送るための放射線教育や防災教育の充実ま議定書の奨励や3R(Reduce, Reuse, Recycle)や再生エネルギーの学習育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討た学校プールの取扱いの検討がせ」等の学習支援ボランティアの活用校務支援システムの導入金制度の利用促進と充実の検討たへの就学援助支給による経済的負担の軽減量生徒への入学祝い品(制服支給や川島博士の本贈呈)支援事業の実施の半額補助		
成果・評価	討学地級型Gれ	時、また を校に製作 ででででいる。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 である。 であ	小・中学校ごとに立地環境に応じた防災マニュアルを作成し、教育計画の検 たは避難訓練後の反省で具体的な避難方法を検討している。 所施設・設備の点検時、修繕箇所を明確にして計画的修繕を実施しているが、 る建物のズレや倒壊に対応する事例があった。 務支援システムの整備を行い、次年度からの活用に向けて、各学校での巡回 全体での集合型研修を実施した。データ移行や初期登録等の負担感があった。 クール構想による学校内の設備や児童生徒一人一台端末の整備が計画的に行わ 金制度の利用や入学児童生徒への支援事業、就学援助支給は円滑に行えた。		
改善・充実策	 ○ 東日本大震災の体験の語り伝えや放射線に関する正確な理解、今後の対応の仕方について考える機会を適時設定し、広汎な視野で思考させたい。 ○ 内田洋行による各学校での巡回型研修や全体での集合型研修を実施し、事務軽減を実感できるようにしたい。これまでの各学校で行ってきた独自のやり方から県内一斉の方法に移行するには、その利便性と効果を確認できるための慣れと時間が必要である。 ○ オンライン会議やタブレットを活用した授業などが環境整備されるに従い実施されるようになってきた。Wi-Fi環境・充電器等の環境が整えば、コロナ感染拡大防止による臨時休業等での家庭学習に役立てることができる状況である。 				
第三者評価委員	評価	В			
教育委員評値		В	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い		
担当者自己評価 E		В			

生涯学習の重点

I

	日的課題や多様な町民ニーズの的確な把握に努める。
〇町	民が生涯にわたって学習できる機会の創出や情報の提供に努める。
	民の心身の健康づくり及び体力づくりにつながる学習機会の創出に努める。
I 生きが	いと自己実現をめざす生涯学習の推進
1 生涯等	学習の推進
(1) 生	涯学習推進体制の充実を図る。
	「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく推進体制の確立。
	つでも、どこでもだれでもが学び合える生涯学習社会の実現のため、情報の提供
	民ニーズに対応する事業を行う。
	ICT 講習会,女性や子育て世代対象の講座等の開催,持ち込み講座の開催支援
2 ライ	フステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実
(1)乳	幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じて、求められる知識や技能を適切
に提	供することができるよう内容の充実を図り、創造的で活力のある活動の展開に努め
る。	
	こおりキッズスクール、こおり友遊くらぶ、かやのき学園を核とした活動の展開
	世代間交流事業、若者の活動の場の創出
3 社会	教育団体の活動奨励
(1)家	庭、学校、地域及び社会教育団体との連携を図るとともに、自主的学習を推進す
るサ	ークル等の活動を奨励・支援する。
	桑折町青少年育成町民会議事業の実施
	親子教室の開催支援
4 青少年	 上本験活動の積極的推進
	域の教育力の活用を図り、青少年の体験活動・ボランティア活動を積極的に推進。
する	
, -	・ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業の充実
	学校支援地域本部事業の充実
	こおり地域クラブの充実
	の将来を担う青少年に、健全成長と郷土愛をはぐくむために通過儀礼として
	の事業を実施する。
	中学2年生を対象に、将来への志を高める「立志式」
	成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」
\Box	$PA/N \subseteq DUV \times JNJN \subseteq U \times V \cap DUUC DE J + PAJNVVV$

5 心を豊かにする読書活動の充実	
(1)遊学館「よも~よ」の読書環境・学習環境の充実を図り、親しまれる運営に	努める。
□ 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワー:	クの推進
(2) 町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り、図書の有効活用・	読書活動
の充実に努める。	P-11-27
□ ブックスタート事業の実施	
□ 中央公民館おはなしの会の実施	
6 芸術・文化団体活動の奨励・支援	
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
(1) 町民の自主的な芸術文化活動を奨励・支援するとともに、活動成果発表や	'塩負機会
としての総合文化祭の充実に努める。	
□ 文化講演会等の開催	
□ 高齢者作品展の実施	
□ 文化団体連絡協議会活動支援	
7 社会教育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。	
□ 地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり	
□ 各施設の利用環境の向上,効果的利活用と安全維持管理	
Ⅱ 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興	
1 社会体育事業の推進	
(1) 身近な体育・スポーツ活動を通して,生涯にわたって健康の保持増進と生	きがいづ
くりに努める。	
□ 小学生陸上競技大会の開催	
□ 健康福祉課との連携による水泳教室等の開催	
□ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施	
(2)総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会の自主的活動を奨励するととも	に,各種
事業での連携を深め、生涯スポーツの振興に努める。	
□ スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催大	会の支援
□ スポーツ関係団体間の連携強化による活性化の支援	
2 社会体育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。	
(1)「イコーゼ!」(屋内温水プール・多目的スタジオ)の安定的かつ効率的な利	活用に努
める。	
□ 小中学生水泳授業の実施,桑折町小学校水泳大会の開催	
□ 年代に応じた各種水泳教室の実施	
□ 夏季休業中におけるPTAとの連携したプール開放の実施	
□ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供	
(2) 社会体育施設及び周辺施設の、整備・安全維持管理に努める。	
□ 体育施設群活用促進のための充実策の検討	
□ 各施設の利用環境の向上,効果的利活用と安全維持管理	

Ⅲ 文化財の保護活用

\bigcirc	「桑折町歴史的風致維持向上計画」	に基づく歴史資源を活かしたまちづくり
	の推進を図る。	

- 桑折西山城跡整備の推進を図る。
- 文化財やその他の歴史文化遺産、民俗芸能の調査、保存、継承に努める。
- 1 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進
- (1) 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を 図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民俗芸能については 同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。

□ 全国山城サミット桑折大会プレ大会の実績

- □ 万正寺大カヤ周辺整備
- □ 史跡桑折西山城跡周辺整備
- □ 旧伊達郡役所周辺整備
- □ 歴史案内人育成と事業の推進
- (2) 文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未 指定文化財の指定と保存・活用を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継 承の普及啓発に努める。
- 2 史跡西山城跡保存整備事業の推進
- (1) 「史跡桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡 及びその周辺の整備事業を推進するとともに、適切な保存管理及び公開・活用に努める。
- 3 旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進
- (1) 旧伊達郡役所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。
- (2) 種徳美術館の適切な管理と所蔵品の公開に努める。

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	1 生涯学習の	推進			
重点施策	(1)生涯学習推進体制の充実を図る。(2)いつでも、どこでもだれでもが学び合える生涯学習社会の実現のた情報の提供と町民ニーズに対応する事業を行う。				
重点項目	○ 「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく推進体制の確立○ ICT 講習会、女性や子育て世代対象の講座等の開催、持ち込み講座の開催支援				
具体的な活動	 ○ 「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく推進体制の確立 ・各課における事業推進の実績及び計画についての確認のみとなった。 ○ ICT 講習会、女性や子育て世代対象の講座等の開催、持ち込み講座(団体等における自主的講座)の開催支援 ・シニア向けスマートフォン講座の開催 参加者 10 名 ・女性や子育て世代対象の講座等の開催 未実施 ・持ち込み講座の開催支援 支援事案なし 				
成果・評価	 ○ 生涯学習推進会議の体制を整えられず、推進のための具体的な方策等について意見を聴取する機会を設定できなかった。 ○ 現代社会に役立つ身近な学習の機会として開催したシニア向けスマートフォン講座は、参加者が少なかったものの、初心者を対象とし、専門講師から直接指導を受けられたことで「様々な機能を使いこなしていきたい」などの声が聞かれ、今後も継続していきたい講座となった。 ○ 女性や子育て世代対象の講座等の開催については、具体的な事業計画が立てられなかった。 ○ 持ち込み講座の開催支援については、認知度が低いため、有効活用できる具体的内容を周知していきたい。 				
改善・充実策	 ○ ウィズコロナをふまえた「生涯学習推進基本計画」に見直しを図るなど、 生涯学習における推進体制の再構築が必要と考える。町総合計画の個別 計画として具体的施策を展開できるよう検討していきたい。 ○ コロナ禍においてもより多くの町民が生涯学習の機会を得られるよう工 夫し、魅力ある各種事業を展開していく。 				
第三者評価委員	評価 C				
教育委員評	· 価 C	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い			
社会教育委員言	平価 C				
担当者自己部	F 価 C				

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	工匠 1 日本					
	2 ライフステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実					
重点施策	(1) 乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じて、求められる 知識や技能を適切に提供することができるよう内容の充実を図り、 創造的で活力ある活動の展開に努める。					
重点項目	○ こおりキッズスクール ○ こおり友遊くらぶ ○ かやのき学園○ 世代間交流事業 ○ 若者の活動の場の創出					
具体的な活動	 ○ こおりキッズスクール (コロナ禍により9月からスタート) ・年5回開催 (マジック、模型飛行機づくり、熱気球体験、門松づくり、書き初めを実施) ・のべ64名参加 ○ こおり友遊くらぶ (コロナ禍により9月からスタート) ・年5回開催 (認知症サポーター養成講座、アロマワックスカップづくり、薬の飲み方講座、フラワーアレンジ、運動教室) ・のべ70名参加 ○ かやのき学園 (コロナ禍により11月からスタート) ・年3回開催 (認知症講座、手品にチャレンジ、ライフキネティック教室) ・のべ87名参加 ○ 世代間交流事業 未実施 ○ 若者の活動の場の創出 未実施 					
成果・評価	 ○ キッズスクール(少年教育)、こおり友遊くらぶ(成人教育)、かやのき学園(高齢者教育)については、コロナ禍により年度後半からのスタートで、例年よりも少ない回数となってしまい、集まることも難しかったが、できる範囲でそれぞれの年代に応じた学習の機会を提供できた。 ○ 世代間交流事業(異世代交流事業等)、若者の活動の場(青年期の学習機会等)の創出については、具体的な事業計画ができなかった。 					
改善・充実策	 ○ こおりキッズスクール ・小学校により参加者の偏りがみられる。事業の認知度を高め、魅力ある事業内容の工夫が必要である。学校や家庭で体験できないことを学習できる機会とし、他の小学校の仲間や異学年との交流も図ることができる活動として継続していく。 ○ こおり友遊くらぶ ○ かやのき学園 ・生きがいづくりの上で、重要な事業と捉えている。より充実した講座にするためにオープン講座等も加えながら、新たな参加者や男性の参加を促していく。 					
第三者評価委員評	価 B					
教育委員評	価 B A + 亦白い R P P D E N P E N					
社会教育委員評	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い					
担当者自己評	価 B					

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	3 社会教育団体の活動奨励				
重点施策	(1)家庭、学校、地域及び社会教育団体との連携を図るとともに、自主 的学習を推進するサークル等の活動を奨励・支援する。				
重点項目	○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施○ 親子教室の開催支援				
具体的な活動	 ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・コロナ禍により町民会議大会を中止とし、事業報告、事業計画、努力事項、役員改選、大会宣言については、書面決議とした。 ・各小学校意見発表会 コロナ禍により中止。 ・各部会活動 事業実績に応じ、補助金を交付。 ○ 親子教室の開催支援 ・コロナ禍により子ども会やPTA等での自主的な親子活動等が実施できなかった。 				
成果・評価	 ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・コロナ禍により、一堂に会しての町民会議大会及び基調講演会を実施できず、各部会の活動も縮小を余儀なくされた。 ○ 親子教室 ・コロナ禍ということもあったが、事業に対する問い合わせ等もない状況であり、認知度が低いと認識する。 				
改善・充実策	 ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・各部会における事業の位置づけや協力体制が縮小されてきているように感じる。青少年健全育成のために、国・県の施策と呼応し、各関係団体とともに事業充実を図っていく。 ○ 親子教室 ・親子の絆、保護者間のつながりをもつ大切な機会と捉え、それぞれの自主的活動を尊重し、引き続き支援していく。 また、事業の認知度を高め、有効活用してもらえるよう周知に努める。 				
第三者評価委員評	i C				
教育委員評	C A大変良い B良い Cやや悪い D悪い				
社会教育委員評	A 人 変良い B 良い C やや悪い D 悪い				
担当者自己評	i C				

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	4 青少年体際	験活動の積極的推進	
重点施策	積極的に推	を担う青少年に、健全成長と郷土愛を育むために通過儀礼と	
重点項目	○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業の充実○ 学校支援地域本部事業の充実○ 中学2年生を対象に、将来への志を高める「立志式」○ 成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」		
具体的な活動	業に変更) ・推定 ・推応 ・推応 ・加力 ・加力 ・加力 ・加力 ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー ・コー	ボランティア活動支援センター事業(地域学校協働活動事 L 名配置し、学校支援のコーディネートを行い、学校等の要請 成との連携を図った。また、「桑折町人材協力支援バンク」に登 ランティアの協力を得た。 スクラブの実施 こより活動が困難なクラブもあったが、地域ボランティアの 、小学生13クラブ(絵手紙、バドミントン、科学、将棋 回程度土曜日に活動した。 ・2月8日(月) 醸芳中学校2年生95名 こより基調講演は行わず、町長メッセージ動画の視聴、立志証 こおいてクラスごとに担任から)の交付を行った。 ・コロナ禍により延期。	
成果・評価	 ○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施・学校等からの各種分野の要望に基づき、的確な人材を派遣することで、豊かな学びが醸成された。また、指導者も地域や社会への還元により、新たな生きがいづくりにつながった。 ・こおり地域クラブでは、ボランティア指導者の熱心な指導により、文化・芸術・スポーツなど通じて、のべ542人の小学生が活動し、互いに有意義な時間となった。 ○ 「立志式」 ・中学2年生に対して、社会の一員であることの自覚や責任感を持つ節目の機会を提供できた。 		
改善・充実策	 ・充実策 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施・推進員のコーディネートにより、地域と学校の連携強化を引き続き図っていく。 ・「桑折町人材協力支援バンク」の登録ボランティアを発掘する必要があるため、人材についての情報収集に努める。 		
第三者評価委員評	価 B		
教育委員評	価 B		
社会教育委員評	価 B	$lacksymbol{lack}lack$ $lack$	
担当者自己評	価 B		

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	5	心を豊かにす	する読書活動の充実	
重点施策		運営に努め) 町民への図	はも〜よ」の読書環境・学習環境の充実を図り、親しまれる める。 図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り、図書の有効活 活動の充実に努める。	
重点項目	_	○ 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進○ ブックスタート事業の実施○ ファミリー文庫おはなしの会の実施		
具体的な活動	・1 つ・	睦合小・半E 1,200 冊の貸 ブックス 見の ファリスター をレミリー をファリー をファリー 毎 が が が が が が が が が が が が り に り に り に り に	の連携、図書ネットワークの推進 田醸芳小・伊達崎小・子どもクラブ(伊達崎・半田)に計 選出を行った。 ト事業の実施 今時に、親子のふれあいを深める読み聞かせの奨励活動を実 が進呈及び「よも〜よ」の利用案内を行った。 庫おはなしの会の実施 中央公民館おはなしの会を、ファミリー文庫の協力を得て、屋 の幼児を対象に実施した。 イルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、インターネ 書検索、貸出予約を可能とするシステムを構築し、図書の充	
成果・評価	 ○ 学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 おはなしの会、ブックスタート事業ともに、工夫をかさねながら開催することができた。 ○ 図書室運営の充実 コロナ禍により貸出図書の除菌など感染対策を講じながら、遊学館「よも~よ」の運営を行い、14,246 冊の図書貸出を行った。また、学習スペースの提供も行いながら利用促進を図ることができた。 			
改善・充実策	 ○ 図書室運営の充実 ・中央公民館おはなしの会は、ボランティアの協力を得ながら継続し、絵本の出張貸出を行い、家庭での読み聞かせを推進する。また、新刊図書の充実にも努める。 ○ 小・中学校との連携 ・各小・中学校及び学校司書と連携しながら、図書ネットワークの活用を推進し、読書習慣の定着に努める。 ○ 読み聞かせボランティアの支援 ・ボランティアの方々のスキル向上や新たな人材育成のための講座等開催を検討していきたい。 			
第三者評価委員評価		В		
教育委員評価		В		
社会教育委員評価		В		
担当者自己評価		В		

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	6	芸術・文化国	団体活動の奨励・支援		
重点施策	(1		主的な芸術文化活動を奨励・支援するとともに、活動成果 賞機会としての総合文化祭の充実に努める。		
重点項目		文化講演会の 高齢者作品展	開催 の実施 〇 文化団体連絡協議会活動支援		
具体的な活動		高齢者作品展の実施、文化団体連絡協議会活動支援 ・第45回町総合文化祭開催は、コロナ禍により町文化団体連絡協議会 の会員のみを対象とし、規模を縮小して10/25(日)に開催した。ま た、文化団体連絡協議会への補助金交付、事務運営補助を行い、自主 的活動をサポートした。 ・高齢者作品については、役場新庁舎の町民ロビーにおいて、老人クラブ 連合会の会員による作品の展示を行った。参加者80名、3/23~26開催。			
成果・評価	0 2	・例年は文化祭の期間に展示等行っていたが、コロナ禍により単独での開催とした。役場新庁舎の町民ロビーに展示することで、役場にも足を運ぶ機会を設けることができた。また、参加者の意欲向上にもつながった。 文化団体連絡協議会活動支援 ・コロナ禍での開催となったが、団体が自主的に、文化祭を続けることの意義を大切にして、規模縮小ながらも工夫を凝らしながら開催できたことは、団体にとっても自主性を向上させられた良い機会となった。			
改善・充実策	:	○ 文化講演会・総合文化祭・高齢者作品展等の開催実施 ・町民が地元で芸術・文化を気軽に楽しめる機会として、今後もより充 実した事業となるよう工夫していく。 ・高齢者が日ごろ創作した作品の発表の機会として、今後も作品展を継 続していく。また、総合文化祭についてはウィズコロナをふまえながら 創意工夫を重ね、各種団体の活動促進を図り、子どもから高齢者まで幅 広い年代が文化に触れる機会としていく。			
第三者評価委員評価		В			
教育委員評価		В	A 上亦白 、		
社会教育委員評価		В	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い		
担当者自己評価		В			

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進 青少年の健全育成

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

	大位 57 C 9 工在于自67 正在于自6				
重点施策	7 社会教育施設の効率的・効果的な管理運営 (1)社会教育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。				
重点項目	○ 地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理				
具体的な活動	 ○ 地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・睦合・伊達崎・半田公民館に運営推進員を配置した。 ○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・日常からの安全点検を実施し、良好な利用環境の維持に努め、また、光熱水費などの施設管理費の節約にも努めた。 				
成果・評価	 ○ 地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・睦合・伊達崎・半田公民館に運営推進員を配置し、地域に根ざした公民館運営を行うこととしていたが、コロナ禍により、事業実施が困難となってしまった。 ○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理・経年劣化等による修繕個所については随時対応し、施設の環境を整備したことで利用向上が図られた。 				
改善・充実策	 ○ 地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・コロナ禍の影響もあり、公民館に集まって自主的活動を行うことは困難となってきており、公民館の利用者数も減少傾向にある。今後は、地域の貸館として利用できる体制を整えることも検討する必要がある。 ○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理・経年劣化により、修繕が必要なものは優先順位をつけ対応していく。・利用環境の維持向上を図るため、今後も利用しやすい施設の管理に努めていく。 				
第三者評価委員評教育委員評社会教育委員評社当者自己評	価 C A大変良い B良い Cやや悪い D悪い				

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実 屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

Ⅱ 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

重点施策	(1	進と生きた) 総合型地	乗の推進 本育・スポーツ活動を通して、生涯にわたって健康の保持増 がいづくりに努める。 地域スポーツクラブやスポーツ協会の自主的活動を奨励すると 各種事業での連携を深め、生涯スポーツの振興に努める。		
重点項目) 大	○ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施○ スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催 大会の支援○ スポーツ関係団体間の連携強化による活性化の支援			
具体的な活動	 ○ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施 ・コロナ禍により、スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会の開催を見送った。「スポーツ体験教室」(ゴルフ教室・硬式テニス教室)については、開催した。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進・団体への補助金交付や助言・指導による支援を行った。 				
成果・評価	 ○ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施 ・コロナ禍により、ほとんどの事業を実施できず、ウィズコロナでのスポーツ大会等の実施方法について考えさせられた年となった。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進 「マルベリーこおり」の運営については、日本スポーツ振興センター(toto)からの助成(令和3年度で終了)を受けながら、補助金交付し支援してきた。コロナ禍での自主運営に苦慮した状況も見られたが、工夫を凝らした事業実施により運営継続できた。 「町スポーツ協会」については、加盟団体の町民スポーツ振興に対する意識が低いと感じられる。 				
改善・充実策	 ○ スポーツフェスティバル・各種スポーツ大会の開催 ・ウィズコロナでの生涯スポーツを推進するため、感染対策等の情報を収集し工夫しながら、活動できる体制を整えていく。また、加盟団体には、町民スポーツ振興に積極的に協力いただく。 ・健康志向の高まりのなかで、「健康」に関連する事業は、庁内関係課と連携し、公民館事業に組み入れるなどしながら実施していく。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進・令和3年度でtotoからの助成は終了となることから、「マルベリーこおり」の組織体制や今後の活動等、具体的な方向性について話し合いを進めていく。 ・「町スポーツ協会」については、加盟団体に町事業等への積極的な参加協力を呼び掛け、町民のスポーツ意欲向上につながるよう支援していく。 				
第三者評価委員評価		С			
教育委員評価		С	A 上亦白 、		
社会教育委員評価		С	- A大変良い B良い Cやや悪い D悪い		
担当者自己評価		С			

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実 屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

Ⅱ 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

			工厂、	
	2	社会体育施設	役の効率的・効果的な管理運営	
重点施策		率的な利活用	!」(屋内温水プール・多目的スタジオ)の安定的かつ効用に努める。 施設及び周辺施設の整備・安全維持管理に努める。	
重点項目		各種水泳教室 夏季休業中に 屋内遊び場の 本育施設群活	施、桑折町小学校水泳大会の開催 の実施 おける PTA と連携したプール開放の実施 活用コンテンツの提供 用促進のための充実策の検討 環境の向上、効果的利活用と安全維持管理	
具体的な活動		コロナ禍によ 程度の実施と 教室(アクラ 屋内遊び場の コロナ禍によ 毒等感染防止 施設の利用環	施、桑折町小学校水泳大会の開催、各種水泳教室の実施 より、学校水泳授業を2学期からスタートさせ、1人2時間 となった。各種水泳教室も感染状況を踏まえて工夫し、新規 アサーキットトレーニング)を組み入れながら実施した。 1活用コンテンツの提供 より、イベント等は開催できなかったが、遊び場遊具の消 対策を講じながら一般開放を継続して行った。 境の向上、効果的利活用と安全維持管理 の屋根防水工事、トイレ洋式化工事を行った。	
成果・評価	 ○ 水泳授業、小学校水泳大会の開催 ○ 各種水泳教室の実施・一度の利用者数を制限するなど感染症対策を講じながら学校授業が事故等なく実施できたことは、ウィズコロナ時代の授業スタイルとして今後に生かせるものとなった。・新規水泳教室を1種目増やしたことにより、継続して参加する人が増え、町民の健康に対する意識向上につながった。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供・遊び場利用者数が減少傾向にある。(R1:13,407人、R2:7,023人) ○ 施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理・施設管理について、直営で出来る部分は限られるが、経費節減に努めながら効率的な施設管理を維持できている。 			
改善・充実策	 ○ 水泳授業、小学校水泳大会の開催 ○ 各種水泳教室の実施 ・水泳授業については学校と連携し、感染対策も含めた安全な実施方法を引き続き行っていく。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 ・屋内遊び場のオープンから5年が経過したこともあり、おもちゃ等のリニューアル等行いながら、利用者数の増加につなげていく。 ○ 社会体育施設の運営管理 ・「イコーゼ!」について、指定管理者制度導入の検討も行ったが、コロナ禍により管理料等を明確に見込めない状況などもあることから、管理体制については、引き続き直営で運営していく。 			
第三者評価委員評価		В		
教育委員評価		В	A 上赤白い - D白い - O&みずい - D亜い	
社会教育委員評価		В	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い	
担当者自己評価		В		

Ⅲ 文化財の保護活用

	1 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進							
重点施策	(1) 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民俗芸能については同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。 (2) 文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未指定文化財の指定と保存・活用を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継承の普及啓発に努める。							
重点項目	○ 補修が必要な文化財の復旧・修理○ 伊達郡役所をはじめとする復旧した文化財の公開と更なる活用○ 郷土の歴史的遺産の調査・保存・整備○ 未指定文化財の調査・指定・保存							
具体的な活動	○ 「全国山城サミット桑折大会」への機運醸成のためのプレ大会開催○ 万正寺の大カヤ周辺整備事業(建物解体、整備設計)○ 旧伊達郡役所周辺整備事業(門扉、塀柵の改修設計)							
成果・評価	 □ コロナ禍のため町民限定となったが、「全国山城サミット桑折大会プレ大会」を実施し、令和3年度の「全国山城サミット桑折大会」に向け、機運の醸成を図ることができた。 ○ 万正寺の大カヤ周辺整備の準備を進め、桑折西山城跡と一体となった伊達氏関連遺跡の整備を進めることができた。 ○ コロナ禍により「歴史案内人育成講座」は開催できなかったが、全国山城サミットプレ大会「歴史散歩」や小学校の学習活動、町外団体の歴史ツアー等で歴史案内人が説明する等、町内外の方に本町の歴史遺産を広めることができた。 							
改善・充実策	○ 「全国山城サミット桑折大会」を成功させるため、町民一丸となって事業や歴史的遺産の価値を内外に周知していく必要がある。○ 旧伊達郡役所を中核とした中心市街地の整備が必要である。○ 歴史案内人の活動・体制の充実が必要である。							
第三者評価委員	員評価	В						
教育委員評価		В	A 上赤白い - D白い - OSST・ - DT・					
文化財保護審議委員評価		В	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い					
担当者自己評価		В						

Ⅲ 文化財の保護活用

重点施策	2 史跡西山城跡保存整備事業の推進					
	(1) 「史跡桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」 に基づき、史跡及びその周辺の整備事業を推進するとともに、適切な保 存管理及び公開・活用に努める。					
重点項目	○ 史跡桑折西山城跡保存整備事業の推進○ 史跡周辺の整備事業の推進					
具体的な活動	○ 史跡桑折西山城跡整備事業(西館枡形状虎口の遺構整備、階段・遊歩道・サイン等施設整備)○ 大かや園内へのガイダンス施設設置○ 大手登城口整備(遊歩道、サイン、城址碑等整備)					
成果・評価	 ○ 西館周辺整備が完成し、本丸から西館まで、史跡指定範囲の整備事業が完了したことにより、遺構を見学しながら城跡を周遊できるようになった。 ○ 観音寺から大手門跡を経て本丸に至るルートが完成し、アクセスの向上が図られた。 ○ 史跡全体を案内するガイダンス施設が完成し、登城前に城跡の概要を学ぶことができるようになった。 					
改善・充実策	○ 万正寺の大カヤ等関連遺跡の整備や、主要道路からの案内板等整備、伊達氏 関連遺跡を巡るコースの設定等の整備を進める必要がある。					
第三者評価委員評価		В				
教育委員評価		В	A 上赤白」、 - D白」、 - OSS西」、 - D亜、			
文化財保護審議委員評価		В	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い			
担当者自己評価		В				

Ⅲ 文化財の保護活用

生涯学習課

	3 旧	伊達郡役	所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進	
重点施策			と所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。 首の適切な管理と所蔵品の公開に努める。	
重点項目	~			
具体的な活動	○ 旧伊五代方○ エー○ 旧伊	P達郡役所 で厚展」の ールプロシ P達郡役所	全画展「伊達氏の城」の開催。 所 NHK連続テレビ小説「エール」巡回展、「半田銀山と の開催。 ジェクト「旧伊達郡役所ライトアップ」の開催。 所活用事業「サンフォトこおり写真展」の開催。 ほによる被災からの復旧準備。	
成果・評価	○ 桑折西山城跡整備事業や全国山城サミットに関連する企画展を実施し、山城サミット事業や史跡整備事業について知ってもらうことができた。○ 社会的に話題となっているテーマで特別展を行うことにより、新たな観覧者層を獲得することができた。○ 福島県沖地震被害からの応急修理を実施した。			
改善・充実策	 ○ 文化財保護法改正の動向を見極めながら、適切な文化財建造物の活用を行う必要がある。 ○ 種徳美術館の収蔵品、寄託品を公開するとともに、関係自治体や団体と連携しながら、展示の充実を図る必要がある。 ○ 文化庁、県文化財課の指導を受けながら、中心市街地の歴史遺産の中核となる施設として旧伊達郡役所及び種徳美術館の復旧を行う必要がある。 			
第三者評価委員	評価	В		
教育委員評価		В		
文化財保護審議委員評価		В	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い	
担当者自己評価		В		

第3 教育委員会の校長に委任する事務の管理 及び執行状況

令和3年2月25日

学校名 桑折町立醸芳小学校 職氏名 校長 高野 孝男

令和2年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

学校経営・運営ビジョン**「本物を求めて輝く醸芳っ子」の共通認識と具現化**を図り、「本物のあいさつ」「本物の学び」「本物の思いやり」「本物のチャレンジ」のできる子どもを育成する。

- (1) 教育目標具現のために、教職員、児童、保護者が一体となり、「あいさつ」「学力向上」「思いやり」「体力向上」に重点を置き、「児童の姿・結果」の出せる着実な実践をする。
- (2) 保護者、地域から応援、信頼される学校づくりをする。
- (3) 教育公務員としての服務の厳正、不祥事根絶(本物の安心・安全)に取り組む。

2 学校経営総合評価

- (1)「本物のあいさつ」「本物の学び」「本物の思いやり」「本物のチャレンジ」を合言葉に、児童、 教職員、保護者に意識化できる継続した働きかけを工夫することにより、その成果として児童の 姿や結果として着実に現れてきている。
- (2) 新学習指導要領完全実施と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日々の授業の充実や活用力の育成、朝の読み・書き・計算の「徹底反復の時間」の徹底、主体的な家庭学習態度の形成へ向けた「確かな学力」の定着へ向けた取組を行うことができた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、国語科・算数科の自主公開を行い教職員の学習指導方法の改善を図ることができた。
- (3)「心の教育・いじめ・不登校」については、関係機関やSC、SSW等と連携を図りながら、本人、保護者に寄り添いながら対応してきた。QUテストの分析に基づく一人一人の特性の理解とよりよい学級経営の充実のための研修会の実施や「不登校対策支援シート」を活用したケース会議の実施等により、早期発見・早期対応や改善と着実な成果をあげている。
- (4) 保護者、地域から応援信頼される「安心・安全な学校づくり」として、新型コロナウイルス感染症対策の徹底のために、新しい生活様式「マ(マスク)キ(距離)カ(換気)テ(手洗い)ケ (検温)」の徹底に努めた。毎朝の立哨指導、授業における地域人材の積極的な活用とともに、情報発信(学校便り月2回、ホームページ毎日更新、学年便り等)により、学校の教育活動への理解と協力連携を深めながら、信頼感へとつなげることができた。
- (5) 校内服務倫理委員会の定期的な開催や不祥事防止担当等輪番制による提言や「信頼される学校づくりを職場の力で」の活用、服務倫理ニュース等の啓発を行うことで当事者意識を高めることができている。校内服務倫理委員会の運営の仕方の工夫、外部者参加の機会の増加等については、今後も改善を図っていきたい。「風通しの良い職場づくり、同僚性を高める職場づくりこそ不祥事根絶」の最善策であるという認識に立ち、継続した取組を行っていく。

3 学校経営課題の実施状況

(1)「あいさつ」「学力向上」「思いやり」「体力向上」に重点を置き、「児童の姿・結果」の出せる着実な実践

項目	主 な 実 践 事 項	評 価達成状況
重点事項	□ 「本物のあいさつ」「本物の学び」「本物の思いやり」「本物のチャレンジ」を合言葉とした教育活動の充実・改善	В
実践事項	〈知〉「授業スタンダードチェック表」を活用した授業改善、講師招聘による一人一授業、互見授業の日常化、日々の授業観察(一日2回)、授業改善ノートの作成(一人3冊以上)、国語科・算数科の自主公開読み・書き・計算の「徹底反復」の徹底、家庭学習の習慣化、読書の習慣化	В

1	1	ı
	〈徳〉あいさつ力の向上、よさを認め合う学級集団づくり、ふるさと教育、平和学習の推進、キャリアパスポート活用したキャリア教育の充実、考える道徳、議論する道徳の授業の推進、醸芳っ子の約束を活用した規範意識を高める生徒指導の充、ボランティア活動の推進	В
	〈体〉運動身体プログラムの自校化、外遊びの奨励、体育委員会のスポーツ集会、はやぶさタイムの充実、タグラグビーの継続、体育専門の外部講師や体育専門アドバイザーの活用	В
課題等	○ 「授業スタンダードチェック表」を活用した授業改善では、3.5以上のが増え、授業改善ノートを作成し日々の授業改善が図られてきている。徹底2月のチェックテストでは、大幅な向上が見られたことから、指導と評価のと本質を理解した指導方法を継続していく。 ○ どの学年も国語科、算数科の単元テストの平均85点以上に近づきつつあカテスト問題の読解力、活用力を高め、時間の中で問題を解く確かな力を身	医反復の の一体化 ある。学
「水だる子	プノスト同園の記解力、活用力を高め、時間の中で同園を解く確かな力を変させていく必要がある。 新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮した「主体的・対話的で深い学での実現と対話的で深い学びの授業の質を高める必要がある。 家庭学習について、自主学習ノート展示コーナーの設置や「家庭学習のでにより家庭学習の工夫についてオリエンテーションを行ったが、主体的に家に取り組む習慣が身に付いていない子も見られる。(児童82%、保護者74%教師7) に取り組む習慣が身に付いていない子も見られる。(児童77%、保護者62%、教師2) 記書が身に付いている学年とそうでない学年の温度差が見られ、引き続きしさ、読む習慣を身につけさせていく必要がある。(児童77%、保護者62%、教師2) キャリアパスポートを活用したキャリア教育(学級活動(3))の一層の図書室のキャリアコーナーの活用をさせていく。 より一層、「他人を思いやる心」が醸成されるように取り組んでいく必要がある。 おいさつ運動、あいさつ名人等の取組により、一人一人の「あいさつ力」付きつつある。さらに、気持ちの良いあいさつ、登下校中や家庭での挨拶のに力を入れていく必要がある。 年度当初全職員で「体力向上プログラムの研修」を実施し共通理解を図って、どの学年も運動量の確保ができた。運動に対する意欲や関心を高めるた育専門の外部講師や体育専門アドバイザーの活用を図った。新体力テストで幅跳びや50m走等の瞬発力、敏捷性、筋持久力が昨年度よりも劣っている多く、次年度も継続した取組を行っていく。 歯みがき、肥満指導については、さらに担任、家庭と連携を深めながら、な働きかけの工夫や継続した取組をしていく必要がある。	が で R 7 5 m 6 m 7 m 7 m 7 m 7 m 7 m 7 m 7 m 7 m 7

(2) 保護者、地域から応援、信頼される学校づくり(本物の地域との連携強化)をする。

項目	主 な 実 践 事 項	評 価達成状況
重点事項	□ 児童、保護者、地域へ積極的な関わり、信頼関係づくりの強化	В
	○ 地域の特色を生かした教育活動(体験)の推進	В
実践事項	○ 学校評価の推進	В
	○ HP、学校だより、学年だより等による積極的な情報発信	А
課題等	 ○ 桑折町地域学校協働活動推進本部コーディネーターと連絡を密にした人材の積極的活用を図ってきた。コロナ禍ではあるが、状況を見極め、有効的な地域素材の活用の仕方の工夫に努める必要がある。 ○ 平和学習派遣事業が中止となったが、カリキュラムを再構築しながらることができた。次年度山城サミット全国大会の開催に向け、ふるさと力を入れていく。地域の文化遺産の学習の推進、地域の行事や祭り(調祭等)への児童の参加を一層促していく。 ○ 学校評価については、見やすい書面やホームページの掲載により、保明責任を果たしていく。また、早急な改善策については、教職員に共通た。 	活用時期、 学習を進め 教育に一層 或訪神社例大 保護者への説

- 学校評議員会を2回実施し、学校関係者評価の観点から、率直に多角的な意見を 述べていただいた。学校評価項目やアンケートの分析結果の考察について、次年度 に改善を図っていく。
- 毎日のホームページの更新に心がけ、月2回の学校だよりの発行、学年だより等で情報発信に努め、信頼関係づくりに努めた。今後も、各学年の教育活動の様子が一層タイムリーに理解していただけるホームページ、学校だより、学年だより等を充実していく。

(3) 教育公務員としての服務の厳正・不祥事根絶(本物の安心・安全)

項目	主 な 実 践 事 項	評 価達成状況
重点事項	□ 教職員の感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底	В
実践事項	○ 校内服務倫理委員会の輪番制による提言、外部講師の招聘、風通しの良い職場づくりと「報・連・相体制」の確立	В
	○ 教職員一人一人の日々の取組の評価と継続的な指導、高い倫理観と 自律心を持たせる指導、学校事故防止のために最大限の努力をする姿 勢の醸成	A
	○ 校内服務倫理委員会の定期的な開催と共に「信頼される学校を職場の	力で」を活
	用をしたり、不祥事防止担当等輪番制による提言による会の運営を工夫	したりした。
課題等	服務倫理委員会の時間の確保、計画的な運営、外部者(弁護士、PTA征	投員、警察)
	の会への講師の招聘等コロナ禍のため課題が残った。	
	○ 多忙化解消に向け、教職員の勤務時間の管理、働き方改革宣言として	毎週水曜日
	18時退勤として継続実施しているが、教職員一人一人の意識改革まて	だは至ってい
	ない。次年度、「校務運営システム」の稼働等により、仕事の効率化を図	-
	○ 「風通しの良い職場づくり、同僚性を高める職場づくりこそ不祥事相策であると考え、教職員一人一人とコミュニケーションの機会を多くとの日々の取組を称賛し、強みやよさに気づかせてきた。教職員の相談窓役割の自覚と意識化、自己目標達成へ向けた意欲やステージに応じた資上を図っていく必要がある。	り、教職員

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。 A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

【校長学校経営評価】

令和3年2月26日 学校名 桑折町立桑折町立睦合小学校 職氏名 校 長 旗野 宣久

令和2年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
- (3) 学習指導要領を踏まえた指導の充実
- (4) 共生の心を育み「いじめのない学校」をめざす
- (5) 健やかな心身を育てる健康教育の推進
- (6) 読書指導の充実
- (7) 少人数の良さを活かした指導の充実
- (8) 指導力を培う校内研究・研修の充実

2 学校経営総合評価

(1)「向上心を持ち、実践力のある児童の育成」の教育目標と児童像の具現に向け、教職員が一丸となり 教育活動を進めてきた。方針第一にある「安全・安心、そして信頼される学校であること」は、家庭 や地域の信頼があってこそ豊かな教育活動が成り立つことを全職員で常に確認してきた。開かれた学 校を目指し、学校のホームページや学校だよりで学校の様子の紹介に努めてきた。

また、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、臨時休業中の児童の確認や、再開後もマスク着用などの新しい生活様式を徹底させ、児童の感染防止に努めた。

(2) 学力向上に関しては、町の方針と事業、現職教育の相互関連を密にして取り組むことができた。現職教育では、共同歩調で研究主題に沿って実践を進め、成果を共有し、教員が自らの授業力向上に努める意識が向上した。授業力向上のために、授業研究の機会をはじめ、相互の授業を見合う機会を設定した。

個々の児童にはそれぞれののびが見られるものの、年度当初の休業により指導する側の取りかかりの足並みが乱れたことは認めざるを得ない。そこで、授業研究以外にも、町の施策である徹底反復について校内で互見を取り入れた研修を行いながら、共通認識での取り組みを目指してきた。

また、現職のテーマでもある「主体的、対話的で深い学び」をめざす授業では、昨年までの成果として少人数での意見交換があったが、感染防止のためなかなかできない状況であった。そのため、電子黒板や実物提示装置などICT機器を活用して意見交換を行うなど、研究の視点を柔軟に変更しながら研究実践を進めることができた。これによってGIGAスクール構想での一人一台の端末導入に備える準備が進む効果ももたらされた。

(3) 睦み合う心の学校として、「いじめのない学校」をめざし、調査や日常観察を重視し、少人数の良さを活かした指導を徹底してきた。発生した場合には組織的に対応することができ、迅速な対応ができた。また、情報を共有しながら事後の対応に当たり、児童のケアや再発防止を行っている。

今後も「全校生を、全職員で」見守る体制を継続させていく。

(4) 体力向上の「1校1実践」は、本校の伝統の一つとして、授業や学校行事との関連から、体力を向上させてきた。運動会や町の水泳大会は中止になったが、秋の代替え行事の「スポーツフェスティバル」や持久走記録会、なわとび記録会については感染防止に配慮しながら実施し、児童がめあてをもって練習に取り組み成果を発揮することができた。運動に対する高い興味関心を維持させて、体力向上にむけての意欲を維持していきたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 「進んで学ぶ子ども」の育成(学力の向上)

項目	主 な 実 践 事 項	評 価	
		達成状況	
	① 「主体的、対話的で深い学び」をめざす授業を実践する。	A	
重点事項	② 自ら学ぶ学習習慣を育成する。	В	
	③ 読書習慣を育成する。	В	
	① ア 「わかった、できた」を実感できる授業実践	В	
実践事項	イ 学び方を身につけ、活用・表現力を高める授業づくり	В	
	ウ 活用力・表現力を高める授業実践	В	
	② ア 家庭と連携した家庭学習の推進(家庭学習スタンダード)	Α	
	イ 自主学習の工夫(ノート作りと自主学習ノート展示会)	Α	
	③ ア 学年必読書の設定と読書奨励	В	
	イ 読書活動の充実	A	
	ウ 家読取組コンクールへの取組	В	
	① ウ 反復学習(学びタイム)の実践が進み児童に定着してきている。	重点期間を	
課題等	設けて実践の充実を図ってきた。教師の授業力について、感染状況	に応じた指	
	導を進められるようにしていきたい。		
	② イ 家庭学習のノート展示は良い刺激となっている。家庭での学習が	習慣化して	
	きている児童も多いので、連携を図りながら、質的な向上を目指したい。		
	③ イ 司書来校により環境が整備された。司書やボランティアによる読	み聞かせも	
	定着している。差は縮んできたが、家庭毎の差がある家読の充実を図	りたい。	

(2) 「思いやりのある子どもの育成」(豊かな人間関係づくり)

主 な 実 践 事 項	評 価
	達成状況
① 望ましい人間関係を育成する。	А
② 自他の命を大切にする豊かな心を育む。	В
③ 豊かな社会性を育成する。	A
① ア 互いのよさを認め合う学級づくり	A
イ 相手を思いやる心の育成	В
ウ 縦割り活動、異学年交流活動の充実	В
② ア 「道徳科」の充実	В
イ 命を大切にする指導の充実	A
ウ 自己肯定感・存在感の醸成	A
③ ア 体験活動の充実	В
イ 地域との連携	В
ウ 学校ボランティアの活用	В
① イ 教科や単元を見通して言語活動の適切な位置づけをするととも	に、話し方
のスキルを発達段階に応じて身につけさせていくようにする。	
② ア 道徳科の評価について、通知票への表記塔も含めて研修を続けて	きた。今後
も継続していきたい。	
③ ア 計画していた体験活動や出前授業ができなくなった事例もあった	。しかし、
ネットや図書資料を利用して調べ学習を行うことなどに努めた。次年	度もできる
方法を模索しながら体験活動を実施したい。	
	 ① 望ましい人間関係を育成する。 ② 自他の命を大切にする豊かな心を育む。 ③ 豊かな社会性を育成する。 ① ア 互いのよさを認め合う学級づくり イ 相手を思いやる心の育成 ウ 縦割り活動、異学年交流活動の充実 ア 「道徳科」の充実 イ 命を大切にする指導の充実 ウ 自己肯定感・存在感の醸成 ③ ア 体験活動の充実 イ 地域との連携 ウ 学校ボランティアの活用 ① イ 教科や単元を見通して言語活動の適切な位置づけをするととものスキルを発達段階に応じて身につけさせていくようにする。 ② ア 道徳科の評価について、通知票への表記塔も含めて研修を続けても継続していきたい。 ③ ア 計画していた体験活動や出前授業ができなくなった事例もあったネットや図書資料を利用して調べ学習を行うことなどに努めた。次年

(3)「元気でねばり強い子どもの育成」(健やかな心と体の育成)

西 口	ナか年時事項	₹ 7 .T.
項目	主な実践事項	評 価
		達成状況
	① 基本的生活習慣を育成する。	A
重点事項	② 体力の向上を図る。	A
	③ 健康・安全教育の充実。	В
	① ア 心身の健康を保つ能力の育成(早寝早起き朝ごはん)	В
実践事項	② ア「体力向上1校1実践」	A
	イ 授業充実(運動身体プログラムの実践)	В
	③ ア 専門家による食育授業と健康管理を推進する。	A
	イ 健康、安全、放射線教育の充実	A
	① ア 養護教諭の積極的な関わりで、虫歯治癒率が向上した。啓発を継続	きしたい。
課題等	③ ア 栄養士の協力により、食育指導が充実した。今後、肥満傾向の児	童もいるこ
	とから、養護教諭・家庭と連携した取り組みを充実させたい。	
	イ 感染症予防についての授業も来年度は計画的に実施していきたい。	

(3)「教職員の管理」(信頼される学校づくり・不祥事防止)

項目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
	① 授業力向上の研修充実・実践	А
重点事項	② 適切な情報発信	В
	③ 不祥事防止の徹底	A
	① 共通実践の確認と同僚性の発揮	A
実践事項	② ホームページや学校・学年だよりの発行	В
	③ 服務倫理委員会の機能と服務行動計画の適宜確認	В
課題等	① 機器導入に伴い、その活用を図った授業の充実に努めたい。	
	② 学校だよりの発行、ホームページの更新を定期的に行っていく。	
	③ 高い倫理観を共有し、自分に置き換えて考えることができるように	して、不祥
	事の根絶に努めていく。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C (2): やや目標の達成には至っていない。

令和3年2月12日

学校名 桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 遠藤 和宏

令和2年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

本校の教育理念は、福島県教育委員会、県北教育事務所、桑折町教育委員会の基本方針に基づき、歴史と伝統を誇る半田醸芳小学校の根底にある「醸芳」の精神や、「半田銀山」にまつわる勤労意欲、不屈の精神、人間尊重の教育を基調として、「半田プライドを胸に ふるさとを愛し 高い志と強い意志をもち 地域と共に学ぶ半田っ子」の育成をめざす。

そのために、以下のことを推進する。

- (1) 「すべては児童のため」を基本においた経営
- (2) 「チーム半田」による質の高い教育活動の創造
- (3) 教育目標達成のための3本の柱(知力・心力・健康体力)を軸とした確かな教育実践
- (4) 新学習指導要領を基に、教師一人一人の指導力の向上を図る研修の充実と、校務分掌上の組織 を積極的に生かした学校経営
- (5) 生徒指導の機能(共感的理解・自己存在感・自己決定)を生かした教育活動の展開
- (6) 伝統ある地域の教育力を生かし、学校・家庭・地域が一体となった教育実践
- (7) 安心・安全、児童が大好きな学校環境・学級経営
- (8) 「桑折町教育委員会重点」に基づいた、重点目標の実現

2 学校経営総合評価

(1) 学校経営・運営ビジョンの具現に向け、毎月の職員会議示達で学校運営の方針や校長の考えを明確に示し、教職員一人一人に学校経営に対する参画意識をもたせ、学校課題の解決に向けて一丸となって取り組んだ。

本校の特色ある教育活動の一つである地域学習「ふるさと学」を学びの中心にすえ、地域の高い教育力を活用し、「半田ならでは」の教育活動を展開することができた。今年度はコロナ禍の状況で、活動の中止や延期を余儀なくされたが、2学期に入って状況が落ち着いてからは、町無形文化財「半田銀山祇園ばやし」(3~4年)、ホタル学習及び学校田での稲作栽培(5年)、半田銀山そば栽培及び半田銀山・西山城を中心とした歴史学習(6年)など、密度の濃い学習を行うことができ、郷土半田を愛する心の育成に努めることができた。

今年度の現職教育(校内研修)は、コロナの影響もあり授業研究会が2学期のスタートとなったが、ふくしまの「授業スタンダート」をもとに、一人一研究授業を実施した。事後研究会では 町教育委員会指導主事の助言をもとに、成果と課題を共有しながら教師の授業力アップを図った。

(2) 教育目標達成のため、教育課程や諸行事等の反省を生かしながら、生き生きと学校生活を送る児童の育成と教育活動に取り組み、「明日も学校に来たい」「明日も勤務したい」「通わせてよかった」「おらが半田の学校」と思える学校づくりに取り組んだ。

生徒指導に関しては、学級経営の充実を図るとともに、日常生活の中での声かけ、生活アンケートやアンケートQUにより児童の実態を的確に把握し、問題の早期発見と早期解決を図った。また、生徒指導協議会で教職員間で共通理解を図りながら、「いじめ解決100%、不登校出現ゼロ」を目指した。

いじめに関しては積極的認知を行い、4件全て解決することができた。不登校はいないが、登校渋りが1名いる。昨年度もそういったことがあり、解決に時間がかかりそうであるが、保護者と連携を図りながら、町SCにつなぎアドバイスを受けながら、よりよい解決に向けて努力したい。

- (3) 教職員人事評価制度を活用し、教職員が教育目標の具現化に主体的に参画することにより、責任感や職務への意欲を高め、能力開発に努めた。また、不祥事を自分のこととしてとらえることができるように、ねらいを絞った具体的な実践事例と内容等の研修を、それぞれの担当が中心に行う提案型の服務倫理委員会を実施した。今年度はPTA役員など外部人材の参加も実現した。次年度も教職員一人一人の倫理観を高め、不祥事ゼロを達成し、半田醸芳小学校には不祥事は無縁の事であることを確認していきたい。
- (4) 年度末、来年度の学校経営・運営ビションを策定するにあたり、半田醸芳小学校の強みと弱みを教職員とともに確認した。児童は素直でまじめに努力できる、人間関係が良好で友達に優しいという実態が確認された。これまでの教職員の指導及び家庭・地域の教育力の成果と考える。一方、学力が確実に定着していない、指示待ちで消極的、心が弱い面も見られるため、次年度は「主体性、積極性」を目指す重点目標を設定して取り組んでいく。教職員は教師力(専門性、研修意欲)が大変高く、「チーム半田」として意思疎通、共通理解が図られ、組織として一丸となって教育活動を行った。今後も引き続き努力していきたい。保護者・地域は、地域人材が豊富で、保護者が大変協力的であることが、今年度の活動を振り返って再確認をした。「地域と共にある学校」を目指し、地域の教育力を最大限活用していきたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 学校経営全般について

_		評 価
項目	主な実践事項	達成状況
重点事項	1 教師と児童が半田プライドをもち,自信をもって教育活動ができる 学校経営の推進 【学校評価「教育目標」自己評価3.6以上】 2「桑折町の15歳のめざす姿」の実践と具体化 3 地域や保護者との信頼を基盤に、学校経営の積極的な発信と保護 者・地域連携の強化 【学校評価保護者アンケート評価4.0以上】	A
実践事項	○ 学校経営・運営ビジョンの具現化を図り、職員会議等で具体的な取組について共通理解を図りながら進める。	В
	○ 児童へは、全校集会や学校行事など機会を捉えて説明をしていく。	A
	○ 陰山メソッド(徹底反復練習)、体力向上「一学級一実践」など、 町全体で取り組む事業について、改善を加えながら年間を通して確実 に実践する。	A
	○ 学校だよりを週1回発行、HPを毎日更新し、学校の取組や児童の 活躍の様子を積極的に公開する。	A
	○ 地域の人材を生かした教育活動の推進、地域行事への積極的参加を 促す。	В
	○教育目標自己評価(第2学期)は、「考える子」が3.8、「思いやりが3.7、「たくましい子」が3.9と、全て目標値を超えた。学校経	経営の積極的
課題等	発信については、保護者アンケートが4.6と高評価だった。保護者とう感染症対策についても、4.3の評価を得ている。 ○今後の課題は、自己評価が低かった「ふくしま活用力シートの活用」「 域への道徳の授業の公開」「人権教育の保護者や地域への啓発」である	「保護者,地
	により、地域への授業の公開が自粛された影響がある。来年度は状況を ら、地域に開かれた学校づくりを推進していきたい。	判断しなが

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A (4): 十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

(2) 学校教育の管理について

項目	ア官埋について 主な実践事項	評 価
		達成状況
	1 確かな学力の定着と、児童の主体的・協働的に学ぶ態度の育成 【自己評価 3.5 以上】	A
	2 「学力に責任をもつ」ために、教師の指導力向上を図る研修の充実	
重点事項	3 ふるさとに誇りをもたせ、学びと社会とのつながりを意識した「半	
	田ならでは」の教育活動を重視	
	4 「いじめ見逃しゼロ」「不登校ゼロ」を目指した積極的な生徒指導 の推進	
	の推進 5 児童が安心・安全に学校生活を送ることができる学校環境の維持安 心・安全・美しい学校環境	
	○ 児童の課題意識と解決意欲を大切にした問題解決型の授業を実践 する。	В
	○ 「ちょこっとタイム」「読書タイム」などを活用し、個別指導や読書指導を行い、学力向上の土台とする。	В
	○ 授業研究会では、「ふくしまの授業スタンダード」を基にした指導 方法の研究と講師招聘による充実した事後研究会を進める。	A
実践事項	○ 互見授業や管理職による授業観察を積極的に行う。	В
	○ 伝統文化継承、地域学習、環境学習など、地域の教育力、人的・物	A
	的資源を生かした教育活動を推進する。	
	(半田祇園ばやし、半田銀山、西山城、ほたる学習、だんごさし、緑の	
	少年団、森林学習、学校田、そば栽培) ○ アンケート QU や生活アンケート等により児童一人一人の実態を的	A
	で	А
	○ 学校施設の日常的な点検と、児童と共に行う安全点検により、安全 確保と事故防止に努める。	A
	○ ハザードマップをもとにした、実践的な避難訓練を実施する。(第 二次避難場所への避難)	В
	○「確かな学力の向上を目指す学習指導」についての自己評価は3.7 と	
	えた。今年度は、コロナの影響で授業研究会が2学期のスタートとなっ スタンダードをもとに、町教育委員会指導主事の指導助言をいただきな	
	した授業研究を進めることができた。	
課題等	○積極的ないじめ認知を行い、その結果4件全て解決することができた。ないが、登校を渋る児童が現在1名(昨年度も渋りがあった)がいる。	
床起于	者と連携をとり、SCとつないだり、校内の支援体制を整えたりするこ	
	することなく登校している。	
	○半田ならではの教育活動についても、コロナの影響によりスタートが追動が中央になったりしたよのがなった。しかし、20世界以際はスの深め、	
	動が中止になったりしたものがあった。しかし、2学期以降はその遅れように、充実した教育活動を展開することができた。「半田祇園ばやし	
	表会が中止となったが、学習成果発表会として保護者に披露する機会を	
	ができた。 ○○全年度は「経業研究!!Mの互目授業が十分にできなかった」そのかわり	に答用酔ぶ
	○今年度は、授業研究以外の互見授業が十分にできなかった。そのかわり 授業観察を積極的に行い、授業の様子をホームページで積極的に公開し	
	は、授業の初めや終わりといった、部分的な互見授業も積極的に行い、	
	│ し合える雰囲気を整えたい。 │○桑折町のハザードマップを基に, 第二次避難所への避難経路の見直しを	シ行ろこしが
	○祭が町のバリートマックを基に、第二次避難所への避難経路の見直しを できた。時間の関係上、第二次避難所までの避難訓練は行わなかったか	
	ートであるか,定期的に点検をする必要がある。本校は土砂災害の危険	
	区であり,関係機関とも連携をとっていきたい。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

(3) 教職員の指導・監督、その他について

項目	主 な 実 践 事 項	評 価
	1 教職員一人一人の危機管理意識、服務倫理意識の高揚と事故・不祥	A
重点事項	事の絶無	
	2 全職員の能力や勤務の状況を把握と、多忙化解消のための改善策の	
	提案,勤労意欲の向上	
実践事項	○ 教職員人事評価制度を活用し、教職員それぞれの目標達成のため、	Α
	指導助言を行う。	
	○ 外部講師の招聘や担当者による取組の提案など、服務倫理委員会の	Α
	充実を図る。また、校長による定期的なリーフレットにより注意喚起	
	を図る。	
	○ 管理職の授業観察や日頃の声かけなどにより、教職員の頑張りに対	В
	して、「認め、励まし、自信」をもたせ、勤労意欲を高揚させる。	
	○人事評価の期首面談では、教職年数や校務分掌などから期待する姿を教	対職員に提示
	し、中間や期末面談ではそれぞれの成果と課題を示しながら指導助言を	行うことが
	できた。各個人の手立ての中に、不祥事防止に関わる事項も入れるよう	に助言した。
課題等	○今年度の服務倫理委員会は、各担当からの提案型での実施とした。また	-今年度はP
	TA役員に参加してもらうなど外部人材を活用した。コロナの影響で警	警察署員は実
	現しなかったが、今後も取組に客観性をもたせながら、不祥事防止を図	引っていきた
	٧٠ _°	
	○日頃のコミュニケーションを大切にし、日頃の頑張りを称賛したり、気	〔軽に相談に
	のったりした。教職員の職務に対する意識や意欲は高く、教職員のボト	ヘムアップが
	図られてきたと感じる。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

令和3年2月24日

学校名 桑折町立伊達崎小学校 職氏名 校長 大 木 修

令和2年度学校経営評価報告書

- 1 学校経営の方針(教育目標及び重点事項)
 - (1) よく考え本気で学習する子ども
 - ① 個に応じた学習指導を推進します。 ② 学びに向かう集中力を高めます。
 - ③ 授業改善により、資質能力を高めます。
 - (2) 心豊かな礼儀正しい子ども
 - ① 特別の教科道徳を要とし道徳性を養います。
 - ② 心に響く体験活動・読書活動を推進します。
 - ③ 地域の素材を意図的に活用し、授業を公開します。
 - (3) 明るく元気にやりとげる子ども
 - ① 「生き抜く力」育む教育を推進します。
 - ② 運動の日常化を推進します。
 - ③ 地域や機関と連携し健康教育を推進します。
 - (4) 保護者・地域に開かれた学校
 - ① 学校の見える化を図り、保護者・地域との協力体制を構築します。
 - ② 円滑なPTA活動の促進を支えます。

2 学校経営総合評価

(1) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大により4月に全国に緊急事態宣言が発出されるなど、コロナ禍の中での教育課程の実施となった。

桑折町教育員会の指導の下、町内の各小・中学校と情報交換をし、授業などの教育活動を行った。特に入学式、運動会、宿泊学習、学習発表会、マラソン大会などの学校行事については、それぞれ下記のように実施した。

- ① 入学式 来賓の参加を控えていただき、在校生は代表児童のみとした。
- ② 運動会 例年5月に実施していたが、9月に午前中の行事としてスポーツ集会とし実施した。
- ③ 宿泊学習 那須甲子少年自然の家での宿泊学習ではなく、会津の見学学習とした。
- ④ 学習発表会 学年発表会として低・中・高のブロックごとの発表会とした。
- ⑤ マラソン大会 ほぼ例年どおりに実施した。

授業については、標準時数を確保し、各学年の内容を履修できる見込みである。

十全とはいかないが、ほぼ教育課程を実施することができて良かった。

- (2) これまで、発達障がいの児童が複数名在籍し、授業離脱等落ち着きのない雰囲気があったが、特別支援学級が新設され、また通常学級でも児童の実態に応じて対応を進めたことにより、改善が図られてきた。
- (3) 桑折町の施策である「読み・書き・計算の徹底反復」について、伊達崎小学校は全校的な取組という点において遅れていたが、体制を整えることができた。
- (4) 保護者の学校評価において、「子どもたちは学校が楽しいと感じている。」の項目の低下が見られた。コロナ禍ではあるが、学校行事等の運営について工夫していきたい。また、家庭で過ごす時間が多くなる中、読書と家庭学習についてさらに取組を充実させたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) よく考え本気で学習する子ども

項目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
	① 個に応じた学習指導を推進します。	A
重点事項	② 学びに向かう集中力を高めます。	В
	③ 授業改善により、資質能力を高めます。	В
	① 授業離脱等、落ち着いて学習に取り組めない児童に対して、	A
実践事項	学級担任を中心として組織的に対応し、適応できるようにする。	
	②ア 「読み・書き・計算の徹底反復」(週4回実施)によって、	В
	基礎学力及び集中力の向上を図る。	
	イ 「家庭学習スタンダード」を活用し、自己マネジメント力	С
	の向上を図る。	
	③ア 自ら考え、ともに学びを深める子どもの育成を目指して、	В
	学習課題の設定とコーディネートの工夫に焦点をあて、研究	
	を推進する。	
	イ 論理的思考力を高めるために、プログラミング教育を進め	В
	る。	
課題等	新型コロナウイルス感染症への対応の中で、授業において「主	
	体的・対話的な深い学び」を実現させるとともに、家庭学習を習	
	慣化させる必要がある。そのために、個々の教員の教科の専門性	
	を高めるとともに、家庭学習のノート指導の充実を図りたい。	

(2) 心豊かな礼儀正しい子ども

項目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
	① 特別の教科道徳を要とし道徳性を養います。	А
重点事項	② 心に響く体験活動・読書活動を推進します。	
	③ 地域の素材を意図的に活用し、授業を公開します。	В
	① 特別の教科道徳の授業において、書く時間を確保し、適切に	В
実践事項	評価する。	
	②ア 縦割り班活動や各種行事により、子どもたちが協力して活	В
	動する力を育成する。	
	イ 読書タイム (週3回) の充実を図り、毎月23日の家読の日	В
	を啓発することにより、読書活動を活性化させる。	
	③ 地域の方々との交流や地域素材を生かした体験活動を充実さ	В
	せ、地域の良さに気づかせ、郷土愛を育む。	
課題等	素直で何事にもまじめに取り組む反面、自分から進んで発言し	
	たり、行動したりする態度にかけている面がある。めあての設定	
	と振り返り・フィードバックを指導に組み入れ、主体的な態度の	
	育成に努めたい。また、良書に親しみ、自分の考えをまとめる活	
	動により、健全な価値観を身に付けさせたい。	

(3) 明るく元気にやりとげる子ども

項目	おもな実践事項	評価
		達成状況
	① 「生き抜く力」育む教育を推進します。	A
重点事項	② 運動の日常化を推進します。	В
	③ 地域や機関と連携し健康教育を推進します。	В
	①ア 「新しい生活様式」をふまえた新型コロナウイルス感染症	A
	対策を徹底し、児童の健康を守る。	
	イ 関係機関の協力の下、防災・減災教育、放射線教育を推進	A
実践事項	する。	
	②ア 運動身体つくりプログラムを自校化し、バランスのとれた	В
	体力の向上を図る。	
	イ 「あぶくまマラソン」「なわとび」の日常化により、持久	A
	力と精神力の向上を図る。	
	③ア 年2回の生活習慣アンケートをもとに、児童への指導と家	В
	庭への啓発を行い、基本的生活習慣の確立を図る。	
	イ 給食センター栄養士・町管理栄養士による「食育」にかか	A
	わる授業を実施する。	
課題等	新型コロナウイルス感染症について、状況に応じて適切な行動	
	がとれるように判断力を高めたい。また、体力向上について高い	
	めあてをもち継続して努力させたい。	

(4) 保護者・地域に開かれた学校

項目	おもな実践事項	評価
		達成状況
	① 学校の見える化を図り、保護者・地域との協力体制を構築し	A
重点事項	ます。	
	② 円滑なPTA活動の促進を支えます。	В
	① 定期的な「学校だより」「学年だより」の発行やホームペー	А
実践事項	ジ掲載を通して、学校の見える化を図る。	
	② 児童数の実態に即したPTA組織の見直しを検討する。	В
課題等	保護者の実態に即して、学校として支えていきたい。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。 C(2):やや目標の達成には至っていない。

【校長学校経営評価】

令和3年2月19日

学校名 桑折町立醸芳中学校 校長 石 綿 厚 職氏名

令和2年度学校経営評価報告書

学校経営の方針(教育目標及び重点事項)

- (1) 自立 ~ 自ら学び、考え判断、行動し、自分を高める生徒(知)
 - ① 生徒が互いに高め合う授業をします。 ② 学力を定着・向上させます。
 - ③ 読書活動を充実させます。
- ④ 志の教育を系統的・計画的に進めます。
- (2) 利他 ~ 思いやりをもち、協力して、他者や社会のためつくす生徒(徳)
 - ① 規範意識を高め、自主性を育みます。 ② いじめ、不登校に丁寧に対応します。
 - ③ 心の悩みの解決に努めます。
- ④ 地域との交流を深めます。
- (3) 健康 ~ 命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒(体)
 - ① 健やかな体づくりと体力向上を図ります。② 健全な生活習慣を形成します。
 - ③ 命を守る安全教育を推進します。
- (4) 努力 ~ 何事にも真剣に取り組む生徒(態度)
 - ① 努力する大切さを理解させます。 ② 計画性を培います。
 - ③ 挑戦する心、強い気持ち、感謝する心を育みます。

2 学校経営総合評価

(1) 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

今年度4月に着任後すぐにコロナ禍で臨時休業となり、生徒の学力保障、教職員の服務 等で、状況判断、指示を迫られる機会がしばらく続いたが、組織を生かして適切に対処で きた。具体的には、様々な案件について、教頭に今までの学校運営の流れを確認し、予想 される問題と解決策を吟味し、教職員の持ち味を生かした指導の方向性を明示し、学校全 体として指示が徹底した。また、その後も、各種校内委員会等で、様々な課題に関する今 までのいきさつを聞いた上で、解決に向かう見通しを明示するなど、適切に対応しており、 現状では、保護者との信頼関係も深まり、スムーズに学校経営・運営が実践できている。

(2) 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

生徒の学力保障に関して、コロナ禍で授業時数の確保や健康状態の維持に知恵と工夫が 求められる中、感染予防や熱中症対策を科学的知見を踏まえて実践し、学校施設も適切に 管理して、学校教育活動の充実に努めた。また、GIGAスクール構想を踏まえ、校内推進組 織を立ち上げ、教職員のICT活用力向上から生徒の学力向上につながるよう、先を見据えた 研修等、確かな見通しをもって推進した。教育課程、学校施設等、適正に管理できている。

(3) 教職員の指導・監督

職務遂行能力向上に向けて、信頼関係を基盤とし、教職員一人一人のステージ、特性を 踏まえた、持ち味を生かす指導を実践した。服務・勤務に関しては、教職員が抱える家庭 事情にも配慮し、様々な制度の活用により、適正かつ働きやすい職場環境作りに努めた。 また、不祥事根絶を目指して校内服務倫理委員会を機能させ、現実的具体的問題を提示し、 危機意識·当事者意識を高めさせ、活気のある、風通しのよい職場環境作りに努めた。

(4) 教育委員会及び関係諸団体との関係

新学期を迎えてすぐに臨時休業となり、教育委員会との良好な関係性構築のないままで あったが、待ったなしの判断場面が多く、生徒の命と学びを守ることを第一に考え、様々 な要望を伝えた。厳しい学校の状況を理解して、大変好意的に寄り添って支援していただ き、充実した環境で教育活動を展開できた。また、各種関係団体とは、コロナ禍で中止と なる行事が多かったが、協力体制の継続が図られ、今後につながる関係性を維持できた。

3 学校経営課題の実施状況

(1)	白ら学び	老き判断	行動し	自分を高める生徒	(授業改善と学力向上)
(I /	ロリエし、				

(1) 自ら学び、	. 考え判断、行動し、自分を高める生徒(授業改善と学力向上)	
項目	主な実践事項	評価(達成状況)
	① 生徒が互いに高め合う授業をする。	Α
重点事項	② 学力を定着・向上させる。	В
	③ 読書活動を充実させる。	В
	④ 志の教育を系統的・計画的に進める。	В
	① 学力向上GDに基づき、一人1研究授業実践を掲げ、「コー	Α
実践事項	ディネート」「振り返り」に焦点化した授業研究を推進する現	
	職教育。3回の互見授業週間設置による、授業改善意識の高揚。	
	② 個に応じた指導による、わかる、できる授業の他、テスト前	В
	数日間昼休みに行うテスト勉強支援や、家庭学習充実の推進。	
	③ 「読書週間」「家読の日」呼びかけ等による推進。	В
	④ 「職業調べ」「立志式」「高校説明会」等による指導の充実。	В
課題等	生きて働く確かな力となる、授業、学校行事、家庭学習等のあ	
	べての学校教育活動や家庭、地域との関連の中で吟味、検討する必	要がある。
(2) 思いやり	をもち、協力して、他者や社会のためにつくす生徒(道徳性、社会	, ,
項目	主な実践事項	評価(達成状況)
	① 規範意識を高め、自主性を育む。	Α

重点事項 ② いじめ、不登校に丁寧に対応する。 В

③ 心の悩みの解決に努める。 В ④ 地域との交流を深める。 В ① コロナ感染予防を含め、集団生活を意識させた指導。今年度 Α 生徒会スローガン「自己啓発、自己研磨」と関連付けた指導。 ② 未然防止、早期発見等、教職員の危機意識高揚と、援助チー 実践事項 В ムシート活用、関係機関や校内組織を生かした指導の継続。

③ Q-Uテスト活用、教育相談実施、日常の生徒観察等、生徒 В 一人一人の変化を見逃さない指導とSC、SSWの効果的活用。 ④ フラワーロードギャラリー作品制作、ふくしま駅伝参加等。 主体的に行動する生徒を育て、いじめや不登校をなくすために、

課題等 を育成し、コミュニケーション能力や人間関係形成能力を高めていきたい。 こし、心身ともに健康で体力を高める生徒(体力向上と健康づくり)

<u>(3) 印を入り</u>	にし、心身ともに健康で仲力を尚める生使(仲力向上と健康づくり)
項目	主な実践事項	評価(達成状況)
	① 健やかな体づくりと体力向上を図る。	Α
重点事項	② 健全な生活習慣を形成する。	В
	③ 命を守る安全教育を推進する。	В
	① コロナ感染状況分析と予防対策を万全に整え、体力向上推進	A
実践事項	計画に基づき、工夫して実施する保体の授業や運動部活動等。	
	② 生徒会活動と関連づけ、家庭と連携した「メディア・コントロール・チャレ	В
	>シジin醸芳中」の実施。学級担任の生活ノート活用による継続	
	的個別指導。コロナ禍の長期休業中に工夫して実施する部活動。	
	③ 交通教室、薬物乱用防止教室、情報モラル教室等の開催。養	В
	護教諭と連携したコロナ感染予防指導。栄養教諭とのT.Tによ	
	る授業や掲示等、食に関する教育の推進。学区内危険箇所確認。	
課題等	特に、1学期初期における1年生の自転車運転等について、丁	寧な安全指
	導と危険箇所における現状確認を、定期的、継続的に実践する必要	要がある。

(4) 努力 ~ 何事にも真剣に取り組む生徒

(1)))))	日子に 5英族に次ヶ艦8 王茂	
項目	主な実践事項	評価(達成状況)
	① 努力する大切さを理解させる。	В
重点事項	② 計画性を培う。	В
	③ 挑戦する心、強い気持ち、感謝する心を育む。	В
	① 職員会議で教職員へ資料提示する等、生徒を指導する教職員	В
実践事項	の啓蒙による、全教育活動における生徒への指導の推進。	
	② 定期テストや、長期休業中の生活や学習について、PDCAサイクル	В
	の意識化と、計画的取組の有用性を実感させる指導の継続。	
	③ 教育活動との関連を教職員へ伝達。集会、壮行会、儀式的行	В
	事等、機会をとらえた、生徒への説話と教職員からの追指導。	
課題等	教職員が持ち味を生かし、機会をとらえて、生徒一人一人の個	に応じ、組
	織を生かした指導ができるよう、アンテナを高くして、経営にある	たりたい。

令和3年 2月25日

学校名 桑折町立醸芳小学校

職氏名 校長 高野 孝男

令和2年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	А
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、 教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職 員の指導力及び資質の向上に努めたか。	В
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・ 体の調和のとれた学校経営に努めたか。	В
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に 示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	А
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に 参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	В
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	В

2 学校運営及び児童生徒,学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実	
1	など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確	В
	実に実施したか。	
	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生	
2	徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努	В
	めたか。	
	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を	
3	把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応する	В
	とともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	
	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不	
4	適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵	А
	守に努めたか。	
	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見	
5	と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故	А
	防止に努めたか。	

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、 児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指 導と監督に努めたか。	В
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	В
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき 声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	А
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努め させ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高 揚に努めたか。	В
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	А
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	В

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委	^
	員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	А
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実	В
	現のために努力したか。	
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して	В
	地域の教育力の向上に努めたか。	D
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・	Α
	協力や参画・活動の推進に努めたか。	, ,
5	校長は、町学力向上推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びPTAとの連携	
	に努めたか。	В

評価は, A, B, C, Dの4段階評価とする。

A(4):十分に目標を達成している。

B (3):おおむね, 目標の達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

令和3年2月26日

学校名 桑折町立睦合小学校

職氏名 校長 旗野 宣久

令和2年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、	А
	その浸透と理解に努めたか。	
	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指	В
2	導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指	
	導力及び資質の向上に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・	А
	徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体	В
	的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経	А
	営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最	
	高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力し	В
	て児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の	
1	充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課	Α
	程を確実に実施したか。	
	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児	
2	童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業ス	Α
	タンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	
	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状	
3	態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対	Α
	応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	
	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学	
4	習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と	В
	命の遵守に努めたか。	
	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の	
5	発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者	Α
	の事故防止に努めたか。	

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に	
	努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう	Α
	絶えず指導と監督に努めたか。	
	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々	
2	の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生	Α
	活が送れるよう指導・監督に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声	
	なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送	Α
	れるように努めたか。	
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努	
	めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性	В
	の高揚に努めたか。	
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、	
	速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるよう	A
	に努めたか。	
	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労	
6	働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管	В
	理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教	
	育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げ	
	て実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携	
	して地域の教育力の向上に努めたか。	В
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連	
	携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	В
5	校長は、町学力向上推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との	
	連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	Α

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。 B(3):おおむね、目標の達成している。 C(2):やや目標の達成には至っていない。

令和3年2月12日

学校名 桑折町立桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 遠藤 和宏

令和2年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、そ	Α
	の浸透と理解に努めたか。	
	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、	В
2	新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し,教職員の指導力及	
	び資質の向上に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・	A
)	体の調和のとれた学校経営に努めたか。	
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に	Α
4	示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に	А
5	参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	
	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責	В
6	任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ,共に協力して児童	
	生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	

2 学校運営及び児童生徒,学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実	A
1	など, バランスのとれた学校運営に努め, 教育委員会に届け出た教育課程を確	
	実に実施したか。	
	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生	Α
2	徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダ	
	ード」を活用して学力の向上に努めたか。	
	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を	Α
3	把握し,事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等,適切に対応する	
	とともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	
	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不	В
4	適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い,児童生徒の人格の尊重と命の遵	
	守に努めたか。	
	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見	В
5	と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故	
	防止に努めたか。	

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、	В
1	児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず	
	指導と監督に努めたか。	
	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指	A
2	導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送	
	れるよう指導・監督に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき	Α
	声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるよ	
	うに努めたか。	
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさ	Α
1	せ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚	
	に努めたか。	
_	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速	В
5	やかな報告と危険個所の表示等,事故防止のための校内体制を整えるように努	
	めたか。	
	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安	Α
6	全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹	
	底と職務の効率的な遂行に努めたか。	

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育	А
1	委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて	Α
2	実現のために努力したか。	
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携し	В
	て地域の教育力の向上に努めたか。	
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・	В
4	協力や参画・活動の推進に努めたか。	
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに	Α
J	家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A (4): 十分に目標を達成している。 B (3): おおむね, 目標の達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

令和3年2月24日

学校名 桑折町立伊達崎小学校

職氏名 校長 大 木 修

令和2年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、そ	В
	の浸透と理解に努めたか。	
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、	В
	新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及	
	び資質の向上に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・	В
	体の調和のとれた学校経営に努めたか。	
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に	В
	示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に	В
	参画できるよう,校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責	В
	任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童	
	生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	

2 学校運営及び児童生徒,学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実	
	など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確	В
	実に実施したか。	
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生	
	徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダ	В
	ード」を活用して学力の向上に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を	
	把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応する	В
	とともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不	
	適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵	В
	守に努めたか。	
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見	
	と修理を適切に行い,児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故	В
	防止に努めたか。	

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、	В
	児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指	
	導と監督に努めたか。	
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指	В
	導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送	
	れるよう指導・監督に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき	Α
	声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるよ	
	うに努めたか。	
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさ	В
	せ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚	
	に努めたか。	
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速	В
	やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努	
	めたか。	
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安	В
	全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹	
	底と職務の効率的な遂行に努めたか。	

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育	Α
	委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて	В
	実現のために努力したか。	
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携し	Α
	て地域の教育力の向上に努めたか。	
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携	В
	・協力や参画・活動の推進に努めたか。	
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに	В
	家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3): おおむね、目標の達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

学校名 桑折町立醸芳中学校

職氏名 校長 石綿 厚

令和2年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、	В
1	その浸透と理解に努めたか。	
	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導	В
2	し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指	
	導力及び資質の向上に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・	Α
	体の調和のとれた学校経営に努めたか。	
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的	В
4	に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営	В
	に参画できるよう,校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	
	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高	А
6	責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して	
	児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	

2 学校運営及び児童生徒,学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充	В
1	実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程	
	を確実に実施したか。	
	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童	A
2	生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタン	
	ダード」を活用して学力の向上に努めたか。	
	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態	A
3	を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応	
	するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	
	校長は,生徒指導上の諸問題について,日々積極的な生徒指導に努め,学習	Α
4	不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命	
	の遵守に努めたか。	
	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発	В
5	見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の	
	事故防止に努めたか。	

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努	В
1	め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶	
	えず指導と監督に努めたか。	
	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の	В
2	指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活	
	が送れるよう指導・監督に努めたか。	
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声な	Α
3	き声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れ	
	るように努めたか。	
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさ	Α
4	せ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高	
	揚に努めたか。	
	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、	В
5	速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるよう	
	に努めたか。	
	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安	В
6	全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の	
	徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育	А
1	委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実	В
2	現のために努力したか。	
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携し	В
J	て地域の教育力の向上に努めたか。	
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・	В
4	協力や参画・活動の推進に努めたか。	
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並び	A
5	に家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A (4): 十分に目標を達成している。 B (3): おおむね, 目標の達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

第4 教育委員会の園長に委任する事務の管理 及び執行状況

令和3年2月28日

職氏名 園長 齋藤 小百合

令和2年度 こども園経営評価報告書

1 園経営の方針

- (1) 「15歳のめざす姿」の実現に向けて、保育所、幼稚園、小、中学校それぞれの教育内容や指導の 在り方について共通理解を図り、小学校への円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。
- (2) 『心豊かにたくましく生きる子ども』の育成のために、「丈夫な体をもつ子ども」、「友達とよく遊ぶ子ども」、「進んで活動する子ども」を目指す。
- (3) 幼稚園生活の中で、事故なく安心して生活ができるような環境を提供する。

2 園経営総合評価

- (1) コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら各年齢1回の年齢別研修会を実施した。昨年度と同じ講師を招き指導をいただいた。来園する度に教師の成長や改善を感じていると評価いただいた。また、幼小連接の保育研究会では、醸芳小学校長のピンチヒッターとして睦合小学校長にご指導をいただき指導のあり方についての共通理解を図ることができた。
- (2) 今年度は、新型コロナウイルスなどの感染症対策のため、園をあげて『新しい生活様式』の習慣化に 努めた。幼児期の特性から難しい場面もあるが、家庭の協力・理解を得ながら園児を守っていくための 方策を講じてきた。(マスクの着用、うがい手洗い、学級活動時のディスタンス等) また、対策を講じながら学びの保障ができるように最大限に工夫して教育活動を進める事ができた。 体力、運動能力向上のため、感染状況をみながら外部講師による運動遊びを実施するとともに、戸外での活動を多く取り入れたことで、個人差はあるものの体を動かす姿が多くみられた。
- (3) 安心して生活ができるように安全点検や日々の安全確認を欠かさなかった。安心・安全な環境を提供することにより、大きな事故や怪我なく一年間過ごすことができた。職員一人一人が危機管理意識を持つとともに避難訓練などの機会を捉え自分の身を守れるような安全教育が必要である。

3 園経営重点事項の実施状況

(1) 10 の姿を踏まえ、主体的・対話的で深い学び(遊び)の充実

項目		評 価
		達成状況
重点事項	○ 園内研修や保育研究会を計画的に取り入れ保育の質の向上を目指す	A
	・ 月1回の園内研修及び年4回の外部講師を招いての園内研修	A
実践事項	・ 幼児自ら主体的に取り組めるような環境の構成と教師のかかわり	В
	・ 遊びの中にある子どもの気付きや試行錯誤を大切にした考える過程を重視した保育	A
課題等	 園内研修会として、各学年10クラスの互見研修会を実施し職員の負担が少なく互いの保育の質を高め合える研修となった。 □ コロナ禍ではあったが、状況を見ながら保育研究会を実施し、職員一丸となって取組み保育の質の向上に繋げることができた。 ■ 主体的に取り組めるような活動の工夫に努めたがさらなる工夫や研究が必要がある。 	

(2) 特別支援教育の充実

項目	主な実践事項	評 価
	工,40人以中,2	達成状況
重点事項	○ 個別の支援・指導計画作成と活用	A
<u></u>	○ 教育相談の実施	Λ
	・ 特別支援コーディネーターを中心とした実効的な支援体制づくり	A
	・ ユニバーサルデザインの視点を生かした環境設定・指導の工夫	A
実践事項	・ 本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供及び	A
天成事识	・ 必要に応じて行う教育相談	A
	・研修会への参加	A
	・ 関係機関との連携	В
	○ 特別支援コーディネーターを中心として支援を実施してきた。また、各クラ	ス支援児
●田日百左	が理解しやすい環境作りを実施していた。	
課題等	○ 支援に関する園内研修会を2回実施し、共通理解が深まった。	
	● 関係機関との連携については今後も継続して取り組んでいきたい。	

(3) 体を動かす気持ちよさの体験

項目	主な実践事項	評 価
	工,8人成4,8	達成状況
重点事項	○ 体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫	Λ .
里尽事快	○ 体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実	A
	・ 体を動かす遊びの継続的な取り組みの推進	A
	· 1学年1実践、1学級1実践	A
実践事項	・ 外部講師による幼児への運動遊びの指導	A
天战争识	・ 運動遊びを誘発する環境の構成	A
	・身体諸機能の発達に応じた場の工夫	В
	・ 意欲を引き出す教材や教具の提示	В
	○ コロナ禍の中でも対策を講じながら戸外での遊びや散歩などを多く取り入	れた。
⇒田日百万大	○ 自ら進んで取り組みたくなる環境構成の工夫や教師の援助に努めた。	
課題等	○ コロナの状況を見ながらではあったが、外部講師による運動遊びを各学年等	実施できた。
	● 苦手意識が強く取り組もうとしない幼児へのかかわりが課題である。	

(4) 絵本への興味や関心を育む

項目	主な実践事項	評 価 達成状況
重点事項	○ 絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
	・ 経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A
実践事項	・ 1日1冊絵本を読む時間の確保	A
大成于 5	・ 絵本の部屋の充実	A
	・ 家庭での読み聞かせの啓発(1日1冊)	В
課題等	○ 町からの予算を活用して絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの充実に努めた○ 毎週全家庭に幼稚園の絵本を持ち帰るようにしており、読み聞かせをするままでいる。● 楽しんで読み聞かせをしている家庭と全く読まない家庭の差が課題である。せの大切さを知らせても実感できない保護者がいるため工夫が必要である。	家庭が増

(5) 『ことばの教室桑折』の指導体制の充実

項目	主な実践事項	評 価
FR II	上,'& 大成中"只	達成状況
重点事項	○ 指導体制の充実	A
	・ 言語指導の充実	A
実践事項	・ 必要な手続き書類や受付方法等の共通理解	A
大成于只	・ 必要な教材準備と適切な環境構成	A
	・ 言葉の教室にかかわる職員の業務分担調整	A
課題等	○ 関わる職員が兼務であり、研究会に参加し、実践等を報告する必要があることから業務分担が過重にならないように努めた。また、互いに調整を図りながら指導にあたることができた。○ コロナ禍で研修を受けられなかったが、他教室との情報交換や指導例収録への協力を惜しまず、他関係機関との連携に努めた。	

評価は, A, B, C, Dの4段階評価とする。

A(4): 十分に目標を達成している。B(3): おおむね、目標を達成している。C(2): やや目標の達成には至っていない。D(1): 目標を達成していない。

【園長自己評価】

令和3年1月29日

桑折町立醸芳幼稚園

職氏名 園長 齋藤 小百合

令和2年度 幼稚園経営自己評価

1 園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教育目標の具現のため、園経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	園長は、園経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、 その取り組みを評価したか	A
3	園長は、めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し、園経営上の課題の解 決に当たったか。	В
4	園長は、園児が毎日を楽しく通園し、教職員が意欲をもって園経営に参画できるよう、「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	園長は、幼稚園教育の理念を深く理解し、園の最高責任者としての立場から 保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して園児の自己実現が図れる よう全力を挙げて園経営に努めたか。	В

2 教育(保育)及び園施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教員(保育士)の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、教育 課程(保育)を確実に実施したか。	В
2	園長は、教職員ともども園児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、園児の遊びの充実に努めたか。	В
3	園長は、園児の健やかな成長に資するため、定期に園児の健康状態を把握し、 事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応す るとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は、園生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は、定期に園内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず 指導と監督に努めたか。	В
2	園長は、教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の 指導力の向上に努め、園児が教職員を信頼し、楽しく充実した園生活が送れ るよう指導・監督に努めたか。	В
3	園長は、園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、園児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	В
4	園長は、日頃、教職員が園施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速 やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための園の体制を整えるように 努めたか。	В
5	園長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	В

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員 会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	В
2	園長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて 努力したか。	В
3	園長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	В
4	園長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係 団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	В
5	園長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	В

※ 4-(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は、A、B、C,Dの4段階評価とする。

A(4):十分に目標を達成している。

B(3): おおむね, 目標を達成している。 C(2): やや目標の達成には至っていない。

令和2年2月1日

桑折町醸芳保育所

職氏名 所長 片平 真由美

令和2年度 保育所経営自己評価票

1 所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、保育目標の具現のため、所経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	所長は、所経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、 その取り組みを評価したか	В
3	所長は、めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し、所経営上の課題の解 決に当たったか。	В
4	所長は、入所児が毎日を楽しく通所し、教職員が意欲をもって所経営に参画 できるよう、「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	В
5	所長は、所保育の理念を深く理解し、所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して所児の自己実現が図れるよう 全力を挙げて所経営に努めたか。	В

2 保育及び所施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、保育課程 を確実に実施したか。	В
2	所長は、職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、入所児の遊びの充実に努めたか。	A
3	所長は、入所児の健やかな成長に資するため、定期に入所児の健康状態を把握し、事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は,所生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い,入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	所長は、定期に所内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は、職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、入所児が職員を信頼し、楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	所長は、所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、入所児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	В
4	所長は、日頃、職員が所施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は、職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理 の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて 努力したか。	В
3	所長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、所としてよく連携して 地域の保育力の向上に努めたか。	В
4	所長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	В

評価は、A、B、C,Dの4段階評価とする。

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2): やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

※ 記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、評価の欄のみ記入となります。

第5 第三者評価委員会による評価

令和2年度第三者評価委員による評価スケジュール

時期	主な点検・評価	出席者等
4月	 ○評価委員へ供する事前評価資料の提出 「教育委員会事務局」 ・令和2年度桑折町教育委員会の重点 「こども園・学校」 ・令和2年度要覧(こども園・小中学校) ・令和2年度教育(保育)計画(保育所・幼稚園・小中学校) ・令和2年度経営・運営ビジョン(保育所・幼稚園・小中学校) ・令和2年度学力向上グランドデザイン(小中学校) ・令和2年度園(所)・学校経営「今年度の重点」 	
令和3年 2月	【第1回第三者評価委員会】 ○教育委員会重点の説明 ○園(所)・学校重点の説明及び中間報告	【書面開催】
令和3年 3月	年 ○評価委員へ供する評価資料の提出 [教育委員会事務局] ・ 令和 2 年度「教育委員会重点施策」点検及び評価 [こども園・学校] ・ 令和 2 年度の学校経営評価報告書、校長自己評価票	
令和3年 (翌年度) 8月	F度) ○教育委員会及び園・学校の自己評価資料に基づく評価の実施	

令和2年度 第2回 第三者評価委員会次第 (令和2年度事業第1回)

- ◇ 令和3年1月25日(月)
- ♦ 15:00~16:30
- ◇ 桑折町役場 2階 庁議室

- 1 開会のことば
- 2 教育長あいさつ
- 3 協 議
 - (1) 令和2年度評価の進め方
 - ・令 和 2年 度「第 三 者 評 価 委 員」による評 価 方 法 ・・・・・ 資 料 1
 - (2) 令和2年度教育委員会重点の説明
 - · 令 和 2 年 度 教 育 委 員 会 重 点 · · · · · · · · · · · · · 資 料 2
 - (3) 令和2年度こども園、小中学校経営について
 - ・令和2年度 園・学校経営「今年度の重点」・・・・・・ 資料 3
 - (4) 質疑
 - (5) その他
- 4 閉会のことば

※別冊配付資料

- ① 令和2年度園・学校経営ビジョン、学力向上グランドデザイン
- ② こども園・学校要覧
- ③ 園・学校教育計画

桑折町第三者評価委員会 委員長 岡﨑 一也 様

桑折町教育委員会教育長 会 田 智



令和2年度第2回第三者評価委員会の書面開催について (通知)

日ごろ当町の教育行政に格別の御配意を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和3年1月25日に標記会議の開催を予定しておりましたが、新型コロナ感染症に係る対応等により開催を見送っていたため、このたび書面開催とさせていただくこととなりました。

つきましては、別紙のとおり令和2年度の事務事業に係る関係資料を送付いたしますので、ご確認いただき、不明な点がございましたら事務担当までご連絡ください。

なお、本来であれば、ご参集いただき、ご説明申し上げるところですが、新型コロナ感染症に係る国の緊急事態宣言や県の外出自粛要請、地震の発生、さらには今後年度末の多忙な時期を迎え会議開催が困難なことから、書面開催とさせていただきましたことをお詫び申し上げます。

令和3年度第1回桑折町第三者評価委員会次第

(令和2年度事業第2回)

日 時 令和3年8月2日(月) 午後3時~ 場 所 桑折町役場 小会議室

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 第三者評価の実施について
 - (1) 評価の概要説明
 - (2) 質疑
- 4 第三者評価の実施(座長:評価委員会委員長)
 - (1) まとめ
 - ア 評価について
 - イ 意見・感想について
 - (2) その他
- 5 評価の結果報告
 - (1) 答申
 - (2) 意見(感想)の報告
- 6 閉 会

令和3年度 第1回「第三者評価委員会」会議概要

□目時 令和3年8月2日(月) 15:00~16:40

□場所 桑折町役場 小会議室

□ 教育長あいさつ

本町の教育施策は、町の総合計画の下に教育大綱を定め、これに則り実施しているところ。令和2年度はその5年計画の4年目ということで、目標達成に向けしっかりと成果をあげる年、と位置づけていたところであるが、令和元年度末の全国一斉休校から始まったコロナウイルス感染症対策により、事業実施にあたっては、計画の大きな変更を余儀なくされたり、実施自体が困難だったりと、大きな影響を受けた一年間となってしまった。そのような中、何とか施策を進めてきたというところであるが、委員の皆様からはぜひ、こういった状況でも「成果と課題は何か」について総合的にご指摘いただくとともに、今後の指針などご意見をいただきたい。併せて「コロナ禍への対応についてどうだったのか」あるいは「コロナ以後の教育施策のあり方について」という観点からもご意見などいただけたらありがたい。

□ 評価の概要説明

□ 質疑(第三者評価委員会での協議前に確認したい疑義について)

Q1:乳幼児保育教育の充実の「成果・評価」において、「月1回の施設内・外の安全点検に限らず日常的に ~」とあることについて、事故の件数など把握していれば。あるいはなかったのかどうか。 [岡崎委員長] A:遊びや活動の中で、日常的に手足の擦り剥きなどは生じているが、都度、養護教諭はじめ担当教諭が 適切な手当てを実施、また医療機関の受診が必要と判断した場合は速やかに保護者に連絡し受診を促

すなどして対処しており、目立った大きい事故等はなかったと承知している。件数については把握して

いない。 [こども教育課長]

Q2:本評価年度から開設された「桑折町教育支援センターAYUMI」について概要を説明願う。

A: 不登校児童生徒を学校に繋ぐための施設として、遊学館よも~よの2階に開設した。指導員には教員 OBがあたり、心のケアと、勉強の遅れを取り戻すためのサポートを行っている。保護者の送迎で来所 し半日程度過ごして帰る、というのが大体のスタイルである。実績として、昨年度AYUMIに通って いた小学6年生が、今年度中学校入学とともに登校できるようになり、また、学習も普通学級で行うことができている、というケースがあった。一方で、不登校児童生徒の全員がAYUMIに来られている わけではないのが現実。学校、SCやSSWと連携を取り、少しでも外に出られるようになるための工 大や環境作りができればと、取り組んでいるところである。 [こども教育課長]

Q3:学力向上について2点ほど確認したい。1点目は、令和2年度は国・県の調査が実施されなかったが、

令和元年度までの実績から、桑折町の子どもたちの学力が「だいたいこのくらいだ」というのを、ざっくりで良いのでお示しいただきたいということ。2点目は、共通の施策として東北大学の川島先生の理論や、秋田大学の阿部先生の理論、また全国的に有名な陰山メソッドなども積極的に取り入れた町全体での取り組みは何年前からスタートしたのか、またこれを町全体で取り組んでいくことにした理由をお聞かせいただきたい。「佐久間委員]

A: 2点目の質問からお答えする。秋田県の探究型授業における「子どもたちが自分の考えを持ち、子ど も同士で議論をし、考えを深めることで、探究しながら学習のねらいに到達する」という部分について は、福島県の授業スタンダードと基本的には同じである。ただ、秋田の理論を取り入れたのには、秋田 県は探究型授業の実施に加えて「学力が高い」ということで全国的に有名だった、ということがある。 阿部昇先生には、平成26年度頃から授業研究会などに毎年お出でいただいている。実際に指導もいた だき、桑折町ではずっと以前から学んでいた部分である。また、平成27年度からは、全国一学力の高 い村「秋田県東成瀬村」などへの教員研修派遣を年に2回、継続して行うなど、授業改善に取り組んで きた。このような授業改善の取組みを行いつつも全体的に学力向上が進んでいないということがあり、 授業の改善だけでなく、学力向上には「生活習慣」が大事なんだということに着目し、平成27年の秋 には東北大学の川島隆太先生にお出でいただき、町連Pの研修会で講演いただいた。これを聴講して感 銘を受けた髙橋町長が、翌年度から、川島先生の本を中学1年生に配布、また各学校にも配布した。 そ れから川島先生にも毎年お出でいただき中学生への特別授業を実施している。隂山英男先生の「隂山メ ソッド」については、学力向上のための読み書き計算「基礎学力」だけでなく、それ以上に「集中力」 をつける、これを授業改善・生活習慣にプラスすることで、学力向上の突破口になると考え取り入れ た。隂山先生には平成29年度に初めて桑折町にお出でいただき、各小学校と話し合い、2学期から4 小学校で導入した。このようなところで、この「学力向上の3本柱」が揃ったということでは、取組み は平成29年度からスタートした、ということになる。次に1点目の本町の学力の状況については、 「県平均を上回る」ことを目標としており、年による変動はあるが平成29年度あたりからは県平均を 上回る科目が増えてきている。まだまだ努力すべき余地はあるが向上は見られていると捉えており、評 価としては「県平均を上回る科目が増えてきている」というところ。 [教育長]

Q4:スポーツの推進・体育施設等の充実と言うことでお聞きしたい。震災で被災した町の体育館は建て替えるとうかがった記憶があるが、それが建て替えないという話を聞いたので、どうなっているのかということ。あと、これは意見なのだが、今年2月の福島県沖地震で(学校の)体育館が使えなくなった。使えるのが町の体育館1箇所だけになってしまったことで活動がしにくかった。 [岡田委員]

A:元々あった町民体育館は、10年前の東日本大震災で梁が壊れて施設として成り立たないということで解体された。解体当初には、新しいものを建てるというような議論もあったようだが、町内のスポーツ団体等の利用状況等も踏まえ、今の町民体育館(当時の勤労者体育センター)1つで運用し、しばら

く利用状況を見みたうえで再考ということになり、スポ少さんは各学校の体育館を利用していただくという形でこれまでやってきたところである。そのような中で、今年2月の地震では小学校の体育館、特に醸芳小学校の体育館が大きな被害を受け今も使えないという状況で、スポ少さん、特にバスケットさんには大変なご迷惑をおかけしている現状は認識している。現在、今後10年間の町の総合計画の策定作業を行っている中で、あの一帯について「スポーツ公園」としての整備検討を盛込んでいる。体育館が1つで良いのかどうかなども含めて、長いスパンにはなるが、今後そういったことも検討していくことになる。今ご迷惑をおかけしている部分についてはすぐに対応できない部分もあるが、できることについてはしっかりと取り組んでいきたい。 [生涯学習課長]

□ 第三者評価の実施 座長:岡﨑委員長

□ 評価の結果報告

○岡崎委員長より教育長へ報告 [点検・評価原簿提出]

評価委員会として次のように報告する。

まず教育委員会関係の管理及び執行状況及び勤務執行に関する自己評価については、担当者評価・教育委員評価いずれも適切であった。その中で、「子ども・子育て支援事業の推進」のみ、我々の評価が低い形で異なった。理由としては、「具体的な活動」を実施した結果に対する「成果と評価」の記載の仕方が、どのような効果・成果があったか、だからこういう評価となった、というような記載がなされておらず、分かりづらかったためである。書きぶりについて、活動に対してもう少し効果・成果が分かるような表現をしていただきたかった。

○第三者評価委員から

[岡﨑委員長]

- ・新型コロナの感染拡大により事業が制限される中、桑折町教育支援センターAYUMIを立ち上げたことは評価したい。(「心の教育の充実」については、この部分を高く評価し、担当者自己評価・教育委員評価「B」のところ、「A」評価とした。)
- ・点検・評価表の様式において、「重点施策と重点項目」さらに「具体的な活動」ついて、それぞれがどの項目についての内容かが分かりづらい。重点施策とのつながりが表記されていると、見たときにわかりやすい。特に「具体的な活動」を精選されると非常に分かりやすくまとまると思うのでぜひお願いしたい。

「佐久間委員]

・成果・評価を「〇〇〇に取り組んだ。」とするのではなく、取り組んだ結果、例えば、児童生徒や保護者 にどういった変容があっただとか、このような成果があった、との記載があると説得力のある分かりやす い評価になる。「連携を図った。」ではなく「連携を図った結果、〇〇〇〇した・となった。」など、あ と一文足すととても良くなる。

・「重点項目」及び「具体的な活動」の記載事項の重点化・精選をした上で、評価をするのが望ましい。特に「乳幼児保育・教育」においては改善を望む。

[岡田委員]

・コロナ対策が優先となってしまっている中で仕方がないのかもしれないが、スポーツ関係の取組みが手薄になっている。コロナが収まったら将来的にはスポーツ大会など、できれば大人も子どもも一緒にできるようなイベントをいろいろやってみるのも、子どもたちには良いのかなと思っている。

点検・評価の仕方に係る評価委員からの指摘・提案

■評価の仕方(評価表の作り込み・記載方法)について

- ・「重点施策」→「重点項目」→「具体的な活動」→「成果・評価」を関連付けた記載方法が望ま しい。
- ・特に「重点項目」のどれに関する「具体的活動」なのかが明確に分かるような書き方にする。
- ・関連付けることにより、評価の対象とすべき「具体的活動」が自ずと精選される。(当然やるべきことは記載する必要がない。)
- ・成果・評価については、分かりやすい表記となるよう、書き方にひと工夫を。
 - →「○○○に取り組んだ。」で完結させず、取り組んだ結果、対象にどういった変容があっただとか、このような成果があった、との記載があると説得力のある分かりやすい評価になる。

例えば、「連携を図った。」ではなく「連携を図った結果、〇〇〇〇した・となった。」など、 あと一文足すと、とても良くなる。

■学力向上を図る取組みに関して

・学力についての分析結果が示されると児童生徒の現在の位置が分かり成果評価に重みが出るのではないか。

■生涯学習の推進に関して

- ・今後視点の一つに「生涯学習が地域づくり(まちづくり)のために何ができるか」を設定することも検討されたい。
- ・学校支援と地域学校協働の意味づけを明確にしたい。

■文化財に関して

・来館者数などの年次推移などのデータや来館者アンケート結果(町内町外別・年齢別・評価など)があればこの点検・評価がより説得力のあるものになる。

■園・学校経営評価に関して

・重点事項の評価の記載が統一されていない。複数項目に対してそれぞれ評価するのか、まとめ て評価するのか。重点事項の評価と実践事項の評価の矛盾が見られる。

第6 参考資料

○桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

(設置の目的)

第1条 桑折町教育委員会(以下「教育委員会」という。)の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第1項に規定する点検及び評価を実施するにあたり、教育施策の改善・充実に向け、同条第2項の規定により外部有識者の知見を活用するため、第三者評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

(所管事務)

- 第2条 評価委員会は、当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し、その結果を教育委員会に報告する。
 - (1) 教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価
 - (2) 町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価
 - (3) 町立幼稚園経営報告及び自己評価

(組織)

- 第3条 評価委員会は、委員3名をもって組織する。
- 2 委員は、有識者のうちから教育委員会が委嘱する。 (任期)
- 第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、再任を妨げない。 (委員長等)
- 第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを決める。
- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。 (会議)
- 第6条 評価委員会の会議は委員長が招集し、これを主宰する。

(報告書)

第7条 評価委員会は、当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ、翌年度6月までに教育委員会に報告する。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様と する。

(庶務)

第9条 評価委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(委任規定)

第10条 この規則に定めるものの他、評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が

別に定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

桑折町の15歳のめざす姿

桑折町教育委員会

桑折町においては、0歳から15歳の義務教育修了時までの、子どもの15年間の成長を見据えた教育を実施しています。その最終的な目標について、保護者・地域・こども園・学校等の教育にかかわる者すべてで共有するとともに、発達段階に応じて子ども自身にも理解させることにより、家庭・地域・学校等のそれぞれの教育の充実を図り、桑折の子どもたちの望ましい成長の実現をめざします。

高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとしている15歳

~社会的自立の基礎を身に付け、よりよい生き方を追求するとともに、社会の形成者としての基礎的資質を身に付け、共に生きようとしている15歳~

家庭

【知】 学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。

変化の激しいこれからの社会において、一人一人が自立して生きるとともに、社会の発展を支えることができるように、確かな学力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- よりよい学習習慣・家庭習慣を身に付け、自ら進んで学習 に取り組むことができている。
- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得している。
- 習得した知識や技能をもとに、自ら考え、判断し、表現している。



地域

【徳】 郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献し ようとしている。

ふるさと桑折町に生まれ育ったことに感謝しながら、今後もよりよい家庭・地域・社会を築いていくことができるように、郷土愛・礼節・思いやりを身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- 歴史と伝統を尊び、郷土に誇りを持っている。
- 自他を思いやり、よりよい人間関係を築いている。
- 社会の一員として決まりを守り、礼節を重んじる態度を身 に付けている。

こども園

【体】 心身ともに健康で、たくましく生きるための体 力を備えている。

学校

- 一人一人が生涯を通して生き生きとした生活を送ることができるように、心身ともに健やかで、どんな困難 にも負けない精神力や体力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。
- 健康で安全に生きていくための知識や能力を身に付けている。
- 望ましい生活習慣や食習慣を身に付けている。
- 運動,スポーツに親しみ、心身の健康保持増進を図り、たくましい体力を身に付けている。

桑折町教育委員会重点から

「志高い人材を育む"学び"の醸成」の推進

基本目標1:知・徳・対の基礎を身につけ,高い志を持った「桑折町の15歳

のめざす姿」の実現

重

項

目

実

基盤

基本目標2:保育所・幼稚園から小学校・中学校までの育ちと学びの一貫

性を大切した教育の推進

桑折町の15歳のめざす姿(知)

- よりよい学習習慣・家庭習慣を身に付け、自ら進んで学習 に取り組むことができている。
- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得している。
- 習得した知識や技能をもとに、自ら考え、判断し、表現している。

学力向上を支える生活や学習の基盤づくり

- 脳科学の研究成果を活用して、家庭学習・生活習慣の確立を図る。
- Q-Uの結果を基に、互いに支え合い高め合って、他を思いやる 学級づくり。
- 発達段階に応じた「学び方」「学習規律」「学習習慣」の確立と生 徒指導の機能を生かした授業づくり。
- ○「読み·書き·計算の徹底反復」による集中力や基礎的·基本的な 言語や数量スキルの向上を図る。
- ◎ 保護者との連携の下「家読」「英語検定」を推進する。

く 各校園の研修便りの発行

- □ 「読書がたくましい脳をつくる」を活用した特別授業の実施 (小・中)
- □ ふくしまの「家庭学習スタンダード」に沿った家庭学習の充実 ※ 自己マネジメントカの向上を図る家庭学習の質的向上
- □「第3次支援」を要する子の把握と支援員を活用した個別指導 □ 桑折町の「授業の約束(学習の手引き・桑折町小学校・学びのス
- タンダード)」の指導の徹底
- □ 小学校における「読み書き計算の徹底反復」の重点化と充実
- 小学校における「家読運動とりくみコンクール」の奨励
- 中学校における英語検定受験の奨励

生きる力をはぐくむ「確かな学力」の向上

令和 2 年度 学 力 向 上 推 進 計 画

自ら学ぶ力の育成 学ぶ 基礎的・基本的な知識・技能 意 ☆ 思考力・判断力・表現力 意 ご 学習意欲・意志・態度 生き方の探究 度 生き方の探究 (1童 11・夢・希) 望得

コロナウイルス感染防止策をとりながら

確かな学力を育てる授業づくり

- ☆ ふくしまの「授業スタンダード」の自校化と、それに基 づく日々の授業の改善・充実を図る。
- 諸検査を基に学力の実態把握と分析に努めると共に、 課題解決に向けての取組を充実させる。
- ☆ (新)学習指導要領に基づき、主体的・対話的な学び方で深い学びを創造する。
- PDCAサイクルに基づく単元計画の改善と充実を図る。
- 幼小中の連携に基づく授業研究の充実を図る。

授業研究会の交流・ICT研修(デジタル教科書・活用方法等)

- ■「授業スタンダード」チェックリスト(授業の充実のために)を活用した授業の振り返り
- □ Hyper-QUでの「NRTの学力とのクロス集計」結果の活用 による学び合う学習集団の形成
- □ 諸学力検査(国·県等)の結果分析と対策、ふくしま活用 力育成シートの活用
- 授業における教師のコーディネートカの向上と充実
- □ 単元指導計画での習得と活用の位置づけや「ねらい」「振り返り」を明確にした授業設計
- □ 桑折町[授業改善・充実の視点] (授業における共通の視点) を活用した授業構想

ふくしま「学びのスタンダード」から

「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」を基盤とした

- ・より質の高い授業の創造と展開(授業の改善・充実)
- ・家庭学習の質的向上と習慣化(生活改善と家庭学習の確立)
- ・各校における校内研修の充実(互見授業等で研修の日常化) に努め,子どもの学習力教員の指導力の向上を図る

めざす教師の姿

- 教職に対する強い情熱をもつ教師
- 教育の専門家としての確かな力量を備えている教師
- 総合的な人間力を高める教師

教師の力量を高める校内体制づくり

- 県外教育視察など教員の専門性・指導力を高める教職員研修の充実を 図る。
- 校内授業研究(会)の企画·運営の改善と充実を図るとともに 1 校 I 指 定の授業研究会を町内(外)に広報する。
- ◎ 子どもの切れ目のない「学び」と「育ち」を保障する幼小中の連携に基づく教育活動(スタートカリキュラム等)を研修し充実させる。
- (新)学習指導要領の理念に基づく教育活動や授業づくりのための研修 (会)の充実と共通実践をめざす。

園・校の実践成果の共有化 >

- □ 秋田の探究型授業や協同的・組織的な学習指導法等を学ぶための県外研修研修視察とその研修成果の共有化と共通実践
- □ 互見授業により授業研究の日常化と指導方法変容の把握
- □ 指導の連続性、専門性を深める幼稚園、小・中学校の連携による事前 /事後授業研究会の充実
- ユニバーサルデザインの授業等の研修及び教育支援活動の充実
- □ 深い学びにつながる「思考力や活用力」をはぐくむ教材の開発と指導工 夫
- □ 外国語活動の充実のための研修(外国語専科教員による指導研修会等)
- ICT機器の授業における操作・活用

安心感、居場所、向上心を育む学級・学習集団づくり 学校・家庭・地域が一体となった生活習慣・家庭学習習慣づくりの推進

家庭や地域の教育力を生かした教育活動の充実

- 家庭学習習慣の定着(県・全国平均を超える家庭学習時間) ○ TV・ゲーム、SNS等の利用時間の減少(県・全国平均以下)
- ○「家読」の奨励などによる読書の量・時間の増加
- ・調査結果を踏まえた家庭で読書する人数の更なる増加
- ※ 評価は、県・全国の学力や体力の生活調査結果を活用する。
- 全国学力調査・県学力調査・NRTの結果から
- ・県や全国平均以上
- ・アンダーアチーバー(小3%未満、中5%未満/NRT)
- ・経年変化で、前回のレベルを超える((県学テ)
- 「学力向上アンケート」の自己評価で 平均3以上
- ○「徹底反復練習」を含めた校内研修の日常化
 - ・焦点を絞った互見授業(期間)の設定
- ・(新) 学習指導要領や外国語教育推進リーダーを活用した研修会設定
- 〇 事前や事後研究会を含めた「授業研究会」の改善・充実
- ・「授業スタンダード・チェックリスト」の校内研修関連項目で、自己評価3以上

・全国学力調査の質問紙から児童生徒の生活等状況把握



令和2年度 桑折町子どもの体力向上プラン

<R2.5.21改訂>

桑折町教育委員会

醸 芳 幼 稚 園

醣芳小学校 睦合小学校 半田醣芳小学校 伊達崎小学校

醸 芳 中 学 校

体力向上推進目標

桑折町の児童・生徒の心身の健康増進と体力の向上を目指す(平成18年から平成20年における最高水準に近づける)

重点課題 基本方針

運動する「場・時間・仲間・手間」の確保による運動習慣の確立 発達段階に応じた体力の向上と「する・見る・支える・知る」の多様な関わり家庭と地域の連携を図りながら、生活習慣・食生活の改善

桑折町の15歳のめざす姿 【体】

心身ともに健康で、たくましく 生きるための体力を備えている。

◎・・・・本年度の重点



基本的生活習慣の確立

- ○全幼児,児童,生徒の実態把握(保健,健康調査)
- ◎「早寝・早起き・朝ご飯」の推進
- ◎自力登下校の推進(運動の習慣化)
- Oよい姿勢の保持
- ◎肥満傾向児の出現率の減少
- ◎適切なテレビ等(PC、ゲームを含む)の視聴時間(PTAとの連携:メディアコントロール)
- ◎感染予防の習慣化(身体的距離、マスク、手洗い)
- 〇十分な睡眠の確保
- 〇毎月23日「家読」の推進(PTAと連携)

学校体育・幼稚園の充実

- ◎体力向上に向けた一園一校一実践運動(教科外体育も)
- ◎「運動身体づくりプログラム」の継続的、効果的実践
- ○感染拡大防止に配慮した体育的行事・部活動等の推進
- ○教員の指導力の向上(指導法,実技等の研修)

学 校・

家庭・地域との連携

- ○全児童生徒の実態把握(体力、運動習慣)
- ◎学校・幼稚園教育活動中での毎日の運動時間と運動量の確保 ┃
- 〇授業の充実(PDCAサイクルの確立,指導と評価の一体化)
- 〇体力向上を意図した研修の実施(授業研究会等)

- ○幼小中の連携した取組

- ○全児童生徒の実態把握(食生活)
- Oバランスのとれた食事
- ○発達段階に応じた食育の推進
- ◎家庭・地域との連携による食育の推進 PTA・学校給食・町保健センター
- ○朝食摂取の重要性の周知:朝食に一品 追加で学力アップ

子どもの体力・運動能力・生活習慣・食習慣の現状

全国の子どもの体力・運動能力の現状

- ○昭和60年以降長期的に低下傾向
- ○体力の高低の二極化傾向
- ○身体操作能力の低下
 - 顔面のけが、骨折の増加
 - 靴紐を結べない
- ○運動経験の二極化

桑折町の子どもの体力・運動能力・生活習慣・食習慣の現状

○遊びの奨励(「場」「時間」「仲間」) ○地域連携で運動機会の充実 ○地域体育的行事への積極的参加 ○町給食センターと連携した食指導 ○町健康教室との連携 ○地域人材の活用

- ○全国・県平均を上回る種目の増加
- 〇平成23年度は一時屋外活動制限
- 〇令和元年度新体力テストからの課題 • 走能力 • 瞬発力 • 柔軟性
- ○3月上旬~5月中旬にかけて感染症対 ○TV視聴・ゲーム時間が多い 策による学校休業で体力低下が懸念
- ○肥満傾向児童出現率が高い
- ○基本的生活習慣を徹底できない
- ○朝食摂取率が100%でない
- ○就寝時刻の遅い児童がいる

 - 〇日常の運動時間の二極化

福島県内の子どもの現状

- ○全国と同様の傾向
- ○本県児童生徒の体力・運動能力は全国で中位
- ○肥満児傾向出現率が全国平均より高い
- ○原発問題から体力の低下に少しずつ歯止め傾向

【目指す保育所像】

- ~笑顔と歓声あふれる保育所~
- ◆子どもも保育士も生き生きと活動している保育所
- ◆人々が親しむ、和やかさが醸し出されている保育 所
- ◆様々な遊びを誘発する新鮮で清潔な環境の保育所

【目指す保育士像】

- ◆社会人としての自覚を持つ保育士 モラルやルール、マナーを身に付けている
- ◆心身ともに健康な保育士
- 困難に負けない精神力と体力を身に付けている ◆保育目標を達成するために同僚性を持つ保育士
- 組織の一員として役割を果たそうとする
 ◆専門性の研鑚を積む教保育士
 カリキュラムマネジメントにおける PDCA の実施
 研修等に積極的に参加し多角的な視点で保育にあたる
- ◆個々の特性を生かして保育にあたる保育士 発達段階を踏まえ、個々の乳幼児理解を深めながら保育 する
- ◆人間性豊かな保育士 所を取り巻く様々な人との信頼関係のもと、仕事に真摯 に取り組ま。

【食育】

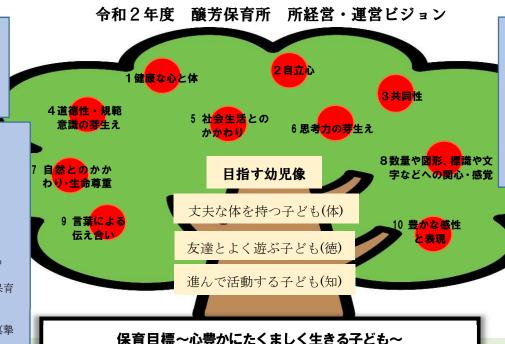
・食事の環境を整備し、食べた いという意欲を育て、食事のリ ズム・生活リズムを確立する。

【重点実践事項】

- ◆ 幼児の健康な心と体を育て、体を動かす心地よ さや楽しさを感じ取らせる保育士のかかわりの 工夫
- ◆豊かな心が育つように絵本に興味が持てる場合表示及び経験や活動の提示の工夫
- ◆知的好奇心を満足させるような環境の工夫
- ◆事故なく安心して生活できる環境の提供

【その他の事項】

- ◆保護者の養育力につながるよう支援し、家庭と の連携を図る。
- ◆自己評価を基本にしながら、保育指導力の向上につな がるよう、研修を深め、保育の充実に努める。
- ◆日本の伝統的な食事を取り入れ、栄養のバランスを 考え、衛生的で安全な食事を提供する。
- ◆アレルギー食への対応も行い。ヒューマンエラーを 最大限防ぐよう対応する。
- ◆乳幼児の望ましい「家庭生活のポイント」の確立にむけて、家庭との連携を図った取り組み、



【乳幼児の実態】

- ◆母親や家人・保育士に甘えたい気持ちが大きい
- ◆受容されることで、安心して過ごす
- ◆生活習慣の一つ一つを保育士と一緒にじっくり取り組む
- ◆経験したことや感じたこと、考えたことを自分な りの言葉や身振りなどで伝えようとしている
- ◆友達や保育士と一緒に遊ぶことを喜んでいる
- ◆絵本やお話を見たり、読んでもらったりすること を好む乳幼児が多い
- ◆幼児自ら積極的に体を動かす姿が見られる

【保護者・地域の願い】

- ◆安全、安心な環境での生活
- ◆基本的生活習慣の確立
- ◆たくさんの友達との円滑なかかわり
- ◆心身の健やかな成長
- ◆『桑折町の目指す15歳の姿』に向けた素地の 形成

受容的・応答的関わりのもとで、非認

知能力を高める。

養護と教育が一体となった保育

◆生命の保持

養護

- ・安全な環境のもとで、生命の保持と生活の安定 愛情豊かな受容で、生理的欲求を満たし、自分で やろうとする意欲を育てる。 適切な生活リズムを繋える。
- ◆情緒の安定
- ・安心できる保育者との関わりの中で、情緒の安定 好奇心を持って、様々なものに関わる。

スキンシップの機会を多く持ち、心の安定を図る。 自我の芽生え(友達との関わりの経験の中から、 自分の思いや欲求を言葉で表現しようとしたり、 我慢しようとしたりする心の力を育てる。

【保・小・中との連携】

- ◆異年齢交流(幼保)
- ◆ボランティア、実習等の受け入れ

教育

【領域】

健やかにのびのびと育つ

- ◆健康(地行・運動・基本的生活習慣・安全・体を使った遊びを楽しむ。 身近な人と気持ちが通じ合う
- ◆言葉(聞く・発語・会話・絵本)・保育士との応答的な関わりの中から、簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとしたり、言葉ややり取りをたのしんだりする。
- ◆人間関係(保育士・友達・地域の人々・家族)・保育士や友達に自分の思い や欲求を言葉で表現する。

身近な物と関わり感性が育つ

- ◆環境(玩具・遊具・自然・施設・動植物・身近な玩具・遊具・自然に触れ、 保育士や友達と一緒に遊ぶ。
- ◆表現(ベビーサイン・模放・見立てる・歌う・踊る)・興味のあるものを模倣 したり、保育士と一緒に歌ったり、踊ったりする。

【地域との連携】

- ◆地域の人や施設とのかかわり
 - サロン交流会・『イコーゼ!』の利用
 - ・ボランティア支援センターの活用
 - ・子育て支援センターとの交流

【家庭との連携】

- ◆所便り
- ◆毎日連絡帳の記入
- ◆降所時に保護者との 直接連絡等
- ◆PTA活動
- ◆規則正しい生活環境 づくりの推進 (生活リズム『早寝早 起き朝ご飯』の励 行)
- ◆幼児教育への理解促進 (家庭教育学級の実施・ ホームページの充実)

【目指す闡像】

~笑顔と歓声あふれる幼稚園~

- ◆子どもも教師も生き生きと活動している園
- ◆人々が親しむ、和やかさが醸し出されている
- ◆様々な遊びを誘発する新鮮で清潔な環境の園

【目指す教師像】

- ◆社会人としての自覚を持ち、モ ラルやルール、マナーを身に付 けている教師
- ◆心身ともに健康で困難に負けな い精神力と体力を身に付けてい る教師
- ◆教育目標を達成するために同僚 性を持ち組織の一員として役割 を果たそうとする教師
- ◆主体的に研修や自己研鑽に励 み、専門性を高めようとする教
- ◆幼児一人一人のよさや可能性を 見いだし引き出していく教師
- ◆園を取り巻く様々な人との信頼 関係のもと、仕事に真摯に取り

令和2年度 醸芳幼稚園 園経営・運営ビジョン

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

1健康な心と体

2 自立心

3共同性

5 社会生活との かかわり

6 思考力の芽生え

8数量や図形、標識や 字などへの関心・感覚

と表現

丈夫な体を持つ子ども(体) 10 豊かな感性

友達とよく遊ぶ子ども(徳)

進んで活動する子ども(知)

教育目標~心豊かにたくましく生きる子ども~

目指す幼児像

いに刺激し合い切磋琢磨している姿 が見られる。

- 【保護者・地域の願い】 ◆安全、安心な環境での生活
- ◆基本的生活習慣の確立

でいる

- ◆たくさんの友達との円滑なかかわり
- ◆心身の健やかな成長

えがお

げんき

◆経験したことや感じたこと、考えた

◆友達や教師と一緒に遊ぶことを喜ん

◆幼児自ら積極的に体を動かす姿が見

◆多くの友達とふれあうことで、お互

られ、それに伴い体力・運動能力が

◆絵本やお話を好む幼児が多い

ことを自分なりの言葉で伝えようと

【幼児の実態】

する幼児が多い

向上している。

ほんき

◆『桑折町の目指す15歳の姿』に向けた素地 の形成

【5韻域】 ◆健康運動・基本的生活習慣・安全

◆**人間関係**(教師・友達・地域の人々・親)

◆表現(感性・閃き・創造性)

◆環境(自然·物·施設·動植物)

◆言葉(聞く・話す・絵本)

【重点実践事項】

- ◆「幼児期の終わりまでに育ってほしょ姿」を 考慮し多様な体験ができる教材の工 夫、試行錯誤や考える過程の重視
- ◆特別な支援を要する幼児への関係機 関との連携、保護者との合意形成、 個別の支援・指導計画の作成
- ◆体を動かす気持ちよさを体験させる ための発達年齢に合わせた遊具の工 夫と季節に合った環境づくり
- ◆豊かな心が育くむために絵本に興味や関心 が持てるような環境の充実
- ◆桑折ことばの教室の指導体制の充実

知識・技能の基礎

4道徳性・規範

7 自然とのかか

わり・生命尊重

意識の芽生え

9 言葉による

伝え合い

遊びや生活の中で、豊かな体験を通 じて、何を感じたり、何に気付いた り、何が分かったり、何ができるよ うになるのか

遊びを通しての 総合的な指導

遊びや生活の中で気付いたこと、でき るようになったことなども使いなが ら、どう考えたり試したり、工夫した

り表現したりするか

思考力・判断力・表現力等の基

学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかに よりよい生活を営むか

【環境を通して行う教育】

- ◆幼児期にふさわしい生活の展開
- ◆幼児の行動の理解と予想に基づいた意図的・計画的な環境の構成
- ◆一人一人の特性に応じた指導、発達の課題に即した指導

【家庭との連携】

- ◆園便り◆園生活の様子
- ◆家庭訪問·学級懇談 個別懇談・降園時の連絡等◆PT A活動
- ◆ファミリーティーチャー活動
- ◆規則正しい生活環境づくりの推進 (生活リズム『早寝早起き朝ご飯』 の励行)
- ◆幼児教育への理解促進 (家庭教育学級の実施・ホームページの 充実)

【保・小・中との連携】

- ◆異年齢交流(幼保、幼小、幼中)
- ◆ボランティア、実習等の受け入れ

【地域との連携】

◆地域の人や施設とのかかわり ○サロン・緑風園やコクーンとの交流会 ○体験活動・ボランティア支援センターの活用

【その他の事項】

- ◆望ましい生活習慣や食習慣を身に付けられるように「家 庭生活習慣のポイント」を活用し家庭との連携に努める。
- ◆指導の振り返りや話し合いによる幼児理解に基づいた よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用
- ◆預かり保育の家庭的雰囲気で安心して過ごせる環境への配慮

桑折町立醸芳小学校

令和2年度 学校経営・運営ビジョン



求 芳 め つ



目指す学校像

学校経営の基本方針

- 一人一人のよさを生かし、生き生きと輝く活気に満ちた学校づくりを推進
- 授業の質的改善を図り、すべての子どもに「わかる、できる授業」を実践 し、確かな学力を育成する。
- 体験的な活動や縦割り班活動等の集団活動を一層充実し、豊かな心と たくましさを育成する。
- 体力づくりと健康づくりを推進し、心身ともに健康な体と最後までやり抜く 力を育成する。
- 家庭や地域との連携を深めて、地域が誇れる教育を推進する。 高い倫理観と自律心を持って職務に当たる。
- 学校事故防止を図るため、最大限の努力をする。

目 標 教育

よく考えて学ぶ子ども 親切で思いやりあのある子ども 健康で明るい子ども 桑折町の

15歳の めざす姿

○ 子 供 た ち の 笑 顔 が 輝 く学 校 ○ 明るく楽しく学びがいがある学校 ○ 一人一人の特性を大切にする学校 安全・安心感のある学校

目指す教職員像

子どものよさを認め、伸ばし、情熱を持って育む教職員 課題に気づき、考え、行動できる教職員

倫理観が高く、専門性、資質の向上を目指す教職員 児童・保護者・同僚から信頼される教職員

重 点 目標

よく考えて学ぶ子どもの育成

0 楽しく、わかる授業づくり

- ・「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり
- •課題提示、発問の工夫
- ・思考を深める分かりやすい板書
- ・「学び合い」による思考力・判断力・表現力の育成
- 多様な学習形態の工夫の推進(交換、合同、T・T授業)
- ・ユニバーサルデザインを生かした授業づくり

○ 基礎・基本の定着と確かな学力の育成

- ・読み・書き・計算の「徹底反復の時間」の徹底
- ・個別の指導方法の工夫と充実
- ・活用力育成シート、定着確認シート、問題集の活用、補 充学習、発展学習の時間の確保
- ・算数オリンピックへの積極的参加
- ・漢字・計算大会の実施(7月、12月)

醸芳中学区連携による主体的な学習態度の育成

- ・学習の約束(醸芳スタンダード)の徹底
- ・家庭学習の手引きの見直しと家庭学習の習慣化
- ・スケジュール表を活用した教育相談の実施
- ・自主学習展(6月、11月)の実施と評価の工夫

○ 情報教育、外国語活動の推進

- ・コンピュータの活用と情報モラル教育の充実
- ・英語で話す能力を高める授業の工夫

○ 読書活動の推進

- ・読書タイムや読書の時間の確保と家読の推進 (読了賞、完読賞の表彰)
- ・図書委員会、学校司書や図書ボランティアによる「読 み聞かせ」
- ・良書の紹介コーナーの充実やビブリオトークの実施

親切で思いやりのある子どもの育成

「本物のあいさつ」「本物の学び」「本物の思いやり」「本物のチャレンジ」福島県内一の学校

○ 人間関係形成能力の向上

- ・よさを認め合う学級集団づくり
- ・「おはよう」「こんにちは」「さようなら」のあいさつ力 の向上

○ 豊かな体験活動を生かした教育活動

- ・ふるさと教育(西山城跡見学)、平和学習の推進
- ・外部人材、外部施設活用による体験の充実
- ・幼、異学年交流による体験の推進
- ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実

○ 命や思いやりを大切にする教育活動の推進

- ・満足感、自己有用感の持てる学級経営
- ・「考え・議論する道徳科の授業」の充実(授業参 観時1回公開)
- ・命、思いやり、感謝等の価値を考える授業
- ・「醸芳っ子の約束」を活用した規範意識を高め る生徒指導の充実

○ 係活動、委員会活動や朝のボランティア活動の推進

- 自発的・自治的な児童会活動の推進
- ・ボランティア活動の推進(4,5,6年生)

児童、保護者、教職員の自己評価・学校評価

- 学校評議員による学校評価
- ☆ 評価時期(行事ごと、学期毎)

健康で明るい子どもの育成

運動内容と運動方法を充実

00

- ・ 体力運動プログラムの継続と運動量の確保
- ・めあてを持って楽しく運動できる場の設定と指導 方法の工夫
- ・業間運動「はやぶさタイム」の工夫や全学年「タグラ グビー」の実施、外遊びの奨励
- ・ふくしま体力向上総合プロジェクトへの参加

○ 基本的生活習慣の確立と食育の推進

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」の推進
- ・「健康チェック」・保健相談の積極的な推進
- ・保健・学級活動の授業を通した実践化
- ・家庭・関係機関と連携した歯みがき、食育の取組 (健康教室)

安全に対する意識や行動力の育成

- ・緊急時の対応力を身に付ける安全教育の実施
- (交通教室、避難訓練、防犯教室、放射線教育)
- ・集団登下校の指導の充実

現職研修による授業力の向上

- ☆ 国語・算数単元テストの平均85点以上
- 学力テストNRT偏差値55アンダーアチーバー0 教育公務員として自覚と不祥事根絶の意識高揚
- 不登校0、いじめ未解決0へ向けた取組、対応

具体 的 重 点 項

評

桑折町立醸芳小学校

〈児童の実態〉

- 学習態度や学び方が定着しつつあ る
- 自分の思いや考えを伝えることが 苦手な児童が多い。

【NRTより】※H30年度2月実施

- 国語では「言語文化と国語の特質」 領域が各学年で高い。
- 算数では5段階が21%と多い。
- アンダーアチーバーは5%である。

【偏差値平均】

- □学力 国語(53.9) 算数(55.3)
- ※知能(50.8)

<教育目標>

よく考えて学ぶ子ども 親切で思いやりのある子ども 健康で明るい子ども

-

<保護者・地域の願い>

○ 確かな学力を身に付けた子ども ○ 思いやりのある子ども

〈基本方針〉

- 授業の質的改善を図り、すべての子ども に「わかる、できる授業」を実践し、確か な学力を育成する。
- 具体的な数値目標を設定する。 (NRTで、偏差値55、アンダーアチー バー0を目指す)
- より具体的な取り組みについて学級ごと に計画を立てる。

〈本年度の重点目標〉

- 楽しく、わかる授業づくり
- 基礎・基本の定着と確かな学力の育成
- 醸芳中学校区連携による主体的な学習態度の育成
- 情報教育、外国語活動の推進
- 読書活動の推進

国語科

[PLAN]

- ① NRTに基づく「学力向上の課題と方策」策定
- ② ワークテストの達成率85%以上

[DO]

- ① 課題把握と確実な見通しのための導入の工夫
- ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
 - 「言葉による見方・考え方」を働かせる授業 の展開
 - ・育むべき資質・能力の明確化
 - ・「言葉にこだわる」「言葉を吟味する」授業
 - 「考えの形成」の練り上げ
 - ・児童が理解した言葉を問い直し、思いや考え を深める授業
 - 「共有」できる場面の設定
 - ・他者の考えをしっかりと捉え、思考を深めたり活性化させたりする「共有」の場の設定

[CHECK]

- ① 子ども一人ひとりに対する教師の見取り
- ② 授業研究をもとにした検証(現職教育)
- ③ 各種テストの結果によるつまずきの把握、分析 (単元テスト、活用力育成シート、家庭学習など)

[ACTION]

- ① 見取ったつまずきに対する支援の検討 (補充的指導、発展的指導)
- ② 教師一人ひとりの授業検証に基づく授業改善

算数科

[PLAN]

- ① NRTに基づく「学力向上の課題と方策」策定
- ② ワークテストの達成率85%以上

[DO]

- ① 課題把握と確実な見通しのための導入の工夫
- ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
 - 「数学的な見方・考え方」を働かせる授業の 展開
 - ・育むべき資質・能力の明確化
 - ・数学的活動の工夫と充実
 - ねらいに迫る話合いのコーディネート
 - ・話合いの観点の明確化や形態の工夫
 - ・考えを共有させる働きかけや、考えを深める 問い返しの工夫
 - 自分の学びや変容を自覚できる場面の設定 ・適用問題や振り返りの工夫

[CHECK]

- ① 子ども一人ひとりに対する教師の見取り
- ② 授業研究をもとにした検証(現職教育)
- ③ 各種テストの結果によるつまずきの把握、分析 (単元テスト、活用力育成シート、家庭学習など)

[ACTION]

- ① 見取ったつまずきに対する支援の検討 (補充的指導、発展的指導)
- ② 教師一人ひとりの授業検証に基づく授業改善

『ふくしまの「授業スタンダード」』の自校化による授業改善

桑折町学力向上推進事業と の関連を図った取組

- 「授業の約束」の指導の徹底 (醸苦スタンダードの確立)
- 「徹底反復練習」の充実
 - ・読み・書き・計算の徹底反復による言語や数量スキルの向上
- 家庭学習における基礎・基本の 定着
 - ・家庭学習の手引きの見直しと習慣化
 - 家庭学習の手引きによる指導 (学年×10+10分)
- 自主学習の質・量を高める指導 ・自主学習ノート展の実施と評価 の工夫
- 家読運動による読書習慣づくり ・ノーメディアデーの設定と継続 した取組による基本的な生活習 慣の確立

「ふくしまの『家庭学習ス タンダード』」による取組

令和2年度

学校経営・運営ビジョン

桑折町立睦合小学校

学校の経営方針

- 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 とともに、その活用を図る学習活動の推進
- 3 学習指導要領を踏まえた指導の充実
- 共生の心を育み「いじめのない学校」をめざす
- 5 健やかな心身を育てる健康教育の推進
- 読書指導の充実
- 7 少人数の良さを生かした指導
- 指導力を培う校内研究・研修充実

教育目標

向上心を持ち 実践力のある児童の育成

~見あげる心 かがやく目~

第6次福島総合教育計画

"ふくしまの和"で奏でるこころ 豊かなたくましい人づくり

2020 桑折町総合計画 教育委員会重点事項 「生きる力」を育む学校教育の充実 「桑折町の15歳のめざす姿」

学ぶことが楽しい学校 (一元気な声がひびく学校)

す児は

うるおいのある学校

元気でねばり強い子供 (基本的生活習慣を身につけて、目標に向かい努力することができる) (望ましい学習習慣を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる)。 進んで学ぶ子供 思いやりのある子供 (自他を大切にする心を持ち、快くすすんで協力できる)



「元気でねばり強い子供」の育成 (健やかな心と体の育成)

1 基本的生活習慣を育成します。

〇心身の健康を保つ生活習慣の育成 (早寝・早起き・朝ごはん)

2 体力の向上を図ります。

- 〇「体力向上1校1実践」の実施
- ○運動身体プログラムの実践による 授業充実

3 健康・安全教育の充実を 図ります。

- 〇専門家による食育授業と健康管理
- 〇健康・安全・放射線教育の充実

「進んで学ぶ子供」の育成 (確かな学力の定着)

1「主体的、対話的で深い学び」を めざす授業を実践します。

- 〇「わかった・できた」を実感できる授業実践
- 〇学び方の定着
- 〇活用力・表現力を高める授業実践

(「授業スタンダード」・活用力育成シート)

2 自ら学ぶ学習習慣を育成します。

- ○家庭と連携した家庭学習の推進 (家庭学習スタンダード)
- 〇自主学習の工夫

(ノートづくりと展示会・自学コンテスト)

3 読書習慣を育成します。

- ○学年必読書の設定と読書奨励
- ○読書活動の充実(図書ボランティア・読み聞かせ)
- ○家読運動取り組みコンクール」の奨励

「思いやりのある子供」の育成 (豊かな人間関係づくり)

<u>1 望ましい人間関係を育成します。</u>

- ○互いの良さを認め合う集団づくり
- 〇相手を思いやる心の育成
- 〇縦割活動, 異学年交流活動の充実

2 自他を大切にする豊かな心を 育成します。

- ○特別の教科「道徳科」の充実
- 〇命を大切にする指導の充実
- 〇自己肯定感・存在感の醸成

3 豊かな社会性を育成します。

- 〇体験活動の充実
- 〇地域との連携
- ○学校ボランティアの活用

特別支援教育の充実

〇個に応じた支援 〇関係機関・専門家との連携 〇通級指導

目指す教師像

- 〇 教育愛に満ちた教師
- 〇 専門性を磨く教師
- 〇 人間性豊かな教師

家庭との連携

- メディア教育の推進(町連携)
- 〇「家読(うちどく)」の推進(町連携)
- 積極的な情報発信(連絡メール)
- 学校へ行こう週間, 学校評価の実施

保護者の願い

- 安全で安心な生活を送らせたい。
- 〇 確かな学力を身につけさせたい。
- 基本的生活習慣を身につけさせたい。 0
- 健康で強い心と体を育てたい。

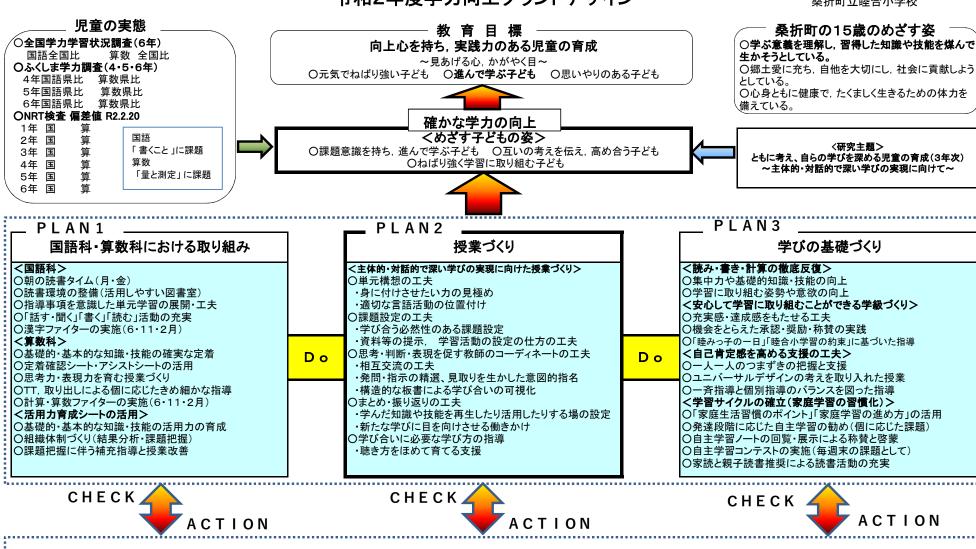
地域との連携

- 〇 ふるさと学習の充実
- 〇 ゲストティチャーの活用
- 〇 幼稚園や町内各学校等との連携

- 〇 地区参加の運動会
- 学校評議員会(年2回開催) 地域行事への参加奨励

令和2年度学力向上グランドデザイン

桑折町立睦合小学校



評価の視点①

- 〇3観点評価の実施
- 〇単元テストの分析
- 〇全国学力学習状況調査の分析
- 〇ふくしま学力調査の分析
- ONRTの分析⇒アシストシートの活用
- 〇活用力育成シートの活用

評価の視点②

- ○研究内容の共通理解と実践の累積
- 〇事前研究会での指導案検討
- 〇他校教員も参加の校内授業研究会
- 〇児童の発言、行動の見取りと累積
- 〇事後研究会よる授業の振り返り(写真の累積)
- 〇互見授業による学び合い

- 〇学校生活全般における見取りと累積
- ○家庭学習カード等の活用
- OQU検査の活用
- ○児童・保護者からの学校評価アンケート
- ○学校評議員からの意見

評価の視点③



学校経営・運営ビジョン 半田醸芳小の教育 2020 令和2年度



桑折町立半田醸芳小学校

児童数99名

桑折町の15歳のめざす姿

教育 目標

考える子(知) 思いやりのある子(徳) たくましい子(体)

【目指す学校像】

明日も来たい、楽しい学校(子供) 明日も子供たちのために勤務したい学校(教師) 通わせて良かったと言える学校(保護者) おらほのすばらしい学校(地域)

目指す子供像

半田プライドを胸に、ふるさとを愛し、高い志と強い意志をもち、 地域とともに学ぶ"半田っ子"

子供につけたい資質・能力の重点 「思考力・判断力・表現力」 「コミュニケーションカ(対話・人間性)

考える子

知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」 人間性」の育成

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ・「読み」「書き」「計算」の徹底反復・活用力シートの活用
- 2 主体的・協働的な学びのある授業実践
 - 授業スタンダードの活用
 - 課題解決型授業の実施
 - ・「話す」「聞く」「書く」活動の充実
 - ・振り返りの時間の確保と充実 ノート作りの指導
- 3 特別支援教育の充実〉
 - ・合理的な配慮のある授業
- ・個別の指導・支援計画の作成
- 組織的な支援体制と関係機関との連携
- 4 外国語科・外国語活動・国際理解教育の充実
- ・外国語推進リーダー,支援員、ALTによる 効果的な指導
- ・外国語科・外国語活動の授業力向上のため の教員研修
- 5 読書活動の推進
- 読み聞かせの実施読書タイムの設定

《 信頼を基盤として、家庭や地域との連携を

○ 学校, 学年, 保健, 給食, 生徒指導等各種おたより

○ 学校ホームページによる保護者や地域へのタイムリ

○ 保護者,地域の期待に応える 開かれた学校づくり

○ 緊急連絡メール配信システムの有効活用

○ 学校評価を生かした、学校教育活動の改善

強化し、開かれた学校づくりの推進》

- ・家読の日の啓発
- 6 家庭学習の質的改善
- 家庭学習スタンダードの活用
- ・半田醸芳小家庭学習の仕方の活用

〈評価方法〉 口全国学調

- 口ふくしま学調
- □読書冊数
- □単元テスト 口百マス計算
- □漢字合格率
- 口自学ノート冊数
- □ NRT 検査
- □ 授業スタンダシートチェックシート





思いやりのある子

Will country

豊かな人間性の育成

- 1 安心して過ごせる学級づくり(いじめ・不登校含む)
- ・ 積極的な生徒指導の推進
- ・自己肯定感を高める指導
- ・いじめ、不登校の未然防止と早期発見
- 発達段階に応じた礼儀の指導
- ・正しい言葉遣い(敬語)
 - 二言あいさつ
- 返事・靴そろえ
- 道徳教育の充実を図る
- 考え、議論する道徳の授業実践
- ・道徳科授業の公開
- ・GTによる授業
- ・緑の少年団活動の充実
- 4 人権教育の推進
 - 人権教育を意識した各教科,総合的な 学習の時間,特別活動等の時間での指

〈評価方法〉 ロアンケートQU 口心のアンケート

- 口いじめ認知数
- 口いじめ解消数 □不登校児童数

□児童出席率

【児童の実態】

- まじめで責任感がある
- ・素直で優しい、元気、穏やか
- ・ 根気強い
- ・受身, 指示待ち



【保護者・地域の願い】

- ・思いやりのある子に育ってほしい
- ・家庭学習の習慣をしっかり身に付けてほしい
- ・挨拶や言葉遣いをきちんとしてほしい
- ・安全な生活を送ってほしい
- 確かな学力をつけてほしい
- 進んで読書をする子になってほしい

たくましい子

THE REAL PROPERTY OF THE PARTY OF THE PARTY

体力向上及び健やかな心身の育成

- 1 教科体育の充実と運動の日常化
- ・陸上運動系単元の指導の充実
- 体育アドバイザーの活用
- ・運動身体づくりプログラムの年間を通しての実施
- ・新体力テストの分析と重点的な取組
- 1学級1実践の取組
- 2 食育の充実
- ・GT, TT による食育授業の推進
- 親子でつくるお弁当の日などを通した保護者への啓発
- ・食育通信の発行
- 3 保健健康指導の充実
 - ・保健便り「ばんそうこう」、歯の保健便り 「歯っぴー通信」の発行
- 各学年での歯の衛生指導(学級活動の時
- ・フッ化物洗口の実施(毎週木曜朝)
- メディアコントロールの推進
- 4 防災教育の推進
 - 放射線教育の計画的・系統的な指導
- ・土砂災害, 浸水災害を想定した避難訓練
- ・児童引き渡し訓練の実施

- 〈評価方法〉 口新体力テスト
- □持久走•水泳 ・縄跳び記録会
- 口肥満度 口う歯率・治療率
- □朝食摂取率
- ロメディアコントロール調査
- 口生活アンケート

《半田ならではの特色ある教育活動・体験活動》

- 地域を知り、故郷「半田」に誇りをもち、地域の一員として積極的に関わろうとする態度の育成 \circ 個や集団の成長につなげる行事の運営 ○ 半田の歴史・偉人に関する学習の充実
- 人との関わりを大切にした交流活動の充実

(異学年,他校児童,醸芳幼稚園児,高齢者,地域との交流の充実)

《伝承文化継承》

- 口半田銀山祇園ばやし
- ※無形文化財指定
- ※学習発表会,町文化祭での発表
 - ≪環境学習≫ 口緑の少年団の活動 □森林環境学習 (低学年•中学年)



- 《ふるさと学》 口ほたる学習
- □だんごさし 口学校田
- 口半田銀山そば栽培 口西山城学習
- 口半田銀山歴史学習

《教職員の専門的な資質・能力の向上と

- 組織的な学校運営体制の構築》 ○ 全職員が目的意識と研修意欲をもった職務の遂行と学 校運営の積極的参画
- 教職員人事評価及び学校評価を中心にすえた教職員の 意識改革と教師力の向上
- 現職教育を中心とした自己研鑽と校内研修の充実によ る授業力の質的向上
- 服務倫理委員会を中心とした,不祥事絶無をめざす教 職員の高い倫理観と法令遵守の意識高揚、および不祥 事防止の徹底○ 教職員同士
- の信頼感やセーフティネッ トの役割の構築
- 働き方改革を意識した業務 改善により,子供と向き 合う時間の確保
- 口保護者アンケート □教職員時間外勤務時間
- 口服務倫理チェックシート

〈評価方法〉

〈評価方法〉

の計画的な発行

ーな情報発信

□ホームペーシアクセス数 □教育活動保護者アンケート

令和2年度 基礎学力向上に対する自校の取組 ~グランドデザイン~

- ◎児童の姿(現状と課題)
- 集中して学習に取り組み、学習の仕方が身についてきた。
- ICTや各種教材・教具・資料等の活用により、基礎的基本 的な知識・技能が定着してきた。
- 学んだ知識や技能を活用する力の育成。
- ともに学び合い、新たな学びに向かう力の育成。
- ※令和2年2月実施の学力テスト(NRT)の結果
 - 偏差值状況

全学年平均……国語53.4 算数56.0 教科総合 54.7

◎スローガン

「夢いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい」の半田っ子

- ◎目指す子供像(めざす姿)
- ○「半田プライドを胸に、ふるさとを愛し、高い志と強い 意志をもち、地域とともに学ぶ"半田っ子"
- ◎現職教育研究主題
 - ○研究主題「ともに学び合い、磨き合う児童の育成」
 - ~考えて、かかわって、深める授業の実践~2年次 学び合いの充実

桑折町立半田醸芳小学校

- ◎「桑折町の15歳のめざす姿」
- ・子どもの15年間の成長を見据えた教育
- ◎保護者・地域の願い~保護者へのアンケート等より~
- ・思いやりをもった子に育ってほしい。
- ・家庭学習や読書の習慣を身につけてほしい。
- ・挨拶や言葉遣いをきちんとしてほしい。
- 安全な生活を送ってほしい。
- 学力をつけてほしい。

		<u> </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
Р	わかる・できる授業づくり	「主体的・対話的で深い学び」による活用力の育成	学習サイクル(授業、家庭学習、朝学習)の確立	話し合い活動の充実
D	①確かな学力向上を目指す学習指導の充実 □新学習指導要領に対応した教育内容の改善 □思考力・判断力・表現力を高める課題解決 型授業 □個に応じた指導の工夫 □ふり返りの時間の確保と充実 ②学び合いを取り入れた授業づくりをする。 □「聞く」「話す」「書く」活動の意図的設定 □「桑折町・学びのスタンダード」の活用 □自分の考えを書く(描く)時間の確保 □基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる適用・習熟問題の工夫と時間の確保 □活用問題の工夫と時間の確保 ③ICTを効果的・積極的・継続的に活用する。 □電子黒板、デジタル教科書、書画カメラ、タブレット型端末の活用 □各教科におけるプログラミング教育の実践 ④特に支援を要する児童の指導を充実させる。 □担任と特別支援員との連携、通級学級	 ①子どもが自ら主体的に学ぶ授業作りをする。 (「主体的・対話的で深い学び」) □視点・目的を明確にした学び合いにより、自らの考えを広げ深める協働学習 □教師の説明7割カット □大体的・対話的で深い学び」を活用した現職教育での授業研究(年一人一回以上) ②各教科の言語活動を重視する。 「主体的・対話的で深い学び」をもとにした伝え合う活動の意図的設定 ③言語環境を整備し、活用する。	ルによる朝の時間の「ぐんぐんタイム(計算・漢字の習熟問題「活用力育成シート等の実施)」(週2回)・「ちょこっとタイム(補習の時間・・・月・水・木・金の昼)」 □授業と家庭学習を関連させる取組 □学習の足跡が見えるノートづくり(ノート展示、表彰) □アウトプットに重点(「話す」「聞く」「書く」活動の充実) ②保護者との連携・協力により家庭学習の習慣化を確立する。 □町共通の「家庭生活習慣のポイント」の活用(学習時間 小:学年× 10 分+α、学習内容など) □家庭学習スタンダード」の活用した学びの習慣化の確立 ③家庭・地域と連携した読書活動を充実させる。	②生徒指導の機能を生かした授業作りをする。 □学びの質を高める学習集団の育成 (学級経営) □自分の意見を言い合い、認め合える学習の場づくり ③子どもの思いや願いを実現するための話し合いを行わせる。 □特別活動・創意活動における話し合い活動を通した望ましい集団作り □低・中・高ブロックの「話し合いの仕方」の可視化と活用) □多様な集団との関わりや場面を設定した活動成果の発表や発信・ふれあいタイム(縦割り班活動)・児童会委員会の校内放送発表
С	①活用力育成シート(目標正答率 80 %以上) ② NRT 学力テスト (アンダーアチーバー 0) ③学期ごとの単元テスト、漢字テスト及び計算 テスト (正答率 80 %以上)	①現職教育の研究会で実践成果と課題を探る。 ②「主体的・対話的で深い学び」における児童の主体性・協働性についての成果を探る。 ③年間の読書量により、図書委員会が表彰する。 (低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊)	①学校評価のアンケートを行う。(学力向上関係 の項目について、達成している割合が 80 % 以上) ②自主学習のカードやノートに目を通し、励ましや称賛のことばを入れる。 ③読書アンケートによる評価を行う。	②話し合い活動の場や内容の全職員による検討、 情報交換を行う。
A	①成果の分析・評価と新たな課題の明確化 ②一人一人の課題にそった指導(上位児、下位児) ③多様な体験活動の充実と学びの検証	①授業者の自己分析と改善、次への実践 ②言語環境の整備改善と更なる充実 ③図書便りの発行	①集計結果の公表と啓発 ②読書活動、家庭学習の励行 ③学校と家庭とが一体になった取組への啓発	①話し合い活動とその実践の充実 ②担任による記録の累積 ③全職員の相互理解と実践



令和2年度 伊達崎小学校経営・運営ビジョン

桑折町 幼小・小小・小中連携

伊達崎小パワーアップ

笑顔あふれる人づくり

「社会に開かれた教育課程」編成

桑折町15歳のめざす姿 ~高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとする15歳 ~

(知)学ぶ意義を理解し習得した知識や技能を進んで生かそうとしている (徳)郷土愛に充ち,自他を大切にし社会に貢献しようとしている (体)心身ともに健康で,たくましく生きるための体力を備えている

教 育 目 標

心豊かな礼儀正しい子ども

よく考え本気で学習する子ども

「本気で学ぶ」

- ◇ 個に応じた学習指導を推進します。
 - ・インクルーシブ教育の視点を取り入れた授業
 - ・個々の学力の分析と、個別指導・支援の工夫
- **◇ 学びに向かう集中力を高めます。**
- ・「読み・書き・計算の徹底反復」(週4回)実施
- ・「家庭学習スタンダード」自己マネジメント力の向上の推進、学びの基盤固め
- ◇ 授業改善により、資質・能力を高めます。
 - ・町教委「授業改善・充実」の視点を基にした授業改善
 - ・「主体的・対話的で深い学び」をもとに授業改善
 - ・現職教育を中心とした授業研究実施と見方・考え方を 重視した授業に改善

「本気で読み書き」

- ◇ 特別の教科 道徳を要とし道徳性を培います。
 ・特別の教科 道徳の趣旨とねらいに沿った授業を実施します。(指導と評価の工夫・書く時間の確保)
 - ・授業参観等において特別の教科 道徳の授業を公開します。
- ◇ 心に響く体験活動・読書活動を推進します。
 - ・地域の体験活動を通して道徳性の育成を図ります。
 - ・縦割り班活動や各種行事により心を豊かにします。
 - ・読書タイム(週3回),毎月23日を家読による読書,読後の考えを書く活動を重点に推進します。

(人の気持ちがわかる児童へ)

◇ 地域の素材を意図的に活用し、授業を公開します。 ・地域の方々との交流や地域素材を生かした体験活動 を充実します。

明るく元気にやりとげる子ども

「本気で走る」

- ◇ 「生き抜く力」を育む教育を推進します。
 - ・「新しい生活様式」をふまえた新型コロナウイルス感染 症対策の徹底
 - ・感染源を絶つこと・感染経路を絶つこと・抵抗力を高めること
 - ・関係機関と連携した避難訓練・防犯教室による危険予知と回避能力の育成
 - ・災害対応に関する正しい知識を育てる防災・減災教育 の実施と放射線教育の充実
- ◇ 運動の日常化を推進します。
- ・運動身体づくりプログラムの自校化
- ・多様な運動の励行と、「あぶくまマラソン」・「なわとび」の生活化により持久力を向上
- ◇ 地域や機関と連携し健康教育を推進します。
- ・基本的生活習慣の確立(年2回の生活習慣アンケートの実施と保護者への説明)
- ・給食センター栄養士・町管理栄養士による「健康に関する指導」の実施

特別支援教育の充実

- ・通級指導による基本的な生活習慣の確立
- ・新設 特別支援学級の専門的手厚い対応
- ・特別支援教育のICT化への組織的対応と研修の充実
- ・通級指導・特別支援学級を特別支援教室と位置づけ

生徒指導の充実

- ・いじめを絶対に許さない。いじめられた子を守り抜く。
- ・不登校0をめざす。きめ細やかな初期対応
- ・非認知能力を育成する指導強化
- 「3つの約束」を徹底できる子どもの育成①あいさつ ②返事 ③くつをそろえる

(あいさつと返事の 伊達崎

多忙化の解消

- ・何事もチーム伊達崎小として対応にあたる体制強化 担任一人で絶対に抱え込まない。協力員 SC SSW等
- ・慣習にとらわれず自分たちの手で学校を変革する
- •研修の時間の確保(月2回程度 学びの共同体)
- ・定時退勤日の設定 ・業務改善をめざすためのトラブル未然防止

家庭・地域との学びの共有

児童・学校の見える化=ホームページの充実

- 【家庭】 ○「家庭学習スタンダード」自己管理マネジメント力を高める生活・習慣
 - ○ホームページ・学年だよりによる情報の発信

- OPTAによる取組 毎月23日「家読」の推進
- ○家庭訪問・学級懇談・個別懇談等の充実
- 【地域】 〇地域素材・人材による地域に根ざした教育の推進 ~伊達崎の後継者の育成~
 - ○幼稚園・他小学校・中学校との積極的交流 ○安全・安心できる登下校の見守り

★現職教育の推進★

【研究主題】

矢口

識

及

能

思 考

表

現

読

角军

等

- 「自ら考え, ともに学びを 深める子どもの育成」
- ~見方・考え方を生かし働かせる

/4

理科・生活科の授業では

- 学習展開の工夫 ~思考力・表現力を育成するために~
- ①「なぜかな」「ふしぎだな」という「問い」から課題を作り、意欲的に課題解決に取り組むことが できるようにする。
- ・科学的に探究しようとする態度 ・情報から「共通点」や「相違点」や傾向を見いだす力 ②自分の思考過程を論理的に表現することができるようにする。
- ・仮説を確かめるために計画立案する力 ・仮説を設定する力 観察・実験を実行する力
- ③友達と学び合い、自分の考えを深めることができるようにする。
 ・結果分析・解釈する力・仮説の妥当性を検討したり考察したりする力
- 領域の学年系統の確認
- ・系統性を踏まえ、児童理解・教材理解を基にした指導計画の作成
- 個を高めるための工夫

その他の教育活動では

○読解力向上のために

- ・学校(町)図書館の活用
- ・「家読」「読書活動」の推進
- ・「読書賞」の表彰による意欲向上
- ・ 読み聞かせボランティアの活用
- ○表現力向上を目指して
- ・発表集会の活用 (表現力の向上)
- ○体力向上を目指して(あぶくまマラソン等) ○地域素材を生かした体験活動の充実

「教科の本質から授業を組織」

{◎目標,内容,方法の違いを 踏まえた授業で,教科学力{



多様な文章との出会い(教材

国 語 科

- 声に出して読む活動(音読) ○目的的に読む活動(精読)
- ○書く活動(単位時間へ位置ぐ ○読み取った内容を様々な形式
- に自分の言葉でまとめる)話す・聞く活動の意図的設定
-)見通しを持てる授業展開 ○国語辞典の活用 (中高学年)
- ○ノート作り

゙めあて(青)」→「まとめ(赤)」

○めあてと対応させてまとめる

社 会 科

- ○目的意識を持たせた問題解 決的学習の推進
- ・効果的な資料の提示,活用 グラフや表の見方
- ・学び方、調べ方の習得 ・作業的,体験的な活動
- ・調べる視点の明確化 表現方法の工夫
- (わかったことを自分の言 葉で) 生活と結びつけて考える場
- を設定する ○教師の体験談で興味関心を

○数学的な見方や考え方 の育成を目指した問題

算数科

- 解決的学習の推進推進 ・見通しを持たせる工夫 (既習事項を生かす)
- ・自力解決 (自分の考えをもつ)
- グループ学習により意 見交換の場の設定 (考えを比較する)
- 生活と結びつけて考え る場の設定

○具体的な活動や体験(意味づ ○体力向上に向けて け)を位置付けた問題解決的

学習の推進 教科で得た知識の活用の場を 意図的に設定

生活科・総合的な学習の時間

- ・知的好奇心を喚起するような 教材の開発 ・弾力的な時間運用で学びの連
- 続性と楽しさを体感
- ・得た情報の整理・分析
- ・情報を自分の言葉でまとめた り表現したりする時間の設定 ○地域素材の積極的な活用

技能教科(音・図・家・体)

- マラソン・なわとびの継続 的な実施による持久力向上
- 運動身体づくりプログラム の取組
- ○ものを見る目、感じる心など 感性を養う時間の確保
- ○友だちとのかかわり合い、教え合 いの実践の場の設定

「教師主導型授業」から子どもの「主体的・対話的で深い学び」へ

「教えてもらいたい」意識から「自ら学びたい」意識へ

【「~学び続ける教師

- 成長し続ける教師へ ⟨◎児童にとっては一生に一度⟩ しかない大切な時間
- 【◎「教えのプロ」としての自

-)児童の問いを生かす ○児童の意識に目を向けた発問 ○明確でわかりやすいもの ○中心発問と指示発問の使い分
- つ単位時間の指針 け(発問の精選) ○思考へ導く発問 ○児童の言葉でまとめる
 - ○思考をゆさぶる発問

発

問

- ○児童の思考を予想しておく
- ○黒板は教師のノート(常に整 然と)

書

○「めあて (青)」と「まとめ (赤)」は必ず

板

- ○板書の構造化(児童の考えの 集約と焦点化) ○色チョークの使い方
- ○話し合い(言語活動)の場 の設定

学び合いの場の設定

- つなぎ言葉 互いの考えのよさ
- ・認める,価値づける
- ○聴く力、話す力の育成
- ○自分の考えを表現する工夫 ・根拠 ・議論 ・説明
- ○児童を引きつける話術 ○身近なもの本物を教材に

教師の姿勢は

- ○「授業の約束」の徹底
- ○ICT 電子無りの有効活用 ○既習事項や学習内容を確 認できる掲示物の工夫
- ○自己肯定感の向上(励ま しと賞賛)

県施策「学びのスタンダード」、町教委「授業改善・充実の視点」を基にした授業力向上 「ユニバーサルデザイン(UD)」の視点を取り入れた授業改善と工夫 学習の土台

づくり

基礎・基本の定着と集中力向上のための「読み・書き・計算の徹底反復」学習の推進

道徳教育の充実(教育活動全体を通して)

学級の土台 づくり

「子どもの意識に目を向ける」

- こんなこと調べたい ・今,何を勉強しているの?
- 何を考えるの?
- 考える教材は?
- 時間がもっと欲しいよ!
- 発表したいよ! ・考えを生かしてもらえたよ 等

読解力と基礎学力の確実な定着に向けた取り組み

-)読書活動の推進(読書推進活動,PTAと連 携した家読の推進、ノーメディアの推進)
-)個に応じた学習指導(授業の中で、授業外で) ○既習事項が振り返られる掲示物の工夫
- ○スピーチ (朝の会・帰りの会) 「読み・書き・計算の徹底反復」活動)定着確認、フォローアップシートの活用

○地域と連携した体験活動の充実

○道徳の時間は

- ・身近な出来事を資料に(生活から価値を見出す) ・体験を生かす、体験に生かす授業の実施
- ○指導の重点化と教育活動全体を通して ・行事とリンクさせ、実践の場を確保する
- ○内面まで浸透→道徳的実践力の育成(学級経営の基)
- 「話し合い活動」を重視
- 発達段階に応じた話し合いの指導
- 自分の意見や考えを必ず持たせるための手立て、 題材の工夫

学級活動の充実

- 相手の意見や考えを聴く(自分の考えと比較す る)
- ○話し合いの結果を実践へと生かす場を設定する (○○集会等)→満足感を持たせる



家庭への豊かな働きかけ 「家庭学習スタンダード」「家読」の推進のための啓発活動 (「伊達崎小学びのスタンダード」の推進、「PTA」との連携)

令和2年度 桑折町立醸芳中学校 学校経営・運営ビジョン

<生徒の願い>

- いじめのない学校にしたい。
- 進んであいさつができるようにしたい。
- 明るく活気のある学校にしたい。

<保護者の願い>

- 学力を向上させてほしい。
- 進路指導を充実させてほしい。
- いじめがないように指導してほしい。
- ねばり強い人間に育ててほしい。

<地域の願い>

- ICT機器などを十分に活用し、時代に あった教育を進めてほしい。
- 不登校生徒への支援を十分に行ってほし い。

~高い志を持って、自分の将来を切り拓こうとしている15歳~

知 … 学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。

徳 … 郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献しようとしている。

体 … 心身共に健康で、たくましく生きるための体力を備えている

【教育目標】

自立 ~ 自ら学び、考え判断、行動し、自分を高める生徒 (知)

利他 ~ 思いやりをもち、協力して、他者や社会のためにつくす生徒 (徳)

健康 ~ 命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒

努力 ~ 何事にも真剣に取り組む生徒

(体)(態度)

【目指す学校像】

- 生徒が夢や希望、志をもち、その達成に向けて努力している学校
- 生徒一人一人の学力を伸ばす学校 ~アンダーアチーバー10%未満~

<生徒の実態>

- よさ 素直で何事にも一生懸命取り組む。
 - 友達思いで優しい。
 - 真面目でルールを守ろうとする。
- 課題 自分の考えをもち表現すること。
 - 高い目標に向かって努力すること。
 - 〇 自主性
 - 集団として高め合うこと。
- <醸芳中学校の課題に向き合う教師像>
- 絶えず研究と修養に努める教師
- 授業改善に努める教師
- 部活動に熱心な教師
- 師弟同行
 - より良きモデルとなるよう努める教師

今年度の重点事項

自立(知)~ 学ぶことをとおして自分の人生を切り拓く

○ 生徒が互いに高め合う授業をします

- ・ 問題解決型の授業の構想,実践 「見通しをもつ」「自分の考えをもつ」 「グループ・学級で話し合う」「内容や方法を振り返る」
- ・『なびタイム』(まとめ・振り返りの時間)の充実

〇 学力を定着・向上させます

- 学習の5つの約束の徹底
- ・ わかるまで教え、できるまで支える学習指導
- ※ 繰り返しの学習の充実と基礎力テストの実施
- ・ 個に応じた家庭学習の習慣化の指導(5つのステップ)

〇 読書活動を充実させます

- ・ 朝の読書の充実
- 読書習慣強化週間の取組

○ 志の教育を系統的計画的に進めます

- ・ 「職業人に学ぶ」「職場体験」「高校調べ」や入学式, 立志式,卒業式等の学校行事の充実
- ・ 総合学習や学級活動を中心とした生き方を考える教育 の充実

利他(徳)~自分を見つめ他を思いやり行動する

O 規範意識を高め、自主性を育みます

- ・ TPOに応じた行動の指導の充実
- ・ 朝自習,落ち着いた給食,無言清掃,あいさつの奨励
- ・ より良い醸芳中学校を目指す生徒会活動の活性化

○ いじめ、不登校に丁寧に対応します。

- ・ 道徳教育を中心とした思いやりの指導の充実
- · QUテストの意図的効果的な活用
- ・ いじめの早期発見,早期対応
- ・ 組織をあげた不登校への対応
- ・ 家庭と協働した生徒の自己肯定感を高める働きかけ

○ 心の悩みの解決に努めます

- ・ アンケート調査や教育相談による悩みや問題の早期 発見・早期対応
- スクールカウンセラーによる面談の実施

〇 地域との交流を深めます

- ・ サマーショートボランティア,地域清掃活動への積 極的な取組
- ・ 郷土の歴史を学ぶ学習の充実

健康(体)~命を大切にし健康を増進し体力を高める

○ 健やかな体づくりと体力向上を図ります。

- ・ 目標を明確にした保健体育の授業など体力向上の 取組
- ・ 部活動の充実
- 校内駅伝競走大会の実施
- 確実な保健検査の実施
- ・ むし歯の治療、肥満の解消への取組

〇 健全な生活習慣を形成します

- 学校給食を活用した食育の推進
- ・ 「保健だより」「生活習慣改善に向けた授業」など による健全な生活習慣の重要性の啓発
- ・ 「生活ノート」を利用した生活習慣の個別指導の充実

○ 命を守る安全教育を推進します

- ・ 飛び出しの防止と安全な自転車の乗り方に重点を 置いた交通安全教室の実施
- 防災教育,放射線教育の充実

- 〇 保護者との連携を強化し、協力して生徒の成長を支えます。
- 保護者参観(授業参観, 醸中祭, 三者面談等)の充実
- ・ PTA委員会活動の充実・ 学校だより、学年だより、保健だよりの定期発行・ 学校ホームページの更新

生徒の実態

- ・ 素直で明るく、真面目な態度で学習や諸 活動に取り組む。
- ・ 学習意欲や基本的な学習内容の定着について、個人差が大きい。
- ・ 反復的な演習には、一生懸命取り組むが、 思考を伴う問題は避ける傾向がある。

家庭・地域の実態

- ・ 半田山の麓に広がる自然豊かな環境である。
- ・ 桑折、半田、睦合、伊達崎の4学区から通学しており、大多数の家庭は共働きである。
- ・ 学校は、地域社会の文化の中心的な役割をも ち、地域住民の学校教育への参加・協力が得ら れている。

授業づくり

- (1) 4つのステップを活かした問題解決的な学習問題解決型授業において、「学習の見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「ペア・グループ・学級で話し合う」「学習内容や学習方法を振り返る」の4つのステップを基本として授業を展開する。
- (2) 学級全体における話合いのコーディネートの工夫話合いの論点を明確にし、生徒の考えに対して、学級全体で共有するための働きかけや考えを深めさせる問い返しやゆさぶりを行う。また、新たな考えを引き出したり、広げたりすることで深い学びを促す。
- (3) まとめ・振り返りの工夫 生徒が授業で何がわかっ

生徒が授業で何がわかったか、何ができるようになったかなどを確認するとともに、自身の学びの過程を振り返り、学習の価値を自覚させることで新たな「問い」を生み出す。

令和2年度 学力向上グランドデザイン

教育目標

自立 利他 健康 努力

研究主題

主体的に学習に取り組み、学び合い高め合う授業の創造 (2年次)

本年度の重点目標

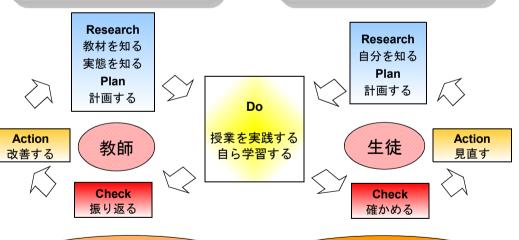
- 学級全体における話合いのコーディネートの工夫
- まとめ・振り返りの時間(なびタイム)の工夫について

【到達数値目標】

- ・アンダーアチーバー10%未満(NRT)
- ・各種学力テストが全国平均を上回る

授業スタンダード

家庭学習スタンダード



確かな学力

自己マネジメントカ

めざす生徒像

〇主体的に学習に取り組み、学び合い高め合う生徒 〇家庭学習の習慣が身についている生徒

桑折町立醸芳中学校

県の基本目標

・ 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

桑折町の15歳の目指す姿

- 知:学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。
- 徳:郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献し ようとしている。
- 体:心身ともに健康で、たくましく生きるための体力を備えている。

幼小中連携

・ 幼小中の連携協力による学力向上とよりよい 学校生活習慣・家庭生活習慣の確立

基盤づくり

- (1)授業における学習規律の徹底
- ①朝の読書・朝自習の時間の充実
- ②「学習の5つの約束」の励行と強化期間の実施
- ③「パワーアップ期間」の実施
- (2) 基礎・基本の確実な定着の指導
- ①校内学習テスト(漢字・計算・英単語)の取り組み
- ②活用力育成シートの実施と活用
- ③英検、漢検、数検等への挑戦奨励
- (3) 家庭学習における学習方法の確立と習慣化
- ①自主学習ノートの取り組み
- ②家庭学習時間(平日)1年80分2年90分3年100分の習慣化
- ③「家庭学習の5つのステップ」の励行
- (4) 安心して学べる学級、学習集団づくり
- ①生活ノートを利用した信頼関係の構築 ②Q-Uテストの実施とその分析活用
- (5) 落ち着いた学校生活の醸成